

としないものも含まれる。以下、順に遺構の特徴を述べる。

石列1

石列1はSB03などの建物群の北側に位置し、区画A西辺と直交して交差する石列である。東西に5.8mの長さをもつ。結論を急げば、この石列1は板列1と組み合う遺構で、SB02・SB04とSB03の間に盛り土による整地を行った際の境界、いわゆる土留めの遺構と考えられる。すなわち、SB02とSB04の2棟の建物はSB03より後に建て加えられたものであり、その際に地盤が低い部分を造成することによって平坦な区画を拡張していることが土層断面の観察より明らかになっている。石列1と板列1はその造成範囲のそれぞれ北端と南端を画する遺構と判断される。

石列1は加工の施されない丸太材1本と面を立てた板材2本を横に敷き並べ、その北側に接して20~40cmの亜円礫を横長に1列並べる。板材・丸太材の南側にはブロック状の構造を残す人為的な客土が盛られており、この中には須恵器壺の高台部分などが数点含まれていた。この盛土の上面には10cm大の角礫が敷かれている。この礫は残存状態が悪いが、上面を平坦に掘り、隙間無く計算して敷かれたもので、地覆石に近い外装設置とみられる。残存しているのは石列1に近い箇所だけであるが、本来はさらに南側に広く敷かれていたもの可能性がある。

石列1は区画Aの上に乗っており、石列1が後から加えられたものであることが明らかである。石列1の東西端は本来のままの姿であり、石列は途切れで終わっていたまとみられる。平面図では表現しにくいが、石列を境に南側が高く、北側は段差をなして低くなっている。この段差の高低差は東西端にいくにつれ小さくなり、次第に解消されていく。これは造成がおこなわれる前の地形において、SB03の西側に南北方向にのびる低い地形があったためとみられる。その「低い地形」とは区画A西辺によってつくられる溝状の段差のためであったことが推測される。

区画Aの西辺は、本来は石列1より南側まで連続していたと考えられるため、この部分に東西方向のトレンチを設定して掘り下げたが、残存する石材を確認できず、また明瞭な石材抜き取り痕跡を確認することもできなかつた。おそらく石材は抜かれ、その後に造成がおこなわれると想定されるが、その点については「否を明確に示すことができない。よって、区画Aの西辺が本来どのように連続し、区画全体がどのような平面形をもっていたかという点についても、不明である。

板列1

板列1は上記の石列1と組み合うと推測される上留めの遺構である。SB05の北辺に接するように配置されており、板列の北側が造成土で盛り上げられて高く、南側が段差をもって低くなっている。この造成土はSB05の柱穴に被っている。したがって、造成はSB05の建設時より後、すなわちSB05がすでに建っている状態でおこなわれたことが判断できる。調査時にはSB05北辺の柱穴は北側半分が被覆されて壠方プランが見えない状態であった。このことを積極的に評価すれば、SB05の北辺に接するところまで造成がおこなわれることになる。

板列は90cmと160cmの2枚を立てた状態で横長に置き、その北側に3枚の板が寝た状態で並んでいる。立った板には特に留め木となる打ち込みなどは無い。寝た状態の板は造成土上面に倒れるように出土しており、本来の位置・姿勢であるか明らかでない。

石列2

石列2はSB03の西側に接して南北に延びる石列で、板列1の手前で東に直角に折れて途切れる。この途切れ箇所から南に筋を連れて、さらに石列3が東西に並んでいる。

石列2の北端は石列1に接する付近にあり、石列1と交わる箇所から設置されていた可能性がある。ただし、石列のうち北側4mほどは石材が小さく列が乱れており、明瞭なものではない。小さな礫が軸をもって固まっており、石材同士に明瞭な高低差がなく、ほぼ同一面に敷かれたような状態である。これらは石列というより、石列1の南側で確認されたと同じ様の、軽便土上面に敷かれた地覆石様のものの可能性がある。列としての構造が整然としているのは南側の部分で、30~50cmの亜円礫が5個、直線上に並べられている。これらの石材は他の石列

や貼石区画と同様に石材を横長に用いて並べられており、西側の面がそろえられている。西側の面はわずかに傾斜をもってそろえられており、本来はこの石列を境に西側が一段低く造作されていたことが推定される。つまり、石列1と板列1の項で触れたように、SB03の西側、SB02・SB04の間の空間は盛り土によって造成されており、この石列2を境にその西側が造成土の範囲と考えることができる。とすれば、石列2は造成による平坦面拡張がおこなわれる以前に機能していた区画であり、造成時にはほとんどを埋め頃されていたと考えられる。実際に、調査時には建物発掘後の湿地堆積土（50層）を除去したところ、この石列2は遺構面から上端がわずかにぞいている状態であった。

石列2はSB03の西側わずか100cmの間隔をもって建物と平行に並んでいる。南端で東に折れる平面形からみても、SB03を凸画し、これを閉む意図をもって配置されたものであろう。区画Aの頃で検討したようにSB03の正面が東向きであったと仮定すれば、この石列2は建物の背面を区切っていたものということになる。

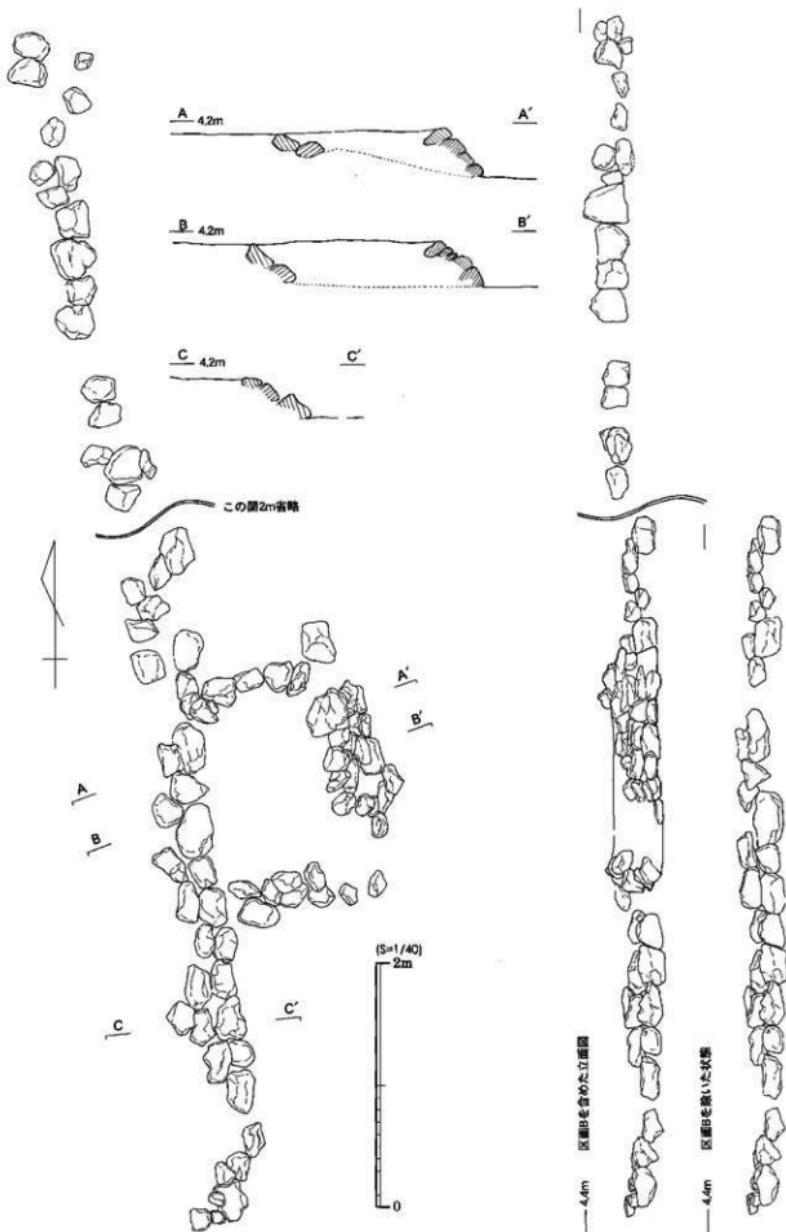
石列2が明顯な人為的な配列として確認できるのは上記の石5～6個分だけであり、その南側では再び不明瞭になる。列も若干の食い違いがあるようである。小さめの疊が幅をもってまとまり、石列2につながるように観察されたため、同の右列として扱うが、正確に同様の構造であったものかは断定できない。この不明瞭な石列2南側はSB05（板列1）にぶつかって東に折れる。この折れ曲がった東西方向の部分は、30～40cmの比較的大きめの石を5個ほど、整然と並べられている。1.8mほど東に延びて石列は途切れる。

石列3

石列3は、石列2が途切れる東端から80cm南にずれて、東内に1.4m続く石列である。石材は30cm大で5個だけ並んでおり、面をそろえたり横長に石を配したりするような手法はみられない。なお、SB03の中心柱を通る南北中軸線を延長すると、ちょうど石列2の東端と石列3の西端に一致する。この線を境に石列は食い違うため、SB03との関係において配置を計算されたものと推測される。この石列を境にしてどのような高低差があったものか明確にし得なかったが、右列により人の動線が規定されていたとすると、区画外からSB03に接近する人の動きを規制する造作であった可能性もある。つまり、右列が人の通行を遮るものと考え、石列2と石列3の間の石が無い部分を通路と見立てるに、南から建物に近づこうとする場合に一旦石列2に当たって東に折れ、石列3との間を東に進んで再び北に折れて建物に至る、という図式である。建物への直接的接近を忌避する観念的造作と見れば、この建物SB03の神聖性を示す特徴と考えることも可能であろう。区画Aなどの貼石による囲繞、隔絶性と併せ、一連の遺構群を神社施設と考える上で重要な手がかりとなる。ただし、この石列はたかだか20cm以下の高さを持つもので、実際の人の動線を規定するほど厳然とした遮蔽ではないし、右列と組み合う棚などの施設も設けられていない。またSB03の正面観を南方と考えた場合、区画Aの中での配置の偏りなど説明できない点がある。SB03の南側には後述する南側木柱群が密集して建てられていることもあって、儀礼時に南側から人が接近するような動きを想定しにくいが、石列2と石列3の構造上の特徴には注意しておく必要があろう。



第46図 方形貼石区画全体図



第47図 区画B実測図

写真図版四七 奈良・平安時代の遺構／IV区／方形貼石区画



区画Aと建物群 全景（北西から）

写真図版四八 奈良・平安時代の遺構／IV区／方形貼石区画



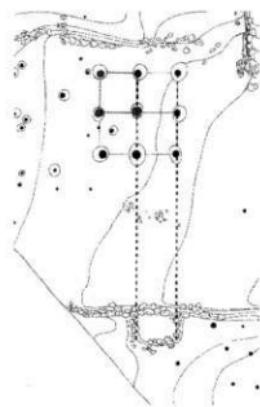
全体航空写真（上が北）

写真図版四九 奈良・平安時代の遺構／IV区／方形貼石区画



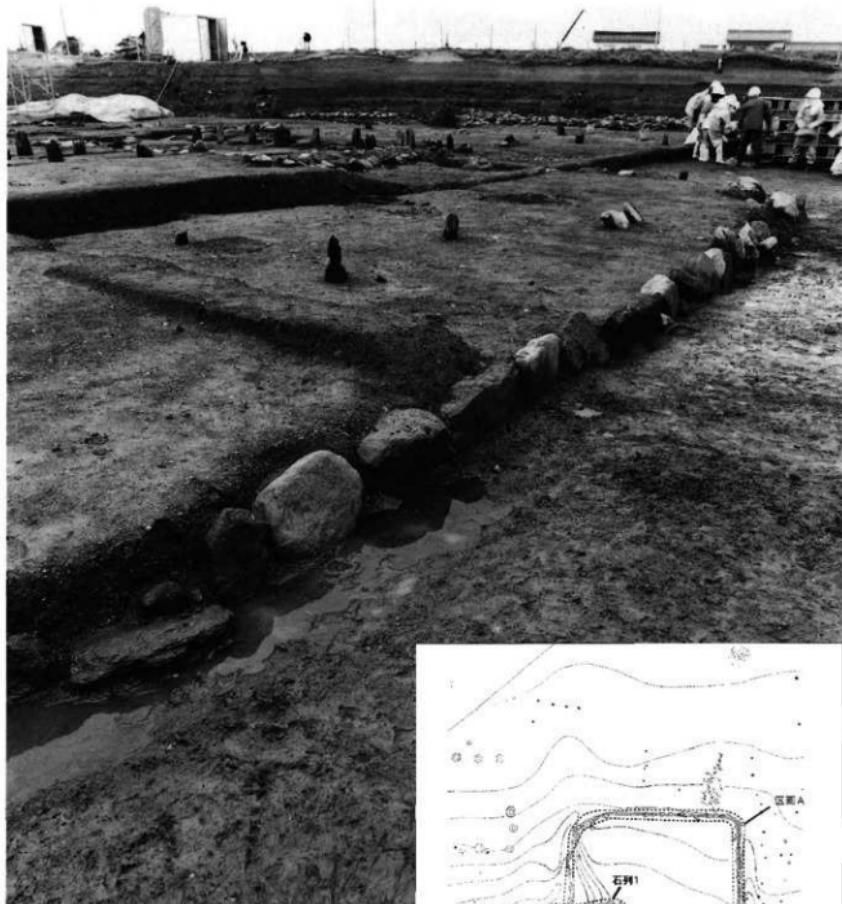
区画B（手前）と建物跡（東から）

写真図版五〇 奈良・平安時代の遺構／IV区／方形貼石区画



区画BとSB03の位置関係（東から）

写真図版五一 奈良・平安時代の遺構／IV区／方形貼石区画



区画A 北辺（北東から）

写真図版五二 奈良・平安時代の遺構／IV区／方形貼石区画



区画 A 部分

上左：北辺（西から）
上右：東辺（南から）
下：東辺（南から）

写真図版五三 奈良・平安時代の遺構／IV区／方形貼石区画



上：北東から
下：北から

石列 1

写真図版五四 奈良・平安時代の遺構／IV区／方形貼石区画



石列 1

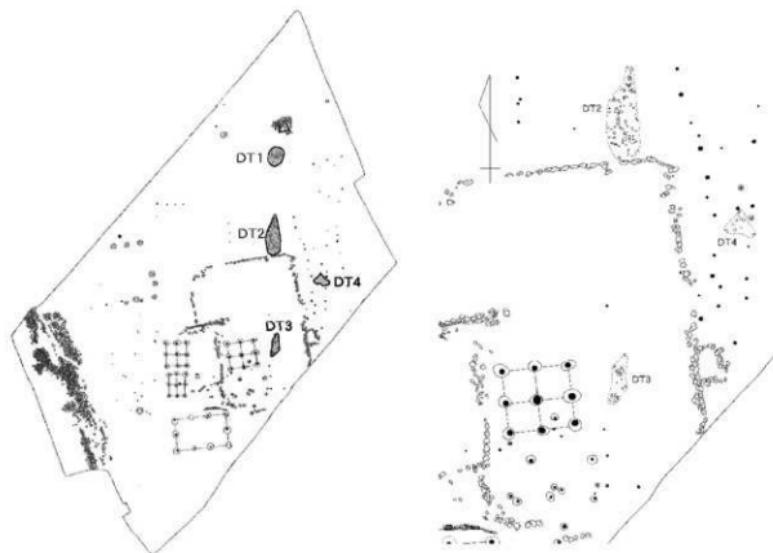
上：北西から
下：西から

第3節 土器溜まり遺構

IV区では土器が集中して出土する遺構を4箇所で確認している。調査時には土器溜まり(DT)1~4と呼称した。以下、DTと略称する。DT1、DT2、DT3の3つは8世紀中頃のもので、古代の遺構面である6層上面に堆積しており、5B層・5C層を除去した段階で検出した。DT4のみは一段階占く、古代の遺構面より下方、7層中に形成された土器溜まり遺構である。7世紀前半の土器を中心とするが、8世紀中頃のものを含む。

1. 上器溜まり(DT)1~3の位置と層位

DT1~3は独立した遺構であるが、一直線上に並び、25mほどの間にほぼ等間隔で位置している。この位置関係からみて、3者は南北方向に延びる一連の溝などに関連するものではないかと当初考えた。DT1の北東2mの地点には井戸跡SE01があり、ここから南へ導水する溝の埋土に土器が埋没しているとすると、遺構の配置が理解しやすいからである。DT2とDT3は南北に細長い平面形をしており、こうした印象をさらに強くするものであった。ところが、こうした想定を確認するために土層断面を観察したり、溝の平面プランの検出作業をおこなったりしたにも関わらず、3つの遺構を繋ぐような溝などの痕跡は全く認められなかった。土器片の垂直分布をみても、溝中に堆積したような偏りがなく、ほとんど高低差なくほぼ一面に散布されたような状況であった。こうした所見から、3つの土器溜まり遺構は配置になんらかの関連性が認められるものの、ひとつの溝などに伴うものではなくそれが独立した遺構と判断される。また、個々の土器溜まりについても、堆積の厚さは非常に薄く20cm程度で、深さをもつ土坑などの掘り込みに伴うものではない。遺構面上の浅い凹地に、人为的に廃棄・集積されたことによって形成されたものと考えられる。



第48図 土器溜まり遺構の位置と名称

2. 土器溜まり1(DT1)の詳細

位置と規模、層位

土器溜まり(DT1)はIV区の北東隅近くに位置し、井戸跡SE01の南西2mの地点で検出された。東西1.5m×南北1.6mの範囲に、比較的残存状態の良い土器片約120点余りが密集して出土している。土器溜まりが形成されているのは建物群などから離れていた遺構面の直上で、基本層序の6層上半にあたる。この土器溜まりを直接被覆するのが湿地堆積による遺物包含層である5B層(9世紀中葉～末)。

残存状態と出土位置

含まれていた土器は須恵器蓋壺が大半を占める。残存率1/2以上の大きな破片が多い。DT1の上部は遺構形成後にいくぶん削られており、本末はもう少し高い位置まで土器が堆積していたことが考えられる。残存状態が良く完形に近い個体は、わずかながら低い位置から出土している。比較的高い位置から出土した個体は残存状態が悪いが、これは地表面に露出していたことによる影響や、二次的な削平を受けた結果であり、本末はほぼ完形に近い状態で廃棄されていたと推測される。個々の出土位置に有意な位置関係は見出しがたく、雑多な機種が混在している。南西側では20cm人の踝も含まれていた。

遺構の形状

垂直分布をみると、全体にはほぼ水平に堆積しているが、わずかに西が高く東が低い。南北はほとんど傾斜ない。全体にごくゆるやかな傾斜があるものの、堆積下面も凹凸なく横一線に堆積している。全体のなかでの高低差は最大で15cmあるが、ほぼ一面に散布している状況であった。ただし個々の土器片の出土姿勢をみると、必ずしも床面に伏せた状態ではなく、而を立てた姿勢や大きく傾いた姿勢で出土するものが多くあった。このことからみて、水平な地表面にばらまくような廃棄行為ではなく、わずかながら窪んだ地形の中に集積するような廃棄であったことが推測される。こうした出土状況はDT2やDT3の土器片が水平に伏せた状態であったのとは異なる。

器種

DT1に含まれていた遺物を第51図に掲載した。須恵器の蓋壺が半倒的に多く、図化できたもので壺蓋10点、壺身14点あった。また少数ながら赤彩土師器皿も含まれている。煮炊具は非常に少なく、土師器甕は破片が含まれていたものの量は1個体分にも満たず、土製支脚や移動式甕は含まれていない。貯蔵具・大型容器の類についても数は少ないが、須恵器甕は29に図化した口縁部があるほか、体部破片が一定量含まれ、30の鉢なども認められた。

遺構の時期

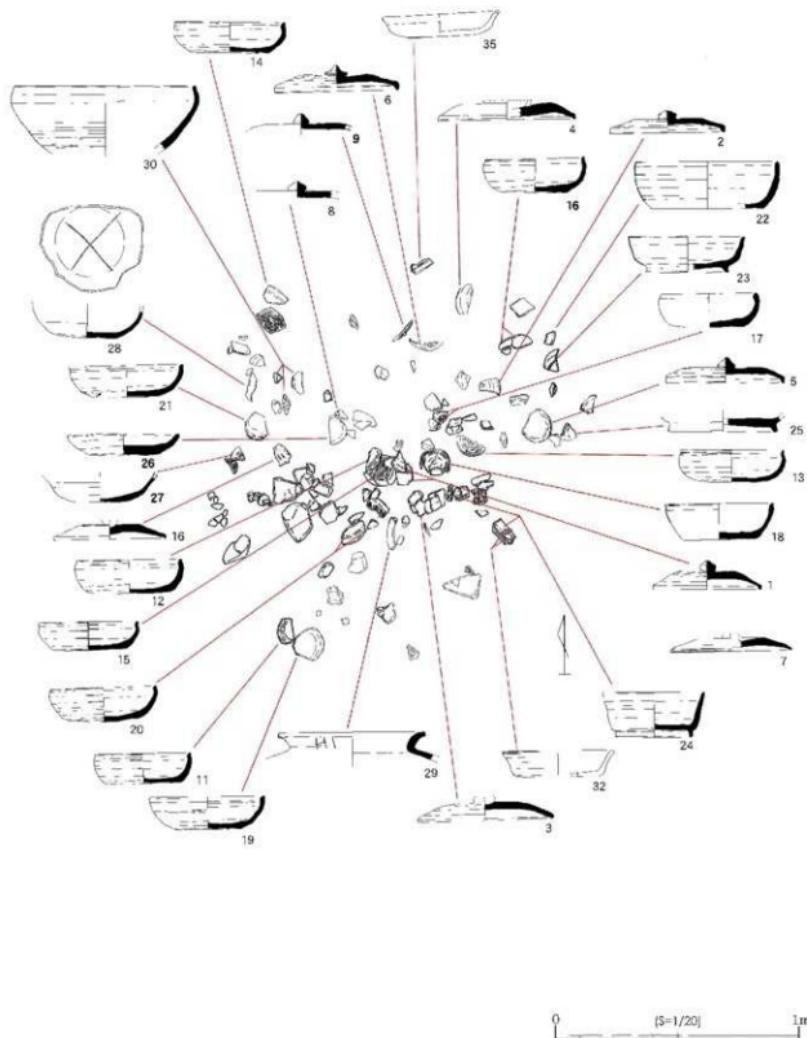
土器溜まり遺構の形成状況からみて、これらは建物群など一連の遺構が機能していたのと同段階に堆積したと判断される。主体であった蓋壺は型式的にほとんどばらつきがなく、比較的短期間における組成、強いて言えばある一段階に使用された一群とみてよい。その年代は8世紀中頃に求められ、これらを被覆していた5C層に包含されていた土器型式相(古いもので8世紀後葉に中心をもつ)より一段階古い。

まとめ

以上をまとめると、DT1は祭祀施設としての性格が想定される一連の遺構群と同時期に廃棄された土器廃棄遺構で、ある一単位の飲食行為に伴って使用されたもの可能性がある。器種は蓄膳具である須恵器蓋壺が大半で、時期は8世紀中頃のものである。



第49図 土器溜まり1(DT1)実測図



第50図 土器溜まり1 (D T 1) 土器出土位置図

写真図版五五

奈良・平安時代の遺構／IV区／土器溜まり1（DTT1）



土器溜まり1 全景

写真図版五六 奈良・平安時代の遺構／IV区／土器溜まり1（DT1）



1



2



3
土器溜まり1 部分



写真図版五七 奈良・平安時代の遺構／IV区／土器溜まり1（DT1）



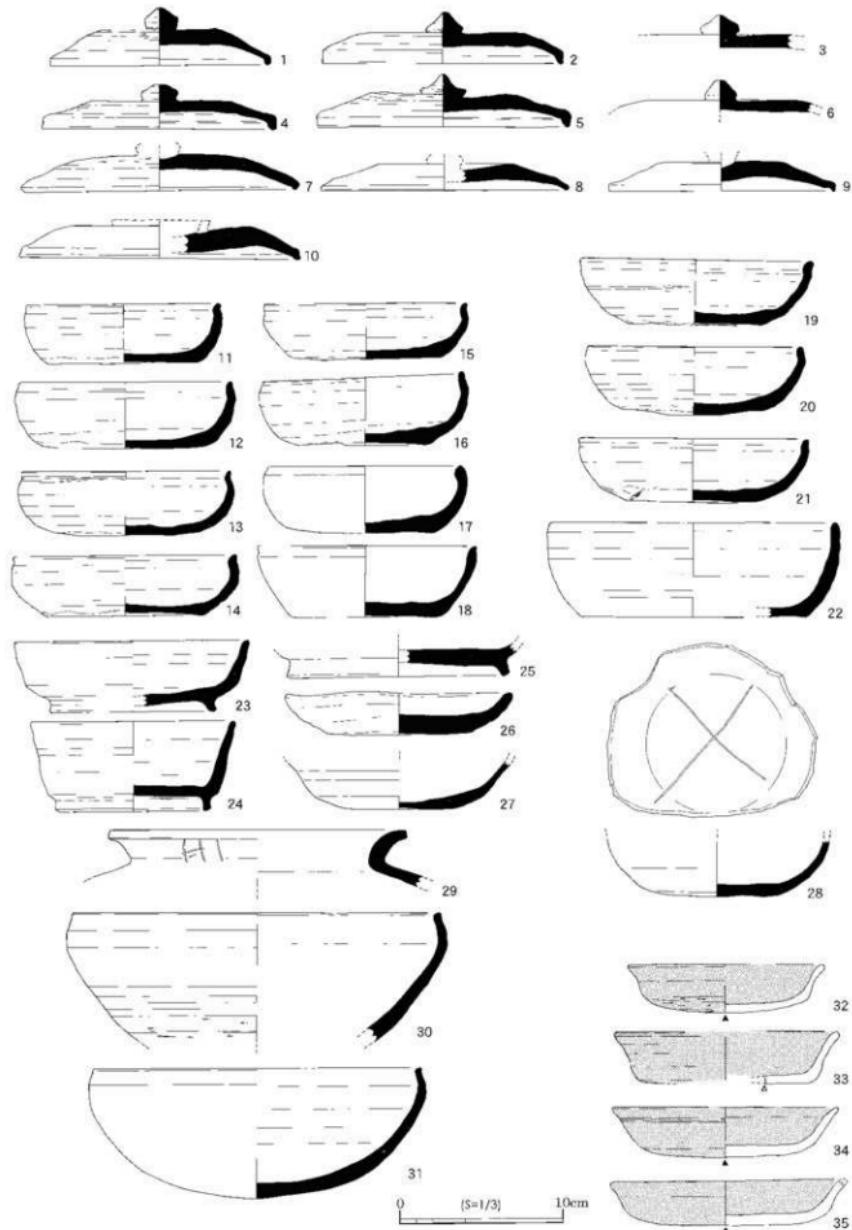
土器溜まり1 部分

第10表 DT1出土遺物 観察表①

番号	種別	器種	口径	底径	基高	残存率	調査	色調	施文・備考
第51回									
1	須恵器	蓋	(13.1)		3.55	全体の50%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：口縁部・頂部回転ナデ、肩 内外面：青灰色1 黒ヘラケズリ後ナデ		
2	須恵器	蓋	(14.1)		2.75	全体の60%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：口縁部回転ナデ、頂部ヘラ ケズリ後ナデ		
3	須恵器	蓋	(16.3)	(16.8)		全体の25%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：口縁部回転ナデ、頂部回転 ヘラケズリ		
4	須恵器	蓋	(16.6)	(17.0)		全体の20%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ	内外面：青灰色2 外面白色自然釉	
5	須恵器	蓋	14.6		3.15	全体の75%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：口縁部回転ナデ、頂部回転 ナデ後ナデ		
6	須恵器	蓋	(15.1)		3.3	全体の25%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：口縁部回転ナデ、頂部回転 内外面：青灰色1 奈良後回転ナデ		
7	須恵器	蓋	(14.8)	(15.0)		全体の25%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ	内外面：灰色1	
8	須恵器	蓋				小判	内面：ナデ 外面：回転ナデ	内外面：灰色2	
9	須恵器	蓋				全体の相	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ	内外面：灰色1	
10	須恵器	蓋	(13.6)	(13.8)		全体の25%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ	内外面：灰色1	
11	須恵器	坏	(11.6)	(9.0)	3.05	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色1 切り		
12	須恵器	坏	(12.8)	(9.9)	4.15	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色2 切り		
13	須恵器	坏	(12.7)		3.95	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色1 切り	口縁部に1条の沈線	
14	須恵器	坏	13.4	9.5	3.75	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：青灰色1 切り		
15	須恵器	坏	12.3	9.1	3.4	ほぼ完形	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：青灰色2 切り		
16	須恵器	坏	12.9		4.25	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：青灰色1 切り	内外面：白色自然釉	
17	須恵器	坏	(11.2)	9.0	4.1	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：茶褐色1 切り		
18	須恵器	坏	(13.2)	8.5	4.45	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：橙褐色5 切り		
19	須恵器	坏	(14.2)	(8.0)	4.0	全体の70%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：青灰色1 切り		
20	須恵器	坏	(13.1)		4.2	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：青灰色1 切り	内外面：青灰色1	
21	須恵器	坏	(13.8)	(7.9)	3.9	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：青灰色1 切り		
22	須恵器	坏	(17.4)	(13.7)	5.8	口縁～底部 全周の10%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：青灰色1 切り		
23	須恵器	高台付坏	(14.1)	高台径 (10.0)	4.4	全体の20%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰褐色4 切り		
24	須恵器	高台付坏	12.4	9.4	5.5	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰白色 切り		
25	須恵器	壺		高台径 (13.5)		高台全周の 40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰褐色4 切り		
26	須恵器	壺	(13.8)	(8.6)	2.7	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：青灰色1 切り後ナデ		

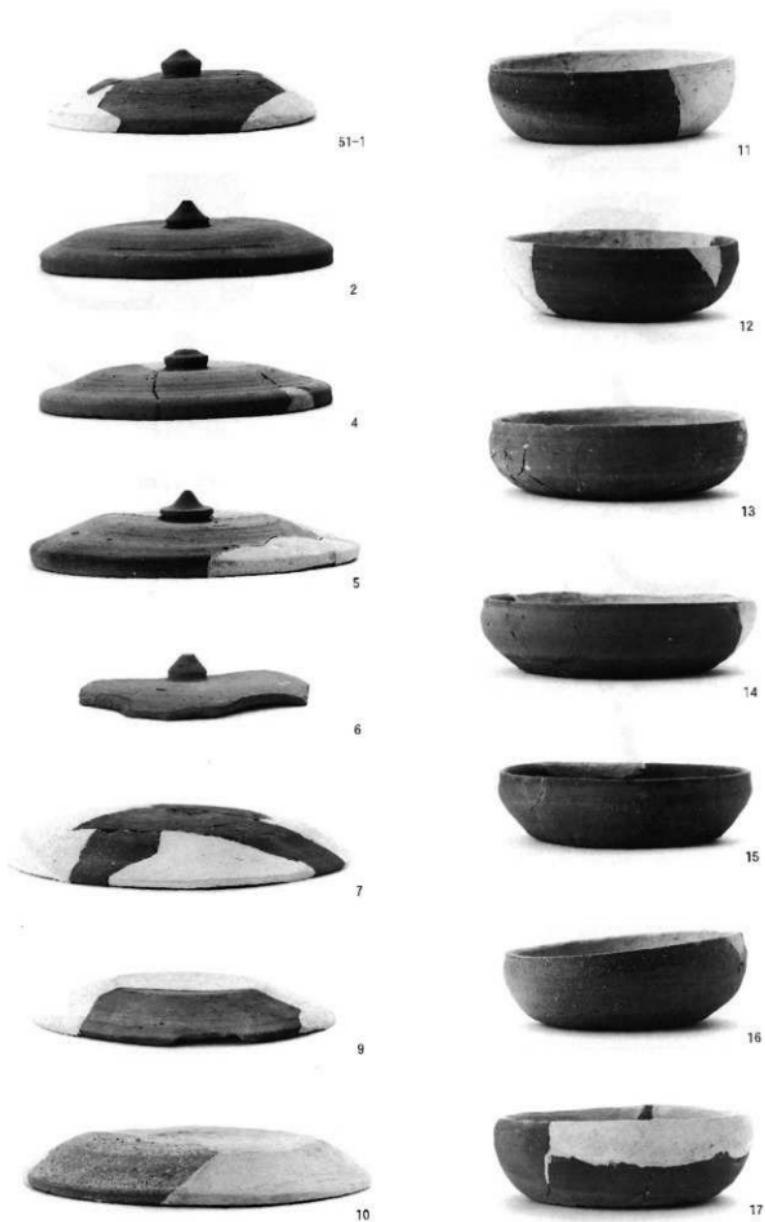
第11表 DT1出土遺物 観察表②

番号	種別	器種	口径	底径	高さ	残存率	異常	色調	施文・備考
第51回									
27	須恵器	环		(7.8)		全体の20%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り		
28	須恵器	环		(8.0)		全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色2 切り		底部内面に線刻「X」
29	須恵器	壺か		(17.9)		口縁～頂部 全周の20%	内面：口縁部～頂部回転ナデ、肩部同心円状当て具抜 外面：口縁部～底部回転ナデ、肩部カキヌ・平行タタメ	内外面：青灰色2	頂部にヘラ記号 弓みあり
30	須恵器	鉢	(22.4) (23.1)			口縁～体部 全周の20%	内面：回転ナデ 外面：体部上半回転ナデ、体部下 半回転ヘラケズリ	内外面：青灰色1	
31	須恵器	鉢	(20.0)		8.0	全体の50%	内面：回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ	内面：青灰色1 外面：口縁部灰色 1、体部下半青灰 色1	
32	土師器	壺	11.8	10.0	3.0	全体の70%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ヘラケ 断面：灰褐色1	赤彩	
33	土師器	环	(13.5)		3.2	口縁～底盤 全周の20%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ヘラケ 断面：灰白色	赤彩	
34	土師器	环	(13.8)	(7.2)	3.1	全体の25%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ケズリ 後ナデ	断面：灰褐色1	赤彩
35	土師器	环			2.8	全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ヘラケ ズリ	断面：橙褐色2	赤彩



第51図 土器窓まり1(DT1)出土遺物実測図

写真図版五八
土器溜まり1 (①T1) 出土遺物



写真図版五九 土器溜まりI (DT1) 出土遺物



51-18



23



19



24



20



26



21



22

写真図版六〇

土器溜まり1(DT1) 出土遺物



51-29



32



30



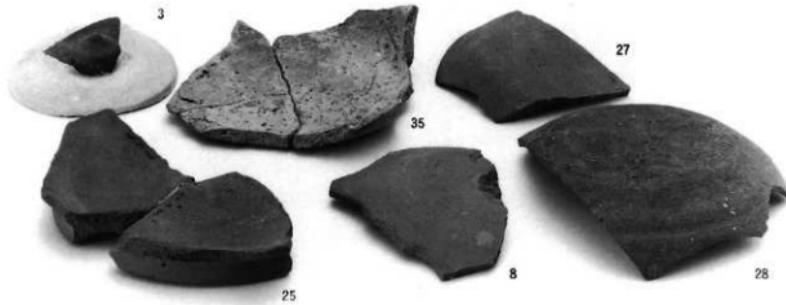
33



31



34



3. 土器溜まり 2 の詳細

DT2の位置と規模・層位

土器溜まり(DT)2はIV区中央東寄りで検出された。方形貼石区画の区画A北辺に接し、その北側に位置して南北に細長く延びる。規模は南北に4.8mと長く、東西幅1.6m。あまり残存状態の良くない土器片約180点が密集していた。DT1と異なり、個々の土器は残存率が低く、完形に復元できるものがほとんどなかった。土器が廃棄されてから土中に埋没するまでの間にある程度の時間が経過し、この間に土器が地表に露出した状態で改変を受ける環境であった結果と推測される。遺構の層序関係はDT1と同様であり、古代の遺構面である5層上面に堆積したもので、直上を5B層が被覆している。方形貼石区画を構成する区画Aと近接しており、区画Aの貼石が半分以上埋まった段階でDT2の土器片が堆積している。のことから、DT2は建物群を含む一連の施設が設置された後、少なくとも数年以上の時間が経過してから形成されたものと判断される。建物群とは併存しており、一連の施設が機能しているとの同時期に作られた遺構である。こうした層位関係と後述する土器型式から、DT2は8世紀中頃～後葉に形成された遺構と考えられる。

遺構の形状

DT2は南北に細長く、またDT1とDT3をつなぐ線上に位置している。本節冒頭でも述べたように、位置関係と遺構形状からみてDT2が溝状遺構の埋土に含まれる土器群ではないかと考えたが、断面観察および平面精査によつてもそのような形跡が認められなかった。よって、DT2はごく浅い塗み状の遺構で、その輪郭が明瞭に残らないほどのゆるやかな傾斜、立ち上がりをもつものであったと考えられる。

遺物の垂直分布は標高1.45m～1.6mに集中しており、DT1と同じく高低差15cmほどの中にまとまっている。東西・南北方向ともに傾斜ではなく、ほぼ水平に堆積していた。堆積状況に段階差は認められず、一回の廃棄行為に伴う括資料と考えられる。個々の土器片の出土時の姿勢は、平面に伏せた状態のものが大半であった。DT1の土器片が面を立てたり大きく傾いた状態であったのとは異なる。

器種・まとめ

DT2出土の遺物を第52図に掲載している。これは残存率の高いものを選択し、なるべく全体の組成傾向を反映するように努めたものであるが、図化できるものが少なかったため組成を適切に反映できていない。したがって、以下文章で補足的に報告する。

DT2の器種組成の特徴として、多種が混在していることが認められる。DT1では須恵器蓋のみに極端に集中していて、土師器煮炊具が見られないが、DT2ではそのような偏りがない。須恵器は饗膳具に限らず一般的な組合せが含まれ、土師器の煮炊具も一定量出土している。蓋環を見る限り型式的にはらつきがなく、ある一段階におけるセット関係にある。その内訳は、須恵器环12点、皿5点、蓋2点、高环1点、鉄鉢形1点、長颈瓶1点、甕1個体の50%程度。土製支脚5個、土師器蓋1個体分、移動式竈1個体の20%程度である。この組成は一般的な集落から出土する組合せの比率に近く、煮炊きを伴う調理から食事までの一連の行為に使用された調理具、食器の組合せと評価される。注目されるのは大型の獸骨1点が土器に混じって出土したことである。のことから、DT2は動物性のものを含む食料を調理、飲食した後に、使用した調理具と食器を食料残渣と一緒にして貼石区画の外側へ集積、廃棄した遺構と評価できる。



第52図 土器溜まり2 (DT2) 実測図

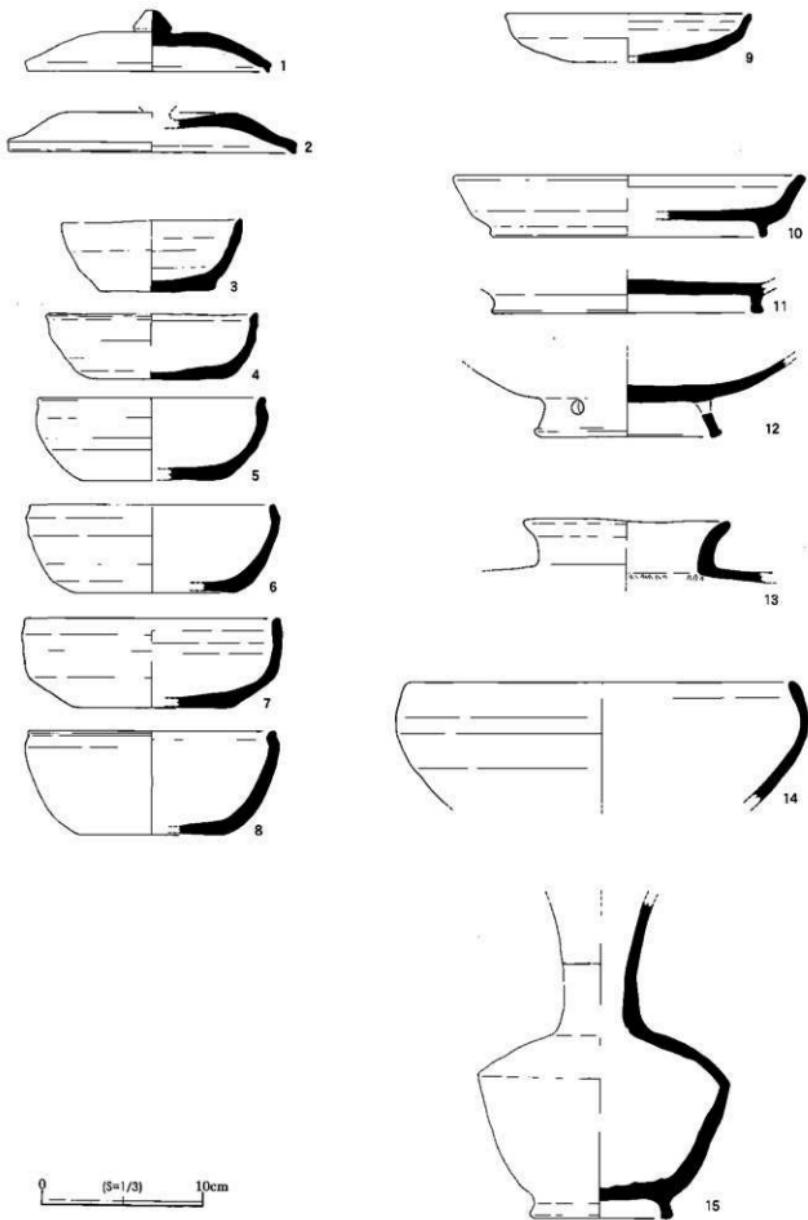
写真図版六一 奈良・平安時代の遺構／IV区／土器溜まり2（DT2）



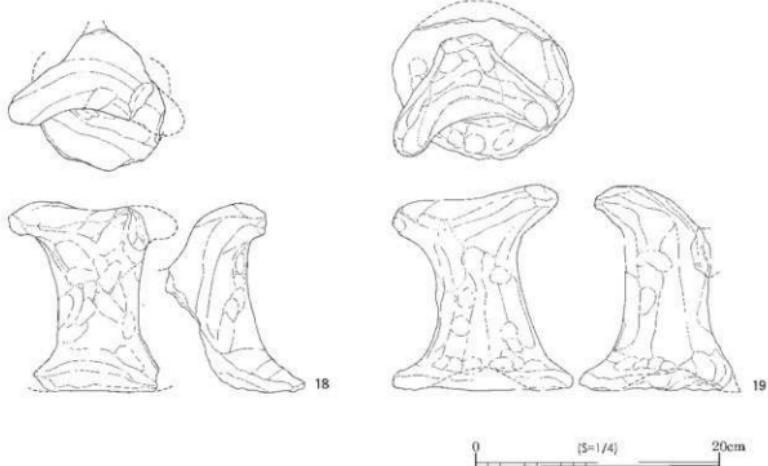
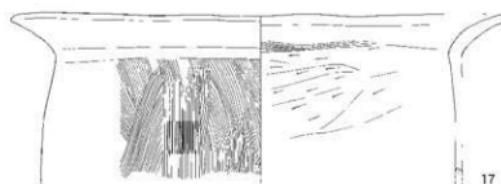
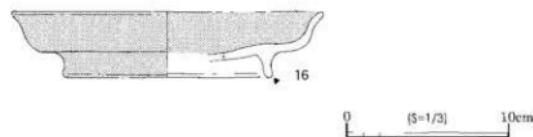
土器溜まり2 全景

第12表 DT 2 出土遺物 観察表

番号	種別	器種	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	施文・備考
第53回									
1	須恵器	壺	(14.8)	(15.1)	3.8	全体の30%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：口縁部回転ナデ、頂部ナデ の為切り落し痕不規	内外面：灰色2	
2	須恵器	壺	(17.5)	(17.7)		全体の30%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：口縁部回転ナデ、頂部回転 系切り	内外面：灰色1	
3	須恵器	壺	11.0	(7.2)	4.5	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転系 切り	内外面：灰色1	
4	須恵器	壺	12.8	(9.0)	4.1	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外曲：体部回転ナデ、底部回転系 切り	内外面：灰色1	
5	須恵器	壺	(15.0)		5.0	全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外曲：体部回転ナデ、底部回転系 切り後ナデ	内外面：灰色1	
6	須恵器	壺	(15.0)	(10.0)	5.4	全体の20%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外曲：体部回転ナデ、底部回転系 切り	内外面：灰色1	
7	須恵器	壺	15.6		5.5	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部上半回転ナデ、体部下 半ナデ、底部回転系切りか	内外面：灰色1	
8	須恵器	壺	15.0	9.0	6.2	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外曲：体部回転ナデ、底部回転系 切り	内外面：灰色1	
9	須恵器	壺	(15.0)	7.5	3.0	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外曲：体部回転ナデ、底部回転系 切り	内外面：灰褐色4	
10	須恵器	高台付 壺	(21.0)	高台径 (16.4)	3.8	全体の20%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外曲：体部回転ナデ、底部回転系 切り後ナデ	内外面：灰色1	
11	須恵器	高台付 壺	高台付 高台径 (16.4)			底部のみ全 体の20%	内面：系切り/外曲：回転ナデ、底 部回転系	内外面：灰色1	
12	須恵器	高台付 壺	高台付 高台径 (16.4)			全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外曲：体部回転ナデ、底部ハケメ が明瞭に残る	内外面：灰色1	高台部3方向形透かし
13	須恵器	壺	(12.4)			LH横一頭溶 全周約30%	内面：口縁部回転ナデ、肩部同心 円状当て其縫 外曲：口縁部回転ナデ、肩部平行 タキメ	内外面：灰色1	
14	須恵器	鉢	23.4			体部上半全 周の20%	内面：回転ナデ	内外面：灰色1	
15	須恵器	壺	高台径 8.1			全体の70%	内面：回転ナデ 外曲：体部回転ナデ、底部ナデの 為切り落し痕不明	内外面：青灰色1	頸部に1条の沈線
第54回									
16	土師器	高台 付壺	(19.0)	高台径 (12.4)	4.0	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外曲：体部回転ナデ、底部ナデの 為切り落し痕不明	断面：橙褐色1	赤彩
17'	土師器	壺	(39.8)			LH横全周約 50%	内面：口縁部ナデ、底部ハケメ後 ナデ、崩落ケズリ 外曲：口縁部ナデ、底部ハケメ	内面：橙褐色2 外曲：棕褐色1	外曲一部に漆付着
18	土製品	上製 支脚				全体の70%	全面：ケズリ後ナデ、ナデ	全面：灰褐色2	3方向突起
19	土製品	上製 支脚				全体の60%	全曲：ケズリ後ナデ、ナデ	全曲：灰褐色2	3方向突起



第53図 土器溜まり（DT 2）出土遺物実測図①



第54図 土器溜まり2(DT2)出土遺物実測図②

写真図版六二 土器溜まり2 (IT2) 出土遺物



53-1



7



2



3



8



4



9



5



10



6



11

写真図版六二一

土器溜まり2 (DT2) 出土遺物



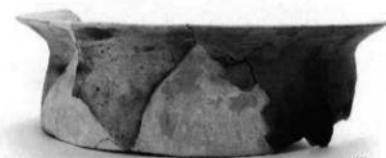
53-12



54-16



13



17



14



19



18



15



19



18

4. 土器溜まり3の詳細

DT3の位置と規模・層位

土器溜まり(DT)3はIV区中央南寄り、SB03の東側に位置している。土器溜まり遺構では唯一方形貼石区画の内側に形成されたもので、SB03とはわずか2mの至近距離にある。DT1、DT2と比較して土器片の量は少なく、南北2.4m×東西0.8mの範囲に約50点の土器片がまばらに散らばって出土した。

層位関係はDT1、DT2とほぼ同様で、建物群が機能している遺構面の直上に貼り付くように堆積している。高低差はわずか10cm程度でほとんど同一面に乗ったような状態であった。DT1とDT2はわずかながら低くなっている箇所に集積された状態であったが、DT3については地表面にそのまま放置されたような状況で埋没したものと考えられる。DT3の土器片の埋没姿勢は、ほぼ全てが水平方向に寝た状態であった。土器の残存状態は概して悪く、地表に露出した状況で一定時間経過して攪乱を受けたものとみられる。

DT03は孤立柱建物SB03の機能直上に堆積していることから、建物が機能している時期と併行して形成されたものと判断される。DT3の位置はSB03の東わずか2mと至近距離であるうえ、前節で述べたようにSB03を東向きと想定した場合建物の正面にあたる。両者になんらかの関係があることが推定されよう。

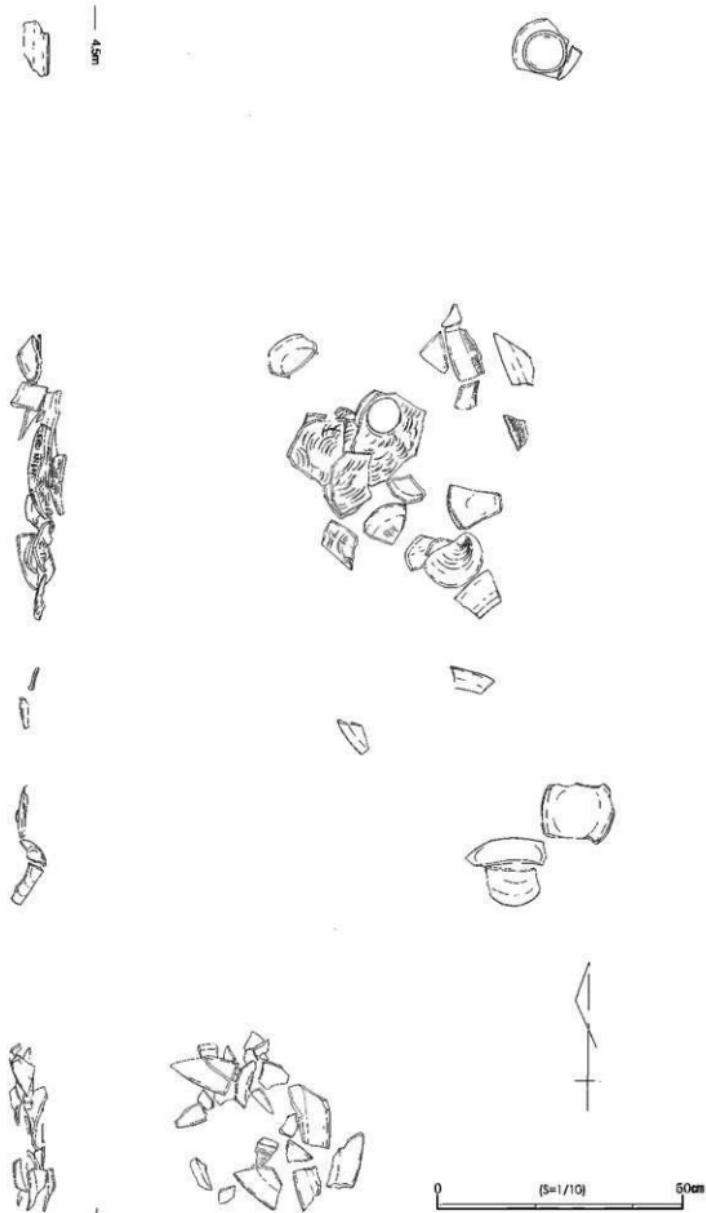
土器の分布と内容

土器片の分布範囲は南北に細長いが、この範囲内すべてに土器が分布するわけではなく、2箇所ほどまとまった部分が認められる。これは須恵器甕と上師器甕1個体ずつがつぶれてまとまった箇所で、両者は1.4m離れている。この甕を中心にして他の器種をまとめて置かれていた状況が復元される。

甕の他は須恵器環が5個体、蓋1個体、鉢1点、長頸瓶1点があるほか、赤彩土師器坏1個体が出土した。土師器甕1点がある以外は、上製支脚や移動式竈などの煮炊具が含まれない点が特徴である。第56図に図化できたものを掲載した。須恵器環(1)は宝珠つまみで器高が低く、端部を厚壁に折り側面を強くナデる特徴がある。环身(2・3)は体部が内湾し、U字端部をわずかに外へ折り返す。赤彩土師器坏(4)は器壁が薄く丁寧な作りで、底面に赤彩を施す。蓋の端部を明顯に折っていること、須恵器環に直線的に外へ開く湯形のものが含まれないこと、赤彩土師器坏の底面が赤彩されることなどはいずれも当遺跡の古代の遺物のなかでは古い様相である。遺構を被覆する包含層(5C層・5B層)中からは最も新しいもので9世紀木頭のものが含まれているが、これらと比較してDT3の上器群は明らかに古く、8世紀中頃の限られた時期のものと考えられる。

DT3のまとめ

以上を総括すると、DT3は方形貼石区画の内側、SB03に接して(正面に?)形成された上器溜まりで、建物群と同時期、8世紀中頃の遺構である。建物が建てられている遺構面の直上に置かれたまま、あるいはその場で破壊して放置されたような状態で出土している。位置関係からみて建物を含む区画内でおこなわれた飲食に使用されたものがその場で廃棄されたか、あるいは出土地点に容器と食器を据え置いた可能性が考えられる。多くの蓋坏がまとまって廃棄されていたDT1、食物残渣を含み煮炊具が多く含まれていたDT2とは様相が異なり、多人数での飲食や、調理をともなう行為が考えにくい。液体貯蔵具である甕と饗膳具の坏が少数で構成されており、SB03の正面という点を強調すれば、建物正面の庭上でおこなわれた祭祀儀礼時に神饌などの供献供物とされたものがそのまま片付けられることなく放置された可能性も想定できよう。



第55図 土器溜まり3 (D T 3) 実測図

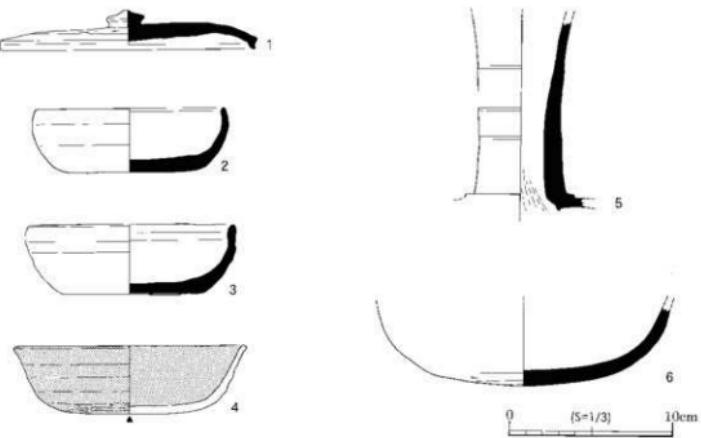
写真図版六四 奈良・平安時代の遺構／IV区／土器溜まり3 (1173)



土器溜まり3 全景（奥はSB 03）

第13表 DT 3 出土遺物 観察表

番号	種別	器種	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	施文・備考
第56図									
1	須恵器	蓋	15.4	15.8	2.4	全体の50%	内面：口縁部回転ナデ、天井ナデ 外面：口縁部ナデ、頂部～肩部にかけて回転ヘラケズリ	灰色1	
2	須恵器	坏	(11.6)		3.95	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底溝回転条切り	灰色1	
3	須恵器	坏	12.5	8.5	4.3	全体の9%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底溝回転条切り	灰褐色5	
4	土師器	坏	14.2		4.2	全体の50%	内面：底溝回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部不定方 括弧：橙褐色1 のタヌリ	青移	
5	須恵器	蓋				頭部のみ全 身の8%	内面：回転ナデ、シボリ 外面：回転ナデ	灰色1	頭部3条の沈線 外面灰かぶり自然釉
6	須恵器	体				底部～体部 下半全周の 100%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底溝回転ヘ ラケズリ	青灰色1 灰色2	外面に白色自然釉



第56図 土器溜まり3(DT 3)出土遺物実測図

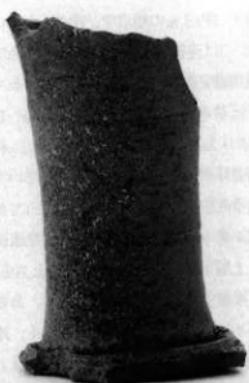
写真図版六五
土器溜まり3 (DT3) 出土遺物



56-1



2



5



3



4



6

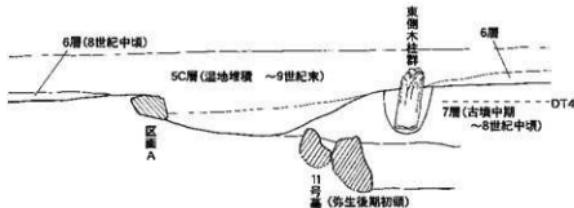
5. 土器溜まり4の詳細

DT4の位置・層位

土器溜まり(DT)4は方形貼石区画の東側で検出された土器群である。方形区画の中心となる区画Aの北東角から南東に約3mの地点で、南北2.0m×東西2.4mの範囲に須恵器蓋坏がまとまって出土した。

DT1・2・3は建物群や方形区画と同時期のものであるが、DT4はこれらより層位的に古い。DT4には方形貼石区画等の遺構構築面より下方20cmで検出されており、建物群などが建設される以前の堆積土中に包含されていた。これはIV区基本層序の7層上半にあたる。DT4と平面的に重複して掘立柱木柱群(東側木柱群)があるが、木柱群はDT4より上方から掘り込まれていた。木柱群の基盤層である7層を掘り下げる工程のなかで、残存状態の良い須恵器蓋坏が面的に広がって集中していたため、DT4として調査した。

土器の垂直位置がほぼ水平にまとまっており、上器埋没姿勢も平面に置かれたような状態であったため、これらの上器が乗っている面がある段階の地表面、すなわち遺構面として機能した上層境界であろうと考えられた。しかし、十層を観察した限りではDT4と対応する明確な遺構面は検出できなかった。つまりDT4は7層とした遺物包含層が堆積する中で形成されており、ある段階では地表面であったが、これらの土器が置かれた前後で安定した遺構面として長期間機能することなく、連続して堆積が進んで埋没したものと判断される。その後さらに堆積が進んで建物群や木柱群などの遺構が營まれるため、DT4の形成時期と建物群建設時期との間に若干の時間経過を考えなければならない。



第57図 DT 4の層位関係

土器の分布と内容

DT4の土器は全体に残存状態が良く、須恵器蓋坏のみで構成されていた。第59図にはほぼ丸形のもの8点を含む12点を図示している。これら以外に古墳時代中期の土師器高坏などが含まれていたが、古墳時代の包含層遺物を扱う第6章第2節に掲載している。

土器同士は重なり合うことがなく、互いに接して水平に並べたような位置関係を保っている。垂直位置も、下面の高低差が10cmに満たず、ほぼ同一平面に置かれたような状態である。土器の姿勢もほぼ水平で傾くものはない。寄せ合うように接して出土した状況から、人為的に置かれた際の配置をほぼ保って埋没したものと推定される。

第58図に示したように、分布状況は6個体ほど集中する箇所があり、その辺にやや間隔を置いてさらに広がりがある。配置には規則性や意図的配列などをうかがうことができない。次に、土器の姿勢、すなわち伏せてあるかどうかを見る。図中で土器番号を○囲みしたものは天地が逆位の姿勢で出土したものである。12点中、8点が逆位の姿勢で、4点が正位の姿勢で出土した。姿勢が有意な使用状況を反映すると想定すれば、环身を正位で、

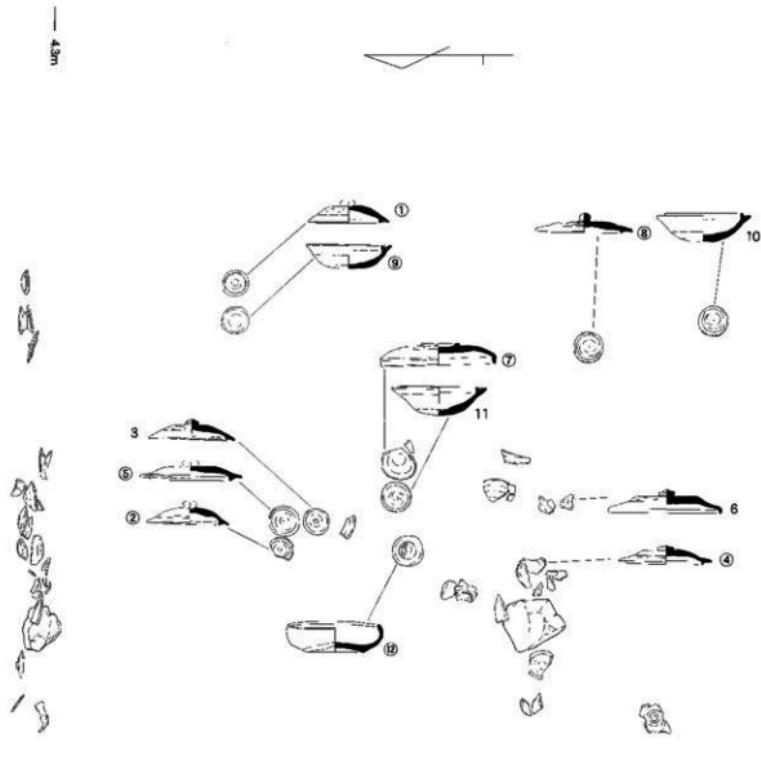
环蓋を逆位で置いたものについては、何らかの内容物を盛りつけた状態で置かれたものと考えることができよう。例えはつまみを欠いた蓋1・2・5は逆位で出土しており、輪状つまみの蓋も逆位である。これらは逆位で皿のように使用された状態を示すとみることもできる。こうした想定に整合するのは12点中8点ある。しかしながら残る4点、环身9・12が逆位で伏せた状態であったり、环蓋3・6が正位であったりする状況はこうした想定にそぐわない。よって何らかの意図的な配置を保っている可能性をうかがわせるものの、すべての身、蓋が盛り付け具として置かれた状態とは考えにくい。極論すれば、位置関係が無作為による偶然の所産で、単にばらまくように廃棄された状態である可能性も否定できない。

小片になって図示できないものもあるが、第58図に示した12点でほぼ全体を反映している。須恵器の蓋環ばかりで、それ以外の器種は含まれない。完形に近い残存状態や、先述した出土状況からみてDT4は一単位の埋没で、ある一時期のセット関係にあるのは疑えないが、土器の内容には型式差があってかなり製作年代の幅が認められる。最も古い様相のものは环身9~11で、かえりをもつ环Hである。これに対応する蓋は出土していない。また低い宝珠つまみ・ボタン状つまみ・乳頭状つまみの环蓋1~5、8はかえりをもつ环Gの蓋であるが、これに対応する身も出土していない。このように、7世紀初頭～中葉の製作年代が考えられる环Hの身と环Gの蓋が主体を占めるが、共に蓋身のセット関係が崩れている点が特徴的である。「古の年代のものが人半であるが、それより新しいものも含まれている。环蓋7は輪状つまみをもつもので、8世紀前半に盛行する型式であるし、宝珠つまみの环蓋6は8世紀中頃のもの、环身12も同様である。なお、6は転用観として使用されたものである。このようにDT4の上器組成には100年程度の時間差があるものを含んでおり、製作からの時間経過を経て埋没したことになる。环H、环Gについてはかなりの使用期間を想定せねばならない。蓋と身のセット関係が崩れていることはその使用期間の長さを反映するものかもしれない。

DT4のまとめ

こうした土器の年代を総合して検討すると、DT4の土器群は7世紀初頭～中葉の蓋環が中心であるが、8世紀中頃の蓋、身を含んでいることから、遺構自体の形成時期は8世紀中頃と考えられる。

DT4は建物群に先行することが層序関係から明らかであり、DT4の土器は建物群の年代上限を示すものである。DT4の上器のうち、最も新しい年代を示すのは8世紀中頃の蓋環であり、建物群の建設はこれ以降ということになる。一方、建物群が建設されている遺構面の直上に形成された土器溜まり（DT1～3）は8世紀中頃～後葉のものであり、DT4と同時階かわずかに新しい。よって、DT4形成から建物建設までの間に若干の時間経過があるもののそれ程長くなく、ほぼ同一土器型式（8世紀中頃）の間にともに含まれている。



○図みは天地逆位で出土

第58図 土器溜まり4（DT4）実測図

写真図版六六 奈良・平安時代の遺構／IV区／土器溜まり4 (II)



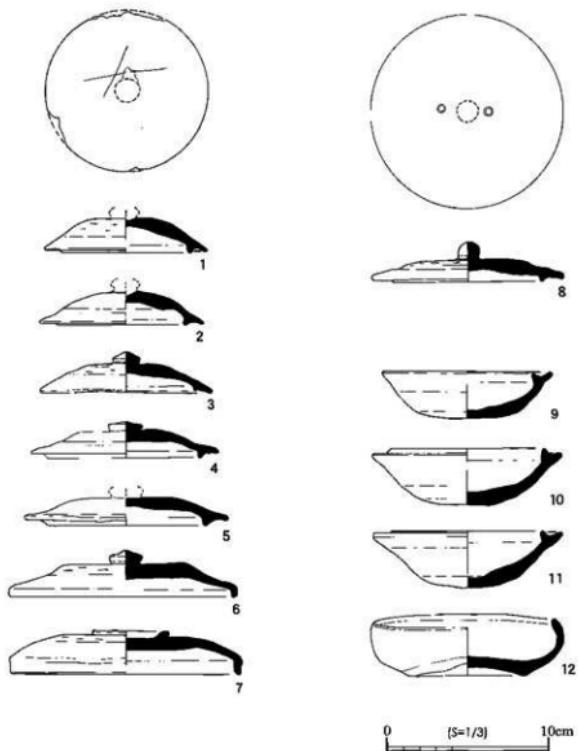
土器溜まり4 全景



上：西から
下左：北から 下右：南から

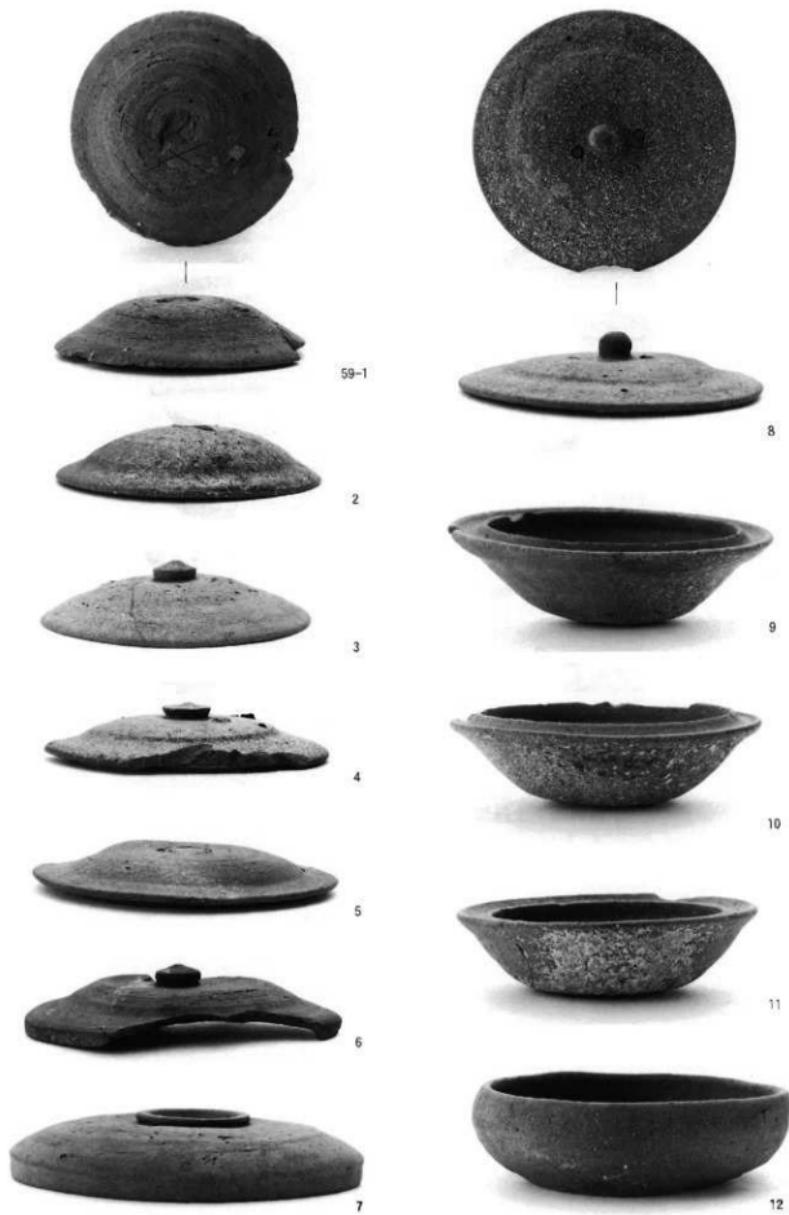
第14表 DT 4 出土遺物 観察表

番号	器種	口径	底径	縦高	残存率	調 整	色 調	説文・備考
第58回								
1	須恵器	蓋	7.8	10.0	全体の90%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：口縁部回転ナデ、頂部～肩 内外面：青灰色1 部回転ヘラケズリ		外面に擦剝 ×
2	須恵器	蓋	7.8	11.0	全体の90%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：口縁部回転ナデ、頂部自然 内外面：青灰色1 釉の凸凹感不明		外面緑色自然釉
3	須恵器	蓋	10.2	10.4	2.5	完形	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：口縁部回転ナデ、頂部～肩 内外面：灰色1 滑潤感ヘラケズリ	外面一部に白色自然釉
4	須恵器	蓋	9.2	11.5	2.2	全体の50%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：自然釉のため調整不明	外面：灰褐色4 外面全周白色自然釉
5	須恵器	蓋	9.4	12.4	全体の90%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ	内面：灰色1 外面：灰色2	外面の一部に白色自然釉
6	須恵器	蓋	13.8	14.0	2.9	全体の60%	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：口縁部回転ナデ、頂部～肩 内外面：灰色1 軋磨感 摩滅感者 磨痕あり 回転ヘラケズリ	
7	須恵器	蓋	13.8	14.3	2.2	全体の60%	内面：口縁部回転ナデ、大井ナデ 外面：口縁部回転ナデ、頂部回転 内外面：青灰色1 部回転ヘラケズリ	
8	須恵器	蓋	9.1	11.8	2.4	ほぼ完形	内面：口縁部回転ナデ、中央ナデ 外面：口縁部回転ナデ、頂部～肩 内面：灰褐色5 部回転ヘラケズリ	外面全周白色自然釉 外面に 管状穴2ヶ所
9	須恵器	坏身	10.2	3.5	2.9	ほぼ完形	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ	内面：灰色2 外面白色自然釉
10	須恵器	坏身	9.4	3.0	3.45	ほぼ完形	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部自然釉 の為切り落し痕不明	外面白色自然釉 - 銀色自然釉
11	須恵器	坏身	9.2	4.0	3.5	ほぼ完形	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ	内外面：青灰色1 外面白色自然釉
12	須恵器	坏	10.0	7.1	3.8	完形	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転 糸切り	内外面：灰褐色5



第59図 土器溜まり4(DT4)出土遺物実測図

写真図版六七 土器溜まり4 (OT4) 出土遺物



第4節 木柱群

1. 木柱群の概要

木柱群の層位・廃絶状況

青木遺跡では掘立柱建物6棟分の柱材がそのまま地中に残されていたが、この他に建物にはならない木柱が多数確認されている。IV区に集中しており、110本もの多数の木柱がそのまま地中に残されていた。これらの木柱は柱穴を掘り込んで基部を埋め込む掘立柱の手法で立てられており、その柱穴掘り込み面は建物群や方形周辺区画などの構造と同一面である。また、柱根頂部の残存レベルや、その上を溝地堆積土（50層・5B層）で被覆されている点も建物の柱材と同様である。よって、層位的に木柱群は建物群と同時期に立てられ、同時に埋没したものと判断される。廃絶の過程は、地表面付近で切断されて地中部分が残されたか、あるいは立てたままの状態で放置され、周辺が湿地化するにあわせて埋没したものと考えられる。ただし、後者の想定の場合、周辺に地表部分の材が残存しうる湿地環境であったにも関わらず、木柱状のものは一切出土していないことが否定材料として残る。

木柱群の分布と配置

木柱は調査区全体にまんべんなく分布するわけではなく、一定のまとまりをもって分布している。その範囲には方形周辺区画や建物の配置との関連がうかがえ、何らかの意図、計画性、規制などがあったことがみてとれる。

最も濃密に多く集中するのが、方形周辺区画の東側である。区画A 東辺に沿って分布しており、区画の外側に配置する意図が明確である。これらの木柱を東側木柱群と呼称する。次に集中が認められるのは、SB03の南側である。これも石列2と石列3に囲まれた内側に配置する意図がみてとれる。これを南側木柱群とする。これらとほぼ同規模の集中があるのが、SB02・SB04の西側である。これを西側木柱群とする。以上3箇所が目立って集中するまとまりであり、右列や区画、建物との位置関係を意識した配置の意図がうかがえるものである。これら以外にも集中範囲から離れて位置するものが少数あるが、その数は全体に対して極めて少なく、3箇所への集中が非常に高い。

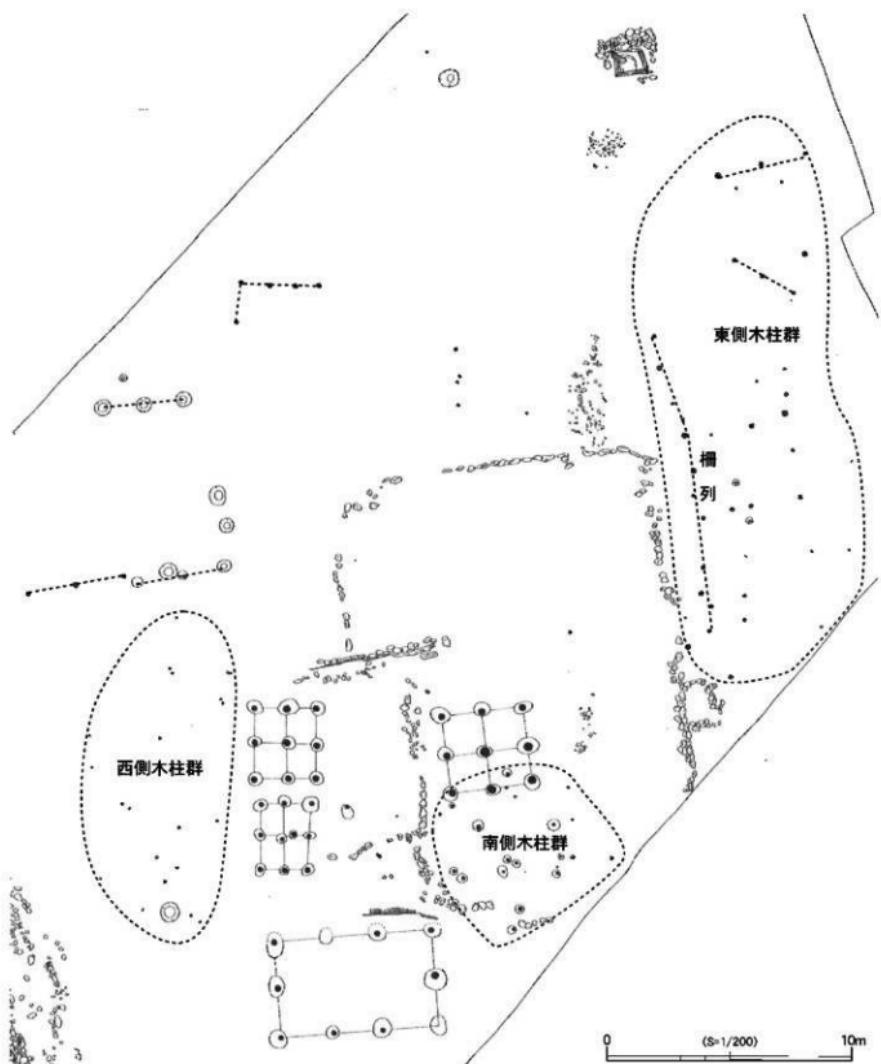
木柱の規模・樹種

木柱は直径12~22cmでばらつきがあるが、14~17cmのものが大半である。建物の柱材より明らかに細い。あまりに数が多くなったため、材に関する記録は残存頂部の標高、材基底の標高、直径、先端の加工形状にとどめた。東側木柱群のうち、柵列を構成する4点のみ樹種同定をおこなったところ、すべてクリ材であった。クリ材は当遺跡で掘立柱建物の柱材に多用されており、こうした建物の用材傾向と一致する。

木柱群の用途・構造

木柱の配置は不規則で、個々の配置に規格性や計画性が見いだせない。一部に直線上に列をなすものや、等間隔に並ぶものがあるが、建物や柵列などの構造物を構成するような配置ではない。唯一、東側木柱群のなかで方形区画に沿って一直線上に並ぶものがあり、柵列と判断されるのみである。柱材が抜き取られた柱穴と組み合って建物の一部となる可能性を考慮して、想定される箇所は特に検出作業をおこなったが、そのような柱穴（ビット）はなかった。したがって立てられた木柱はすべて地中部分が残されている。東側と南側では、いびつでごく簡易な小屋架けをした臨時の建物があった可能性が一部あるものの、基本的には構造物以外の機能を考えなければならない。

こうした木柱群の用途を特定することは難しく、不明とせざるを得ない。配置や集中する分布状況からみて、建物群や方形区画などの施設と関連し、ここでおこなわれた行為に必要な設備として立てられたとみられる。あるいは木柱を立てること自体が行為の目的であった可能性もある。区画Aの内側で、SB03の北側には木柱が立てられない空間が確保されている点も注目される。IV区に残された遺構群に祭祀施設としての性格を認めるならば、これら木柱群も祭祀に関わる可能性が高い。具体的な用法は特定できないが、立てた木柱に何かを掛け供儀とする串のような用い方も考えられよう。



第60図 木柱群の位置と名称

2. 東側木柱群について

木柱の分布

東側木柱群は方形貼石区画の東側、IV区の調査区東端近くに集中するもので、43本がまとめて確認された。分布範囲は南北20m×東西6mといいが、方形区画に近い南側に特に集中がみられる。これらの東側には木柱が立てられない空白の部分があり、東側木柱群がこれより東に広がらないと考えられる。南側については方形の小区画である区画Bを境に途切れており、これを南限とするようである。ただし調査区の境界にかかっているため、一口途切れてさらに南に広がる可能性はある。西側は方形区画である区画Aの東辺を明確な境界としており、この区画内側には全く木柱は立てられていない。

北端近くでは、3本の木柱が直線上等間隔に並ぶものが2組ある。P140・141・81の列と、P144・141・147の列である。建物にはならず、柵などの構造物の可能性も否定できないが、特に計画的な配置とは考えにくい。

柵列

不規則に配置されている木柱群のなかで唯一、構造物を構成すると考えられるものがある。区画A東辺に沿って南北に並ぶ木柱列で、12本の木柱が長さ12mにわたって直線的に列をなしている。厳密には完全な直線ではなく、北から5本目の木柱で列が折れている。これは貼石区画の角と対応しているようである。5本目以降は貼石区画と1.5mの間隔をとって平行し、上軸方位を一にする。さらに、この木柱列のラインを延長すると区画Bの東辺と同一線上となり、木柱自身は区画Bの手前で途切れてしまう。こうした計画的配置からみて、この木柱列は貼石区画（区画A・B）と組み合うものと判断される。

柵列の構造

木柱列の材は、地中に残された柱根で見る限り直径14~22cmと多少ばらつきがある。柱同士の間隔も不均等で、0.8~2.0mとかなり不規則である。この中から無作為に4本を選んで樹種同定したところ、4本ともクリ材であることがわかった。用材は計画的にクリ材が使用された可能性がある。ただし、柱根基底の切断方法や形状、さらに据え付けレベルなどを比較すると個体差が大きく、それほど体系だった作業においてまとめて規格的に立てたものとは考えにくい。柱間隔が不均等で、径もまちまち、個々の加工手法も差異があるという面で、それほど整然とした構造物を形成していたとは考えにくく、かなりラフな作りの柵列などと想定されよう。

構造を復元するうえで、注目される点がある。木柱列を直線でつなぐと、柱の心々が直線上に並ぶのではなく、直線の東と西に交差にずれていることである。これは柵の壁構造を反映するとみられる。柱に縦溝を彫って横羽目板を嵌めるような造りや、貫を渡して柱をつないでいくような造りでなく、直線で渡した壁材横板を、柱が前後で交差にはさみこむような造りに復元される。壁材がどの程度丁寧に貼られていたか判断しないが、柱の埋め込み深さが深い（31~64cm）ことも合わせると、それなりの高さをもち、板を密に積んだ目隠し塀のような構造が考えられる。柵列とするより、簡単な造りの板塀と呼ぶほうが適切かもしれない。

この柵列（塀）は貼石区画の東辺のみに付設するもので、他の箇所にはみられない。掘立柱建物を神社施設と考える上では、貼石区画と合わせて建物を囲繞し、内外を区画する意図で造られたものとも考えられるが、東辺だけに設けられていることは正面のみを意識した観念的、象徴的な性格によるものかもしれない。方形貼石区画の造りも、囲繞が不完全で、内外を厳格に隔絶したものではなく、こうしたシンボリックな造作と共に通すともみられよう。柵列（塀）は12mほどのもので、物理的な隔絶としてはほとんど効力がない。囲繞・区画として以上に、あるいは視線を遮蔽する機能こそが本質的なものであった可能性も考えられる。そうした想定に立てば、この柵列は遮蔽された内側にある建物・空間が神聖性をもつ特別なもので、神社施設という推定を間接的に裏付けるものと評価しうる。

3. 南側木柱群について

南側木柱群はSB03の、南側に集中するもので、南北5.5m×東西7.0mの範囲に20本ほどがまとまっている。1本だけはSB03の床下にあたる建物内にも立てられている。建物の南側に口立って集中しており、北と東西側には全く見られない。石列2と石列3を境界に、その内側であるSB03側にしか分布せず、これらの石列と木柱の分布が関連をもち意図的な配置がおこなわれていることが見て取れる。1本ではあるがSB03の内側に見られることや、SB03の柱近くに立つものがあることから、SB03建設時の足場材である可能性や、高床から張り出された縁の束柱にあたる可能性も考慮したが、そのような想定にあてはまる木柱は極めて少なく、配置も規則的と言えないことから否定される。貼石区画の内側にある木柱群として、他の木柱群とは異なる性格・用途を持つ可能性はあるものの、基本的には全体に共通する“祭祀用木柱”として考えるべきであろう。

4. 西側木柱群について

西側木柱群はSB02・SB04の西側に集中するもので、IJ01にはさまれた南北14.0m×東西6.0mの範囲内に21本がまとまっている。他の2群に比べ密度はやや低い。南限は明確で、SB05の西隣には存在していない。SB02・SB04と隣接しながらも、重なることなく明確に避けていることから、建物と同時に併存することが見て取れる。

5. その他の木柱

木柱は上記の3つのまとまり（木柱群）に強い集中をみせ、木柱が立つ範囲の境界は明瞭である。しかしながら、この外側にもいくつか木柱がある。

西側木柱群の北には3本の木柱・ピットが3組、東西線上に並んで検出された。建物造構の可能性を考慮して周辺を精査したが、これらと組み合う造構は認められなかった。また、区画A北辺の北側にも、南北に4本ほど並んで検出されている。

区画Aの内側では南側木柱群にまとまっていて、木柱の無い空間が広く存在する。ただし、ここにもわずか1本ながら、単独で立つものが検出されている。

写真図版六八 奈良・平安時代の遺構／IV区／木柱群



東側木柱群（柵列）と方形貼石区画

第5節 流路・石敷き遺構

IV区の調査区西端で、北から南へ流れる自然流路と、その流路脇に石を敷き詰めた遺構を検出した。遺構名称は、流路を流路1、石敷き遺構をIJ01とした。

1. 流路1

位置と規模

流路1はI区とIV区を区切る現在の道路とほぼ重なっており、北北西から南南東に流れをとる。現在の道路が生活道路として機能しており、調査後もそのままバイパスを横断する市道として活用される予定であったことから、道路の下になっている部分については調査をおこなっていない。したがって、流路1は本末の幅全部を調査できず、東側の幅4mほどを検出できたにすぎない。本末の流路幅は確定できないが、西側に位置するI区では調査区内にかかっていないため、流路の西端ラインは現在の道路の下にあると推定される。したがって流路幅は14m以下とするほかない。IV区の調査区内で見る限り、傾斜はごくゆるやかに西に下がっていくようであり、最深部はIV区の西限よりわずかに西にあるものと考えられる。よってあくまで推定値ながら、幅10m程度の流路幅が妥当と想定される。流路の深さは比較的浅く、調査区内での最深部で25cmほどである。第61図に等高線で示したように、傾斜はゆるやかで、底面に目立った凹凸はない。

流路1はIV区のなかでわずか20mを検出したにすぎないため、本来どのように流れている流路の一部であるかは特定できないが、周辺地形で見るかぎり、流路の上手には北山山系の湯屋谷が位置しており（写真図版69）、この湯屋谷を流れ下る湯屋谷川の本流もしくはその支流に該当する可能性が高い。湯屋谷川は谷開口部に形成された扇状地形上に、時代ごとに位置を変えながら多くの流路を刻んでいたことが発掘調査によって確認されている。奈良～平安時代前半においては、流路1が調査区内で確認された最も規模の大きい南北流路であり、人工的な施設内を横断する主要な自然河道という性格が想定される。

流路1の埋没状況

土壌断面の観察から、流路が埋没していく過程について知見が得られている。以下、時系列を追って記述する。まず流路の形成過程であるが、人工的に開削されたような形跡は認められない。自然の環境変化により形成されたと考えられる。おそらくは突發的な降雨などを契機に地形の低みが新たな流路となり、次第に拡張して安定した流れになったものと想像される。なお後述するように埋土中に含まれた遺物の年代からみて、この流路は建物などの遺構群より古くに成立していたと考えられる。したがって、自然要因により流路1がすでにある段階で、これをまたぐ形で建物群などの施設が設置されたわけである。

流路埋土の最下面には有機物を多く含む黒色土が部分的に確認され、これを濃茶色のシルトが被覆していた。濃茶色のシルトは植物性有機物が未分解の状態で折り重なるように堆積したもので、流路周辺が草の繁る環境で、水の流れがきわめてゆるやかであったことを物語る。流路内の堆積土はこうした濃茶色シルトが主体であり、その間層として青灰色の砂層が水平方向に入っている。砂層は粒度のそろった淘汰を受けたもので、ある程度速い水流によって形成されたものである。こうした砂層は1単位しか認められず、基本的に流れはごくゆるやかな状態で安定していたと考えられる。流路は有機物に由来する堆積により埋没が進み、ほぼ全体が埋没しきる段階では、流路以外の調査区全体も湿地化していく。

堆積状況を観察する限り、流路内を掘り返すなどした人为的改変の痕跡は認められない。流路は建物などの遺構群と周期的に併存し、周辺が湿地化し周辺施設が絶するのとあわせて埋まることになる。

流路の埋土中遺物

埋土中から出土した遺物を第63～65図に図示した。土器ばかりで、木製品などは出土していない。先述のように流路1の埋土は安定したゆるやかな水流により漸移堆積しており、埋土下層と上層では分離できる時期相の違いがあるはずである。調査では湧水のためにそうした層序の別で遺物を取り上げることができなかったために混

在しているが、第63図の須恵器坏類を見る限り土器にはある程度時期幅が認められる。第63図1の坏蓋は輪状つまみで端部にかえりをもつもので、坏身9・10とともに7世紀後半のものである。新しい時期のものとしては、坏身17・18のように体部が直線的に外に開き、高台が底面外縁いっぱいにつくものがある。これらは造構面を被覆していた湿地堆積土5B・5C層にも多く含まれるもので9世紀中葉～後葉の年代が考えられる。このようにの流路1埋土中の遺物には最大で200年におよぶ時期幅が想定される。

埋土中には墨書き土器14点が含まれていた(第65図)。流路1の流れは基本的にゆるやかで、土器がそれほど移動しないことから、これらの墨書き土器は出土地点からそれほど離れない場所で廃棄されたものと考えられる。第2分間の墨書き土器の項でも触れているが、当遺跡から出土した多様な墨書き土器のなかで、この一群は特徴的なまとまりが認められる。詳細については第2分間で述べているが、特に注目されるのは、郷名と同じ「伊努」を2文字で表記したもののが3点あることである。遺跡全体では「伊」1文字で墨書きしたものが264点と多量にあるのに対し、「伊努」という墨書きは全体でもわずか8点しか出土していない。そのうち3点がこの流路から出土している。土器の年代も墨書き土器全体の中では比較的古い年代のものにまとまっている。こうした特徴や出土状況からみて、この一群が造構面を被覆する包含層中から出土した多量の墨書き土器とは別の使用・廃棄単位によってもたらされた可能性も考えられる。

14点の墨書きを見る限りでは、「伊」や「家永」「廣方」などI区の傾向に近いことが注目される。大きなまとまりとして、これらがI区側からもたらされている可能性も考えられよう。

2. 石敷き造構(IJ01)

規模と検出の経緯

IJ01は流路1の流路際に構築された石敷き造構である。幅4~5mにわたって密に角礫を敷き詰めた造構が南北に連続している。

当初、IV区の調査区をより狭く設定していたためIJ01の全体を検出していなかった。調査区西壁に沿ってIJ01東側の一部を検出した(写真図版72下段)ためその存在が判明し、調査区をさらに西に拡張することとし、結果IJ01の全体を確認するとともに流路1を検出するに至った。

このIJ01は本来隙間無く密に石を敷き詰めた造構である。しかしながら、岡化・記録した段階では多くの空白部分が生じ、まばらに石が分布するような状態になってしまった。実測図や写真図版ではそうした脱落がある状態を示しており、本来の造構形状ではない。これは調査時の人为的な理由によって石を振り上げてしまったからである。調査地は水位が高いため、調査時には造構検出に先立ってまず湧水を排出するための溝を周囲に廻らせる必要がある。当初調査区を狭く設定していた段階では、IJ01の存在を確認する前に排水溝を掘ったため、ちょうど造構の真ん中を破壊することになってしまった。排水溝を掘削する作業中に、礫が集中することは認識していたが、これがIJ01に相当することはこの段階で認識できなかった。

このように調査時に人为的に振り抜いてしまった部分を除くと、IJ01は隙間無く、密に礫を敷き詰めた整然とした施設であったことが復元される。

構造

IJ01は自然礫を密に敷き詰めた造構で、流路1に平行に南北に延びる。礫は最大で50cm大とかなり大きいものが選択的に集められており、やや角がとれ円滑を受けた角礫が用いられている。基本的に平坦に近い面が上面となるよう配置され、凹凸はあるがほぼ上面が一面にそろうよう敷ならされている。礫は重なり合うことなく、一重に敷かれている。土断面を観察したところ、礫の隙間や上面に盛り十などはない。したがって、礫の表面がむきだしになった状態が本来の機能時の姿であったと考えられる。

礫が敷かれている面は建物などが建てられている基盤面と同一である。建物と石敷きの標高差はほとんど無い(写真図版72上段)。細かくみると、石敷きの下だけ基盤面がわずかに高く削り残したような状態が観察された。第62図の土層A-Lラインに示している。これは石敷きを施す作業時に、東辺ラインを削って高まりを造り出した

上に石を並べた可能性があろう。

敷石の西辺は波打つ平面形で、規則的な直線形ではない。なかでも流路側に突出するような礫群のまとまり（図中破線囲み）が2箇所認められる。両者は5mほど離れている。土層の状況から、礫群はIJ01に二次的に付加された造構と判断された。その根拠となるのが、礫の置かれた基盤の差異である。IJ01本体は、建物などと同じ基盤層（基本層序7層）の上面に直接乗っているが、礫群は流路1埋土の上に乗っている。すなわち、流路1の埋没が進んで浅くなった段階で礫群が設置されている。IJ01が完成してから礫群が敷設されるまでには若干の時間経過が想定されよう。

機能

IJ01の機能としては道路、護岸などの可能性が想定されるものの、以下の理由によりいずれも適当でないと考えられる。

礫は薄く1面敷かれているだけで、道路上造構の下層にみられるような幾重にも礫を重ねたものではない。川円がかなりあることから、造構の上面をそのまま道路として使用することは難しい。調査時には実際に造構の上面を踏んで歩く機会が多くあったが、とても歩きづらく、往来が可能なものは到底感じられなかった。礫敷を下層路盤として上に盛り土整地をした痕跡も無く、このIJ01を道路状造構とみることはできない。また、IJ01が機能している時期には周辺はまだ湿地化していないことから、湿地を通行するための簡易な通路とも考えられない。

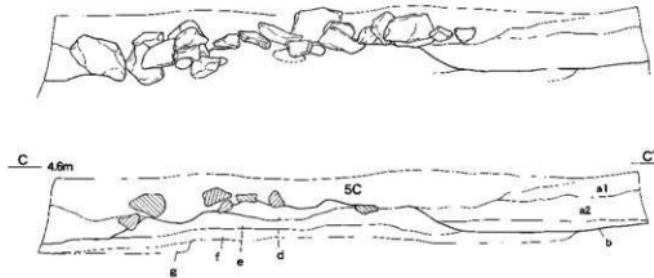
次に、護岸施設の可能性であるが、敷石が施されているのが流路1の傾斜面ではなく完全に流路の外縁であることから、“護岸”という機能は果たし得ない。敷石の標高は建物などの造構群とほぼ同一であり礫の厚みも低いことから、仮に流路の水量が増加した場合は容易に石敷を乗り越えて水はあふれるとみられる。こうした標高差の面からも、この造構が水防を意識した実利的な施設とは考えにくい。

こうした根拠から、現状ではIJ01の機能を特定することは難しいが、周辺の造構がもつ特殊性から総合的にみると、実用的なものではない可能性も想定する必要がある。祭祀儀礼における舞台装置や、視覚的な効果を求めた加飾といった可能性である。IJ01はI区とIV区を区切る流路1に付随したもので、この流路をはさんだ西側のI区には礫石建物SB05と石敷き井泉が位置している。SB05の正面（南側）から石敷き井泉にかけては密に礫が敷かれており、装飾的に儀礼空間の表示となっている。これらとIJ01は至近距離にあり、同一の意図のもと、一連の作業として石敷きが施された可能性を示唆している。あいにく調査対象外で流路1の西岸は検出していないが、東岸（IV区側）のIJ01と同様の石敷きがなされていた可能性は高い。この周辺での祭儀は井泉、溝（I区SD16）、自然流路（流路1）というように水に関わる性格が強くうかがえ、流路1に面したIJ01は水流に際した儀礼のための舞台施設と推定できる。川べりに敷かれた石を踏み、水際で何らかの行為を行うときの莊厳化という視覚的効果を求めたか、あるいはその空間のもの象徴的な役割を具現化するための表現か、いずれにせよ概念上の役割を果たしたものと評価しうる。小さな礫群2箇所が水流に張り出すようにして敷設されているが、これも独立したごく小さいもので実用的なものとは考えにくい。流路に向かって突きだした位置関係から見て、まさに水辺での儀礼的行為をするステージといった印象を受ける。

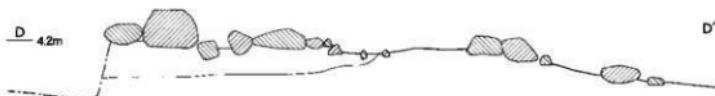
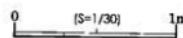
こうした推定に立てば、石敷き造構IJ01および流路1は水辺の祭祀施設である可能性が考えられよう。全体としては石敷き井泉と同様に、水廻りの儀礼空間を加飾し莊厳化する意図がうかがえ、その場で実際に行われた行為としては水流へ何らかの器財を投げ入れることなどが推定される。最も可能性が高いのは、水際に立て流される轟車や人形など木製祭祀具を中心とした祓えに関わる行為であろう。流路1の埋土中からそうした木製祭祀具などが出土していればその想定も検証できようが、残念ながらそのような遺物は確認できなかった。土器は多く出土しているが、祓えなどに関わる墨描があるものは認められない。木製遺物は水流の強弱によって溜まり具合に差異が生じ、基本的には若干下流方向への移動が想定される。あくまで想像の域を出ないが、IJ01を検出した調査区より下流地点でそうした遺物の集中がある可能性もあり、あながち祭祀具の存在自体を否定することもできない。現時点では断定はできないが、IJ01の機能はこうした祭祀関連施設という性格をもつことを想定しておきたい。



第61図 流路 1・石敷き造構 (I J01) 実測図

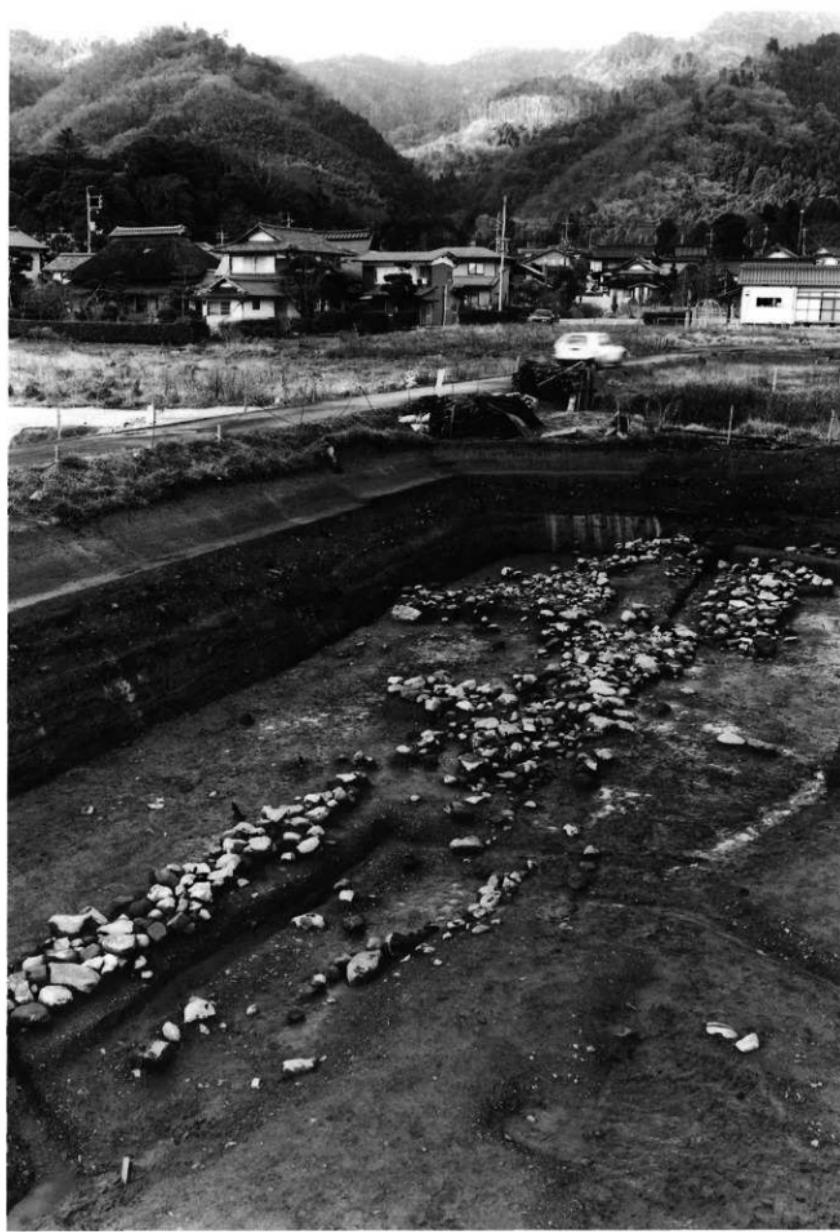


- a. 暗褐色上 (1~2cm程の小縫が多く含む。粘性はあるまい) a 1層は上層5C層からの漸移層
 - b. 黄褐色上 (a層に比へ縫隙が少なく、比較的良い組成。)
 - c. 黄色砂礫層 (水流による堆積。10cm大の礫も含む。)
 - d. 黒色礫混層 (3~4cm程の縫隙を含む。e層中央部に人為的に入れられた縫とみられる。)
 - e. 黑灰色粘土質 (非常に粘りが強く、堅くしまる。土器盛留、須恵器輪状つまみ縫が含まれる。)
 - f. 黑灰色粘土質 (粘性強い。味噌粒均一で一部シルト質。残生土器が含まれる。)



第62図 石敷き造構 I 301断面図

写真図版六九 奈良・平安時代の遺構／IV区／流路1と石敷き遺構（1101）



南東から、背景は北山山系と湯屋谷

写真図版七〇

奈良・平安時代の遺構／IV区／流路1と石敷き遺構（IIO）



上：完掘状況（北から）

下：流路内堆積状況（北から）

写真図版七一 奈良・平安時代の遺構／IV区／流路1と石敷き遺構 (100)



上：北側部分（南から）
下：石敷土層断面Cライン（南東から）

写真図版七一 奈良・平安時代の遺構／IV区／流路1と石敷き遺構 (110)



上：建物群との位置関係（北東から）

下：調査区拡張前の北側部分（南から）



第15表 流路1出土遺物 観察表①

品種	種別	標識	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	説文・備考
第63回									
1	須恵器	蓋	11.0	13.2	3.0	全体の95%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、中央部回転ヘタケズリ	内外面：青灰色1	
2	須恵器	蓋	(15.2)	15.4	2.8	全体の50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部回転ヘタケズリ	内外面：灰色1	
3	須恵器	蓋	15.7	16.0	1.9	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ヘラクゼリ後ナデ	内外面：灰色1 口縁：茶褐色2	
4	須恵器	蓋	13.4	13.7	3.7	全体の90%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ	内面：茶褐色1 外曲口縁：灰白色2	
5	須恵器	蓋	17.6	17.8	3.5	全体の70%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部～肩部 回転ヘタケズリ	内外面：茶褐色1 焼成不良	
6	須恵器	蓋				全体の10%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り後ナデ	内面：灰褐色2	
7	須恵器	盖	8.4	6.6	2.2	底部全周の20%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰色2	白色自然釉
8	須恵器	目	18.6	12.0	3.8	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰色1	
9	須恵器	环	14.0	8.9	4.0	全体の70%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰褐色5	外曲：白色自然釉
10	須恵器	环	(13.8)	7.8	5.6	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り後ナデ	内外面：灰褐色5	
11	須恵器	环	16.0	11.2	6.5	全体の70%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰褐色2	
12	須恵器	环	(11.8)	8.5	4.7	全体の70%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 基部に施し底不明	内外面：灰褐色2	
13	須恵器	环	11.7	8.6	4.1	全体の95%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：青灰色2	
14	須恵器	环	(10.6)	(7.8)	3.8	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内面：灰色2 外曲：茶褐色2	
15	須恵器	环	10.9	9.1	3.8	全体の85%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰色2	
16	須恵器	环	(16.3)	(10.8)	6.3	口縁全周の40%	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内外面：灰色1	
17	須恵器	环	(16.0)	(11.6)	6.8	口縁全周の30%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内面：茶褐色3 外曲：灰褐色2	
18	須恵器	环	17.8	12.9	5.9	全体の25%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰色1	
19	須恵器	环	12.7	9.0	4.4	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰色1	
20	須恵器	环	12.0	8.0	4.1	全体の90%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り後ナデ	内外面：青灰色1	
21	須恵器	环	13.4	10.0	4.2	全体の90%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：茶褐色1	口縁一部：白色自然釉
22	須恵器	环	12.7	7.3	4.0	全体の90%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内面：茶褐色2 外側上半：茶褐色1 下半：茶褐色2	
23	須恵器	环	13.2	8.4	3.8	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰色3	
24	須恵器	环	12.6	9.1	3.9	全体の80%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰褐色4	
25	須恵器	环	12.7	8.3	4.4	全体の80%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰褐色4	

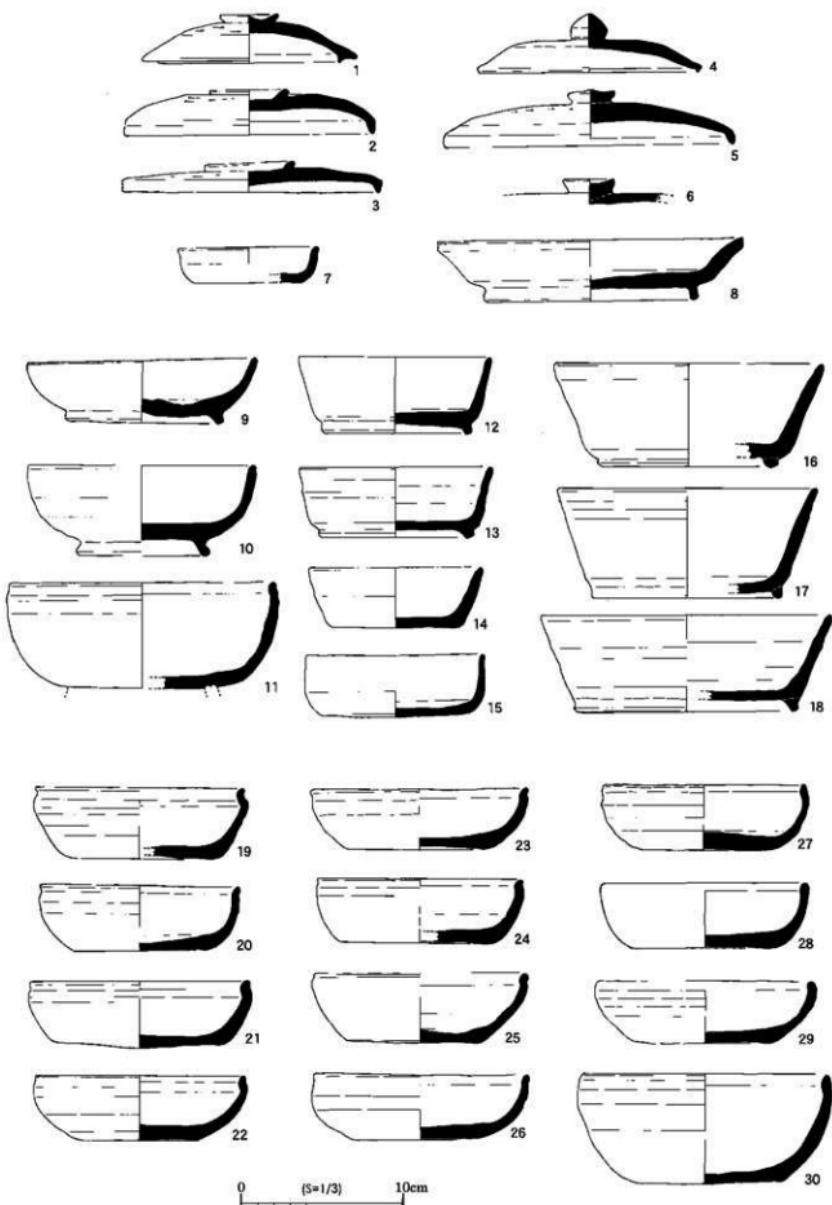
第16表 流路1出土遺物 観察表②

番号	種別	器種	口径	底径	高さ	残存率	調査		施文・備考
							内面	背面	
26	須恵器	坪	13.2	7.8	4.0	全体の90%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外側：体部回転ナデ、底部回転糸 切り後ナデ	内面：茶褐色1 外面：半：茶褐色1 下半：茶褐色2	
27	須恵器	坪	12.3	8.0	4.1	全体の90%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外側：体部回転ナデ、底部回転糸 切り後ナデ	内面：灰色1	
28	須恵器	坪	(12.6)	8.6	4.0	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外側：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：灰色1	
29	須恵器	坪	(13.0)	8.1	3.9	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外側：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：灰白色1 烧成不良	
30	須恵器	坪	15.0	9.2	6.8	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外側：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：灰褐色5	

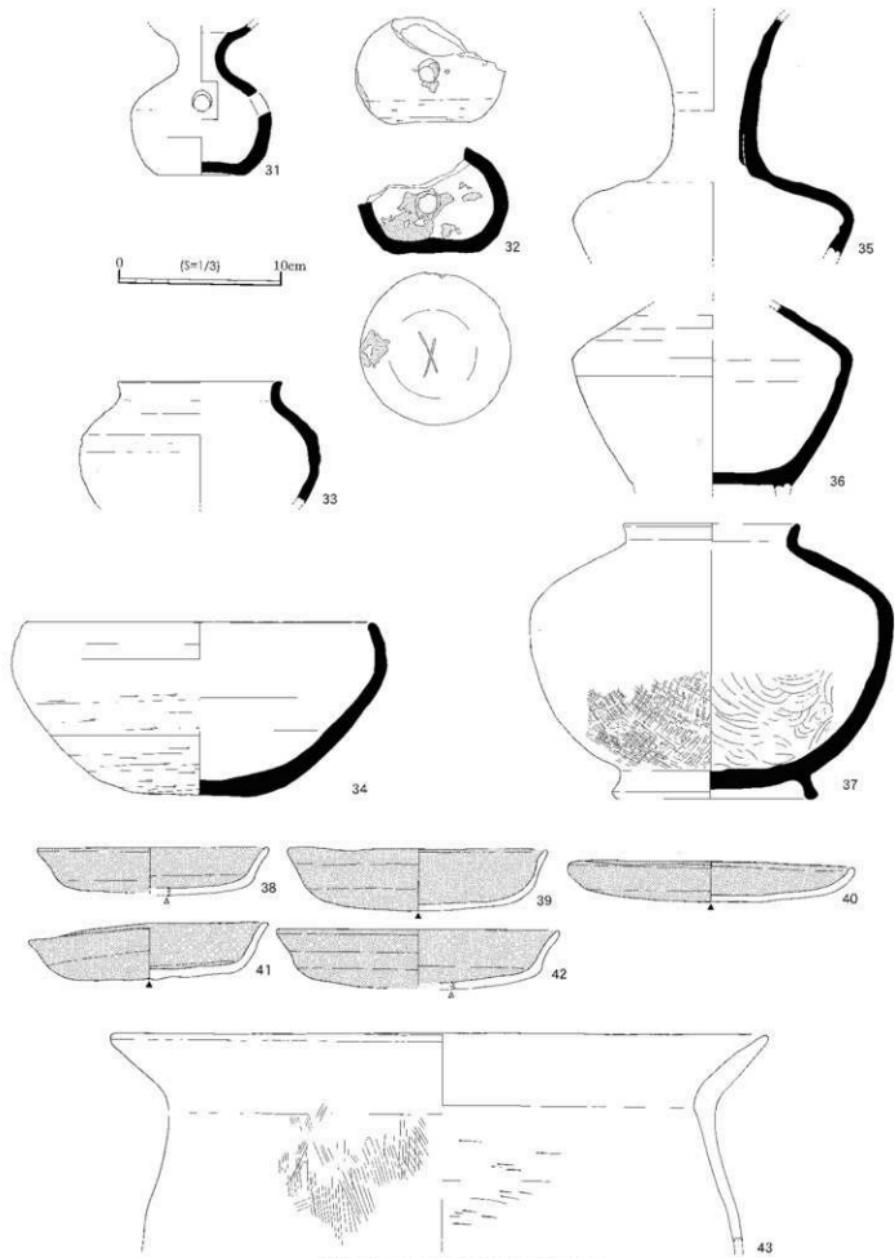
第64図

31	須恵器	甕		5.4		全体の60%	内面：回転ナデ 外側：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：青灰色1	
32	須恵器	甕			5.7	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外側：体部回転ナデ、下半回転ヘラケズリ	内面：灰色2 内面：ヘラ記号X印	
33	須恵器	甕	(19.8)			口縁全周の23%	内面：回転ナデ 外側：青灰色1	内面：緑色自然釉	
34	須恵器	鉢	(21.4)	7.0	10.8	全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外側：体部上半山型ナデ体部下半 回転ヘラケズリ	内面：青灰色2	
35	須恵器	甕				頸部全周の50%	内面：回転ナデ 外側：青灰色1	内面：青灰色2	
36	須恵器	甕				全体の70%	内面：体部回転ナデ 外側：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：青灰色1	
37	須恵器	甕	(10.6)	11.9	17.0	全体の80%	内面：口縁～体部上半回転ナデ、 体部下半タキ	内面：灰色1 内面：白色自然釉	
38	土師器	甕	(14.2)	11.9		全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外側：体部回転ナデ、底部ヘラケズリ	内面：赤彩	
39	土師器	甕	(15.8)		3.8	全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外側：体部回転ナデ、底部ヘラケズリ	内面：灰褐色2 内面：赤彩	
40	土師器	甕	17.4	15.0	2.5	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外側：体部回転ナデ、底部ヘラケ ズリ	内面：橙褐色1 内面：赤彩	
41	土師器	甕	14.9	10.6	3.7	全体の80%	内面：回転ナデ/外側：体部回転ナデ、 底部ヘラケズリ	内面：橙褐色1 内面：赤彩	
42	土師器	甕	(17.2)	(15.0)		全体の25%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外側：体部回転ナデ、底部ヘラケ ズリ	内面：灰褐色2 内面：赤彩。口縁部外側の一部に黒斑。	
43	土師器	甕	40.1			口縁全周の90%	内面：口縁部回転ナデ、脚部ケズリ 外側：口縁部回転ナデ、脚部ハケメ	内面：橙褐色4 外側に付着	

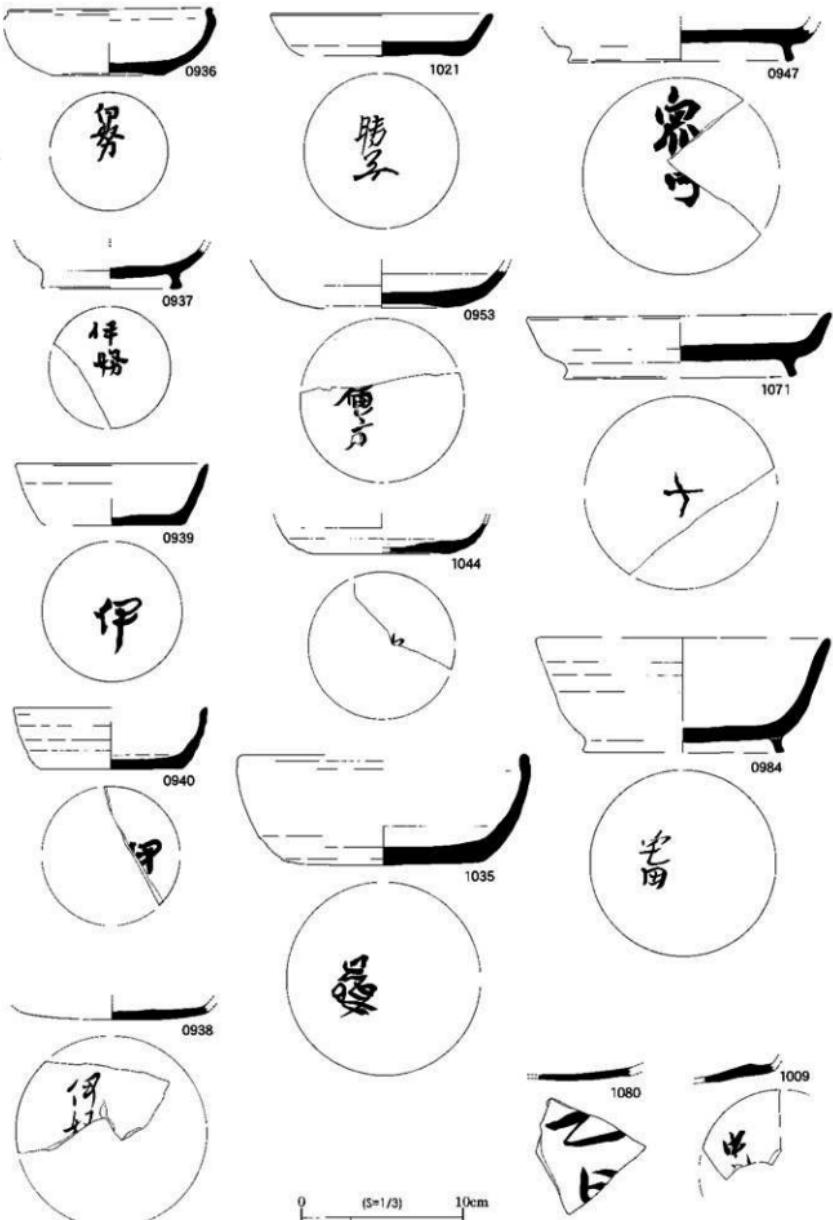
第65図は第2分冊墨書き器の観察表に掲載



第63図 流路1出土遺物実測図①

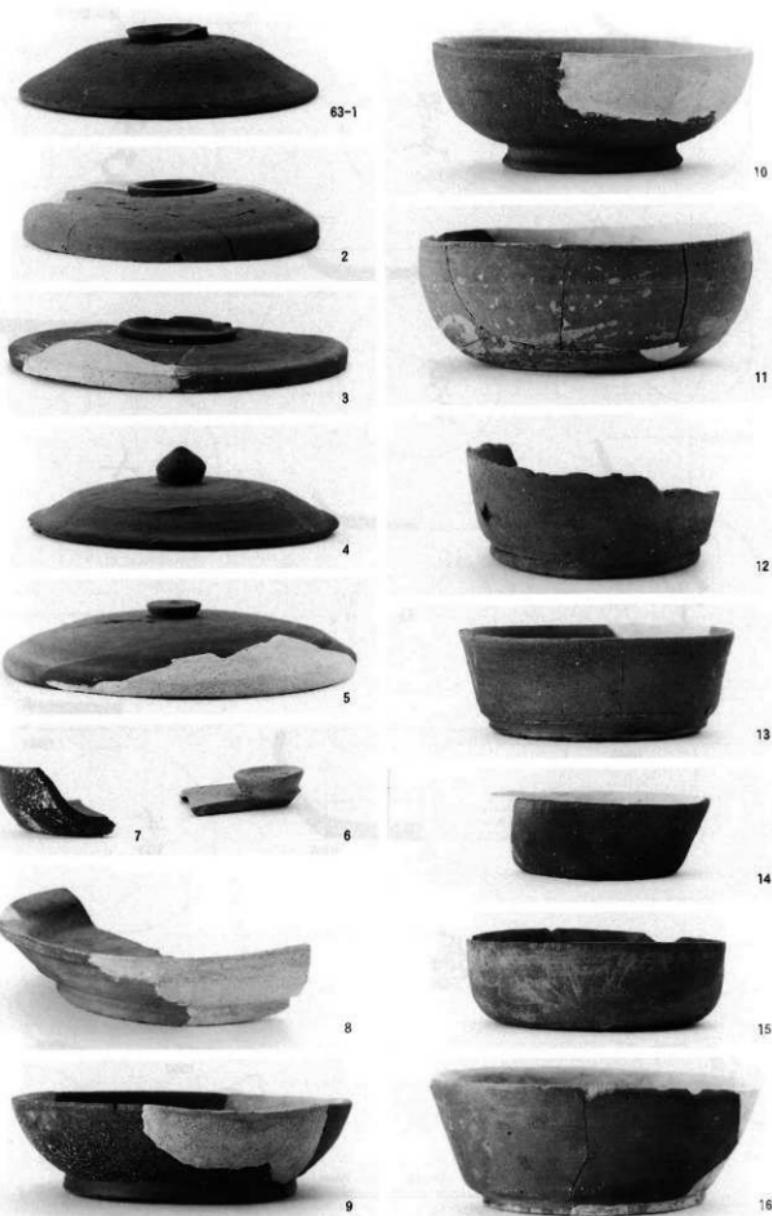


第64図 流路1出土遺物実測図②



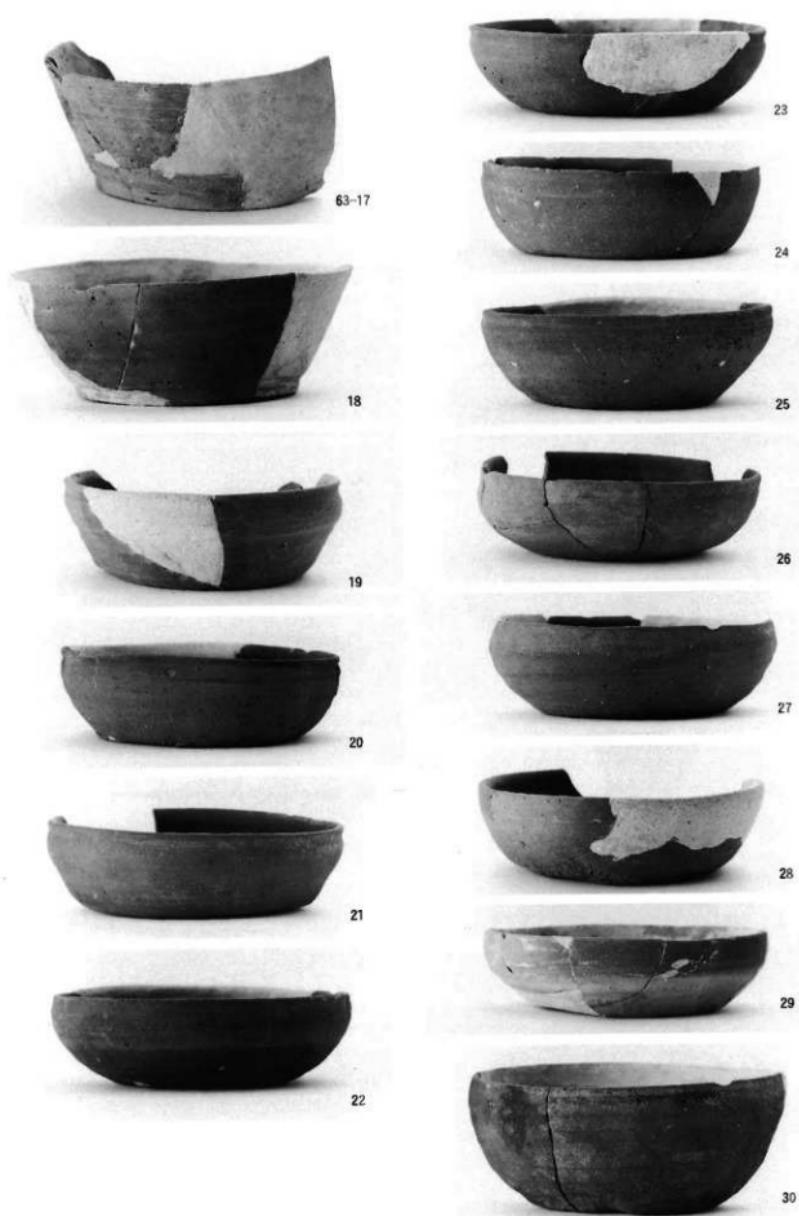
第65図 流路1出土遺物実測図③

写真図版七三
流路1出土遺物



写真図版七四

流路1出土遺物



写真図版七五
流路1出土遺物



64-31



37



32



33



38



34



39



40



35



41



42



36



43

第6節 井戸

位置・規模

IV区では井戸跡1基を確認した。調査時の名称はSE01。調査区北東隅に近い地点で、単独で造られている。基本層序6層上面から掘り込まれた方形の井戸。井戸枠は横材に渡した板材で構成され、東西68cm×南北65cmで平面形はほぼ正方形。検出面から底までの深さは73cm。壁板は、上部が二次的に内側へ傾いているが、本体は3~4段、15~30cm幅の板を上下に積む。井戸枠の外側には角縁(5~10cm大、最大で30cm)が充填されており、井戸枠の奥込めとみられる。井戸枠を現地に保存するため調査は内部のみとし、奥込め部分は調査していない。上面で検出する限り、角縁は井戸枠の北側にまとまっており南側にはあまりみられない。

埋土の状況

第67図に従って述べる。井戸枠内部の埋土は、a~f層が粒了の非常に細かい粘土。湧水中の微細な粒子が沈殿したものか。各層間に短期的な堆積層などはみられず、この間に掘り返しのようなさらえた痕跡もみられない。g層のみ明らかに上質が異なり、粒の粗い砂砾層。井戸の埋没初期において比較的短期間に周囲から流入してきたとみられる。井戸の底には上面が扁平な石が置かれる。石の最大差し渡し32cm。g層に覆われている。人為的に埋置されたものと考えられる。埋土の堆積状況から、SE01は短期的な堆積によって底の石が覆われた後、ゆっくりと埋まつていき、掘り返しなどされることないまま自然に埋没したものと判断される。最終的な井戸廃棄にともなう埋土などは無い。

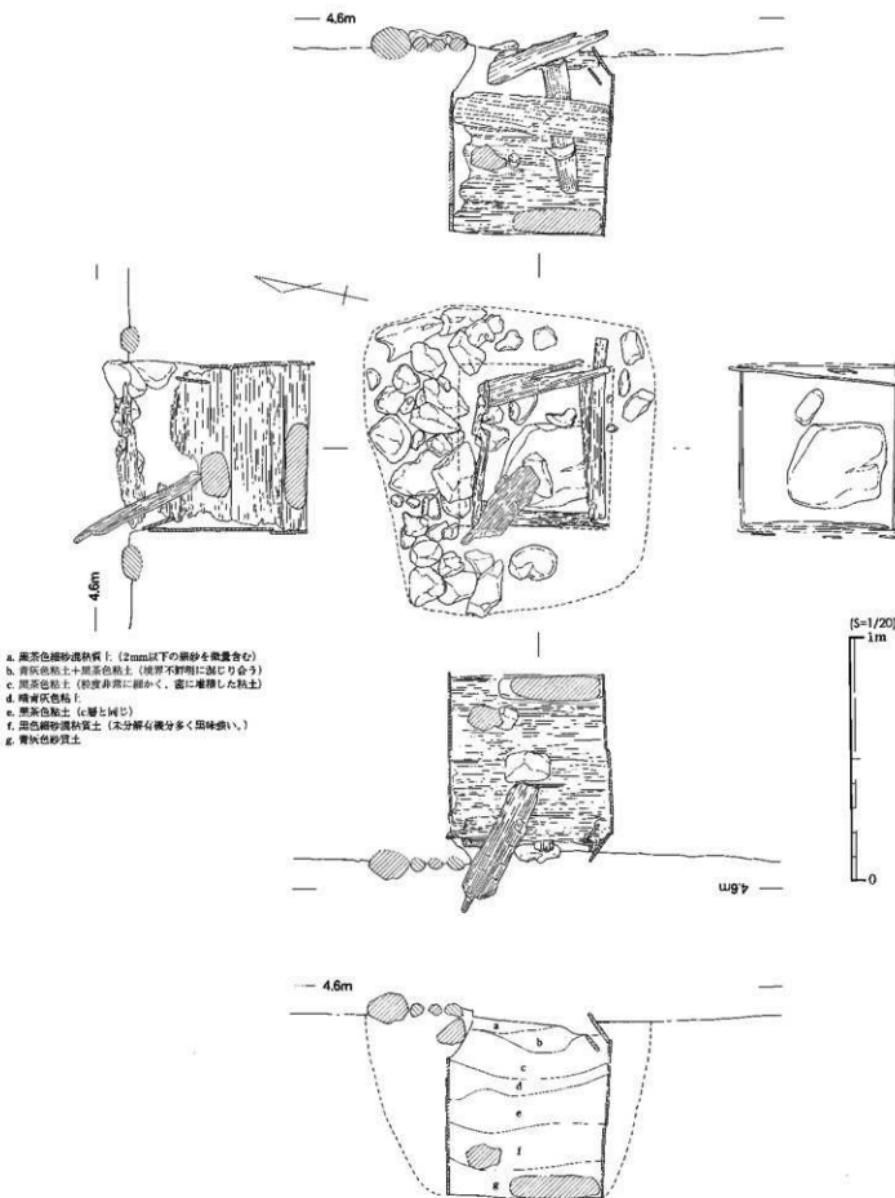
遺物・時期

遺物は埋土中層(e層)から土製支脚の底部と転用鏡とみられる須恵器皿の小片が出ているほか、a~f層に赤彩土師器・須恵器の小片がまばらに含まれているが、図化できるものはない。掘り込み面、遺物からみて、この井戸は建物などの遺構と同時に機能していたと考えられる。廃絶が人為的でないことから、建物周辺が湿地化するまで機能し続け、その後自然に埋没した可能性がある。8世紀中頃~9世紀前葉のものと評価できるが、詳細な時期を限定することはできない。

SE01は構造などにおいて特に特別な特徴もなく、実用的な目的をもつ一般的な井戸と評価しうる。この周辺には他に目立った遺構がなく、SE01は単独で存在している。IV区の調査区内では貼石区画と建物群というまとまりの強い遺構群が形成されているが、これとSE01の関係性は位置からみて無いとみられる。むしろ、SE01がこの地点にあることは、調査区の北側に、より生活に密接な実用的な空間、すなわち居住施設や様々な手工業生産施設が展開していた可能性を示唆するものであろう。



第66図 井戸 (SE01) の位置



第67図 井戸跡 (S E 01) 実測図

写真図版七六 奈良・平安時代の遺構／IV区／SE01



上：土器出土状況（北西から）
下：完整状況（北西から）

写真図版七七 奈良・平安時代の遺構／IV区／SE01



上：完掘状況（北東から）

下：底面石の状況（西から）

第7節 土坑

1. SK01

位置・規模・土層

SK01はIV区西端に単独で位置する土坑。位置は7ページ第4図参照。覆屋などの施設は伴わない。直径75~80cmの整った円形を呈する。最深部で検出面からの深さ10cmと、浅い皿状をなす。底部には木炭が敷かれている(第68図b層)。個々の炭片は1cm大以下に細かく破碎されており、原型をとどめない。大きな塊状のものは一切含まれない。木炭は全量持ち帰り微細遺物の検討を行った。乾燥状態で総重量1,070g。木炭は北東側が少く、最大厚5cm。南西側にかけて徐々に薄くなり、基盤層である基本層序6層が露出している。北半の立ち上がり部分では、木炭層(b層)の下に淡い黄褐色の灰層(c層)が薄く敷かれている。検出時の平面では木炭層の縁取り状に確認された。土坑内堆積土であるa層は、この遺構の検出面を広く覆っている基本層序5c層と同一であり、木片など有機物を多く含んでいる。したがって、遺構の最終状態(機能面)はb層上面である。上坑内は人為的に埋められず、周辺が水成堆積物で埋没すると同時に埋まるとみられる。したがって遺構の時期は、SB03などの掘立柱建物群と同時期、8世紀中頃~9世紀前葉である。

機能

小鍛冶等の金工にかかるか遺構とすれば、木炭層・灰層は防湿目的の炉床下部構造とも考えられる。しかしながら、木炭中および周辺土壤から、鍛造剥片や粒状滓などの鍛冶廻遊物は確認されなかった。鉄滓や剥口片などは周辺を含めて出土していない。さらに、土坑底面には熱を受けて変色あるいは同化したような痕跡は一切みられなかった。強制送風して行うような鍛冶等の作業を想定することは難しいと考える。小炭焼成のための土坑などが想定されるが、特定することはできなかった。

灰や木炭が重層状に敷かれている状況は火處としての性格がうかがえ、金工に関わる遺構を想起させる。しかし、SK01の周辺には“生活臭のある”遺構が全くみられず、そのような実用的な土坑が単独で開放空間に存在しているのは奇異な印象を受ける。この周囲には作業に伴うような土坑すら見られないことから、あるいは金工や炭焼以外の火處である可能性もある。根拠は薄いが、周辺遺構の特殊性を強調するならば、SK01が祭祀に関わる火にまつわる遺構である可能性も否定はできない。

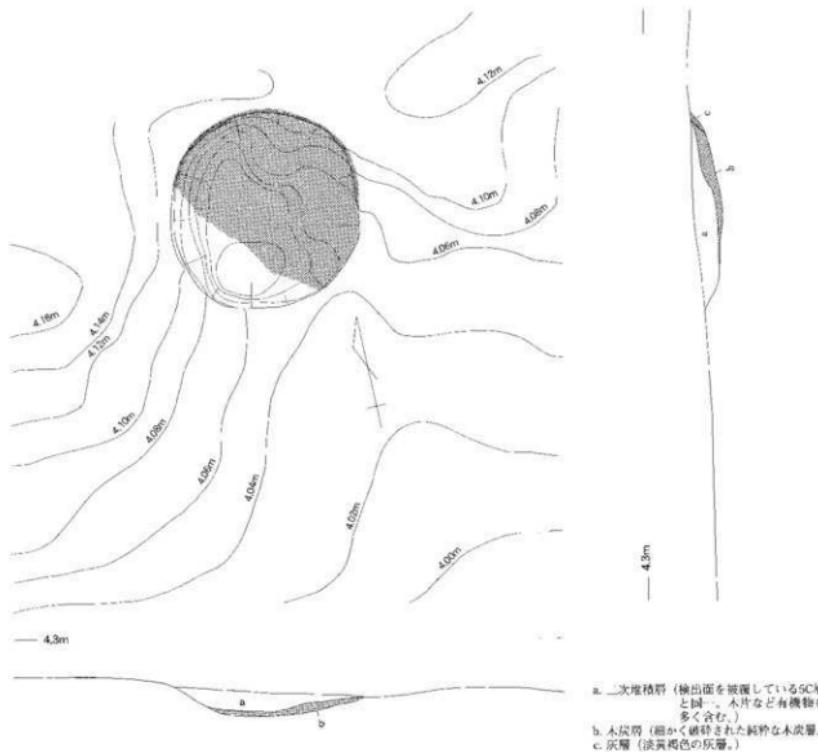
2. SK02

位置・規模

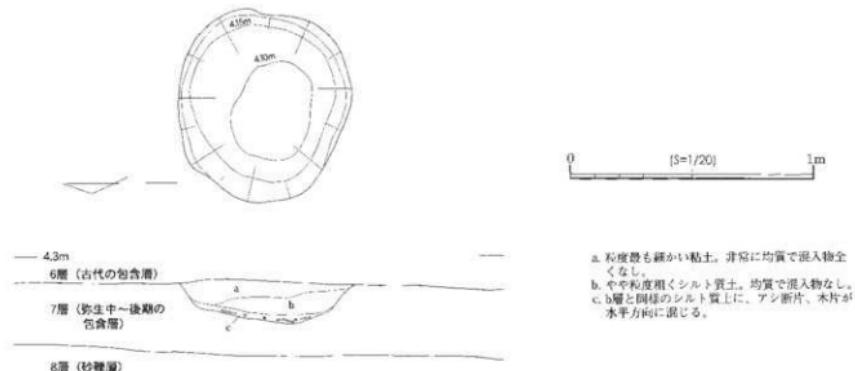
SK02はIV区北端近くに位置する土坑。直径70~80cm、ほぼ円形を呈する。中央の最深部で深さ20cmあまり。なお、岡化時には上面が少し削り込まれている。弥生時代中期~後期の包含層である基本層序7層の上面から掘り込まれ、古代の包含層である6層に被覆されていた。このことから時期は弥生後期~奈良時代の期間内のある時点である。

埋土の状況

埋土に衝めて特徴がある。暗緑灰色の均質なシルト~粘土で満たされている。基本的に細かく、均質で粒度がそろうことから、ゆるやかな水成作用による堆積とみられる。周辺には同質の土壤がみられず、このSK02埋土だけで確認された特徴的なものである。最下層(c層)ではアシの断片や木片がまとまって含合されており、いずれも水平方向に溜まった状態であった。さらに中層(b層)から上層(a層)にかけて粒度が細くなり、植物遺体なども全く含まれない極めて均質な堆積となる。このような堆積がどのようにもたらされたか明確にできないが、水が溜まるような状況が長期間継続することによって形成されたものと推測できる。埋土中に人工遺物は一切含まれていない。底面をさらに掘り下げる段階で木製編籠が1点出土したが、これはSK02の基盤層である基本層序7層中に含まれているもので本遺構とは無関係である。

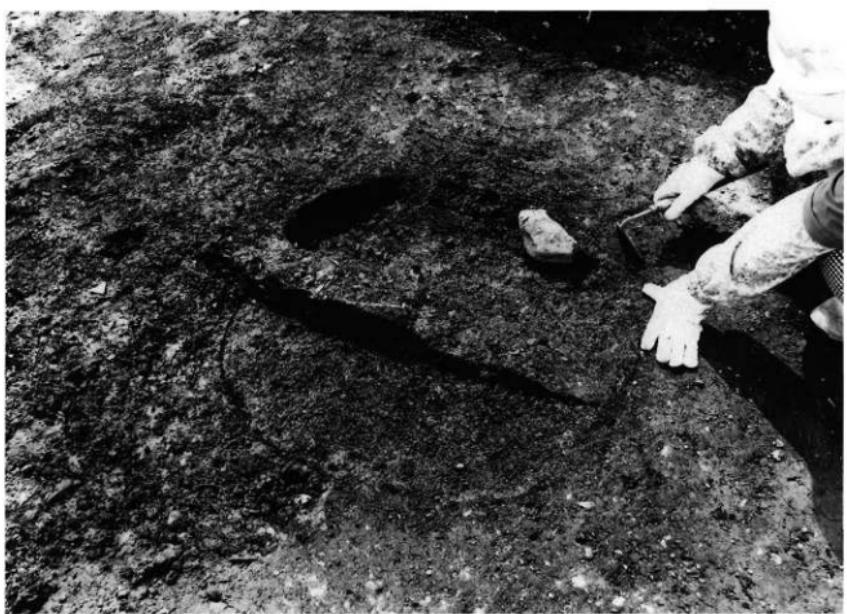


第68図 SK01実測図



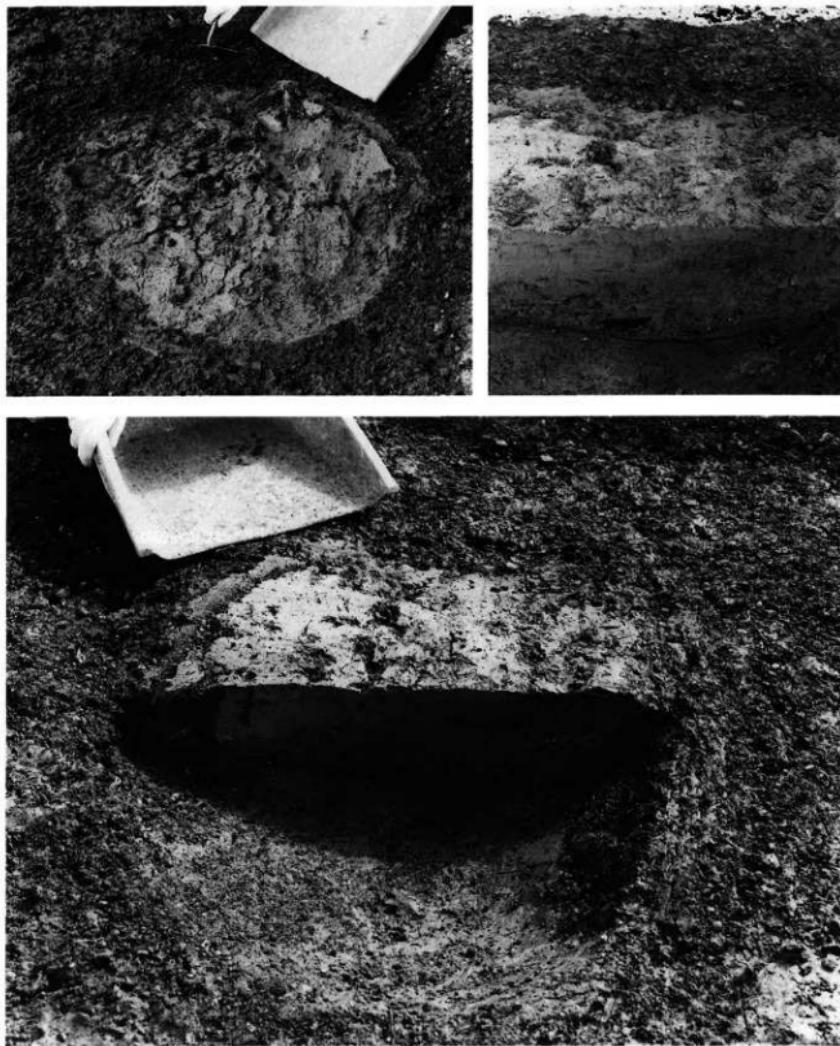
第69図 SK02実測図

写真図版七八 奈良・平安時代の遺構／IV区／SK01



上：平裁状況
下：堆積状況
(いずれも北東から)

写真図版七九 奈良・平安時代の遺構／IV区／SK02



上左：検出状況 上右：堆積拡大
下：堆積土断面
(いずれも西から)

第8節 新段階の遺構

IV区では前節まで述べた8世紀中頃～9世紀前葉の遺構の他に、10～13世紀の遺構面を確認している。ここでは掘立柱建物SB01と、溝SD01を検出した。これを新段階の遺構として本節で扱う。

1. 遺構面の状況・遺構の時期

層位関係を以下整理する。8世紀中頃～9世紀前葉の遺構面は周辺の湿地化により埋没し、5C層あるいは5B層とした湿地堆積物によって被覆される。この両層位は調査区全体に広がる明確な鍵層となるもので、豊富な遺物を包含している。層中の遺物は最も新しいもので9世紀末～10世紀初頭まで下る。なお、この層下面に神像が包含されていた。5C層・5B層の堆積がある程度進行した段階で、その上面が陸地化し安定した地表面が形成される。この地表面からSB01とSD01は掘り込まれている。よって、この新段階の遺構面は10世紀以降のものと判断される。

この遺構面は、突発的な上石流堆積によって被覆される。厳密には土石流の堆積は数単位重なっており、若干水流の弱い時期も認められるが、その層中に遺構面は形成されることなく基本的に1層のまとまりである。厚さが1m以上に及ぶ大規模なものであり、層中の礫も大きい。全く遺物が含まれず、北川山系の谷筋から襲ってきた土石流によって、極めて短時間に堆積したものである。この上石流堆積物によって周辺の地形が変化し、調査地は低地に突きだした扇状地形として比較的安定した微高地となる。建物や井戸など多数の施設が設けられ、活発な活動・居住空間として利用された。西隣のI区・II区を中心に多数の遺構が確認されており、これは既刊の報告書『吉木遺跡I 中近世編』で扱ったところである。IV区でもこの遺構面に対応する明確な地表面を確認しているが、I区と比較して遺構密度が極めて低いため本調査の対象としていない。

上記の土石流上面に営まれた遺構群は、陶磁器からその初現を13世紀頃に求められる。したがって、土石流の起こった時期はそれ以前ということになる。よって、この土石流に被覆された新段階の遺構面は13世紀を年代下限としている。

以上の層位関係から、新段階の遺構はその時期を10～13世紀とすることができます。なお、遺構内に含まれていた遺物は、周辺に多数埋蔵された9世紀以前の土器であり、必ずしも遺構が機能した時期を反映するものではない。したがって、遺物から遺構の時期をこれ以上絞り込むことはできなかった。

2. SB01

位置・規模・方位

SB01はIV区の南西隅で確認された2×3間の掘立柱建物である。規模は3.6×4.8m。床面積17.3m²。主軸方位はN-19°-Wで、8世紀中頃～9世紀前葉の建物や方形貼石区画の主軸より西に振れている。この遺構方位はSD01とも共通するもので、中近世にもこの方位地割りが踏襲され、現代にまで残る。流路や扇状地の形状などに制約されたものであり、ごく自然なものである。むしろ、SB03を中心とした方形貼石区画などの遺構群が、地形を無視して正方位に近づけた特異なものと評価される。

構造

8世紀中頃～9世紀前葉の遺構と異なり、建物柱穴には柱材が残されていない。柱穴は直径10cm以下の正円形で、深さ20cm弱で底レベルがほぼ均等である。柱穴は壁面を立てて掘り下げられ、底面が平坦に仕上げられている。柱材の位置（あたり）は痕跡が残されず、抜き取りを受けた様子も確認できなかった。

梁間寸法は北辺より南辺が長く、いびつな平面形をなす。また長辺に配された柱位置も不均等で、東西辺で位置が対応しない。全体に不整形な構造で、簡易な小屋掛けによる上部構造とみられる。

床面はほぼ平坦で、機能時の地表面にはほほ近い状態で残されているとみられる。若干東側が傾斜して下がって

いるのは後世の水流に削られたためで、本来のものではない。

3. SD01

位置・方位・規模

SD01はIV区のほぼ中央東寄りを南北に横断して流れる溝遺構である。北から南にはほぼ一直線に流れをとる。方位は中近世～現代の遺構方位や道路地割りと共通する。

規模は幅60～90cm、深さ20～25cm。調査区内では32mにわたって検出しており、調査区外へと延びる。北端と南端の高低差は60cmほどで、非常に緩やかな傾斜をもって南へ流れている。

埋土の状況

埋土は最上層にいたるまで水成による堆積物である。粒度は粗い砂から極微細な粘土まであるが、基本的にはごくゆるやかな水流によって堆積したものと判断される。上層断面観察によって、溝内の掘り返しによる切り合いか確認できる。回数、頻度は不明だが、一定の人為的な管理が加えられていたことが明らかである。

溝は調査区内でも南北の様相が若干異なる。北半は埋土中に自然疊が多く埋没し、杭が多く打たれている。南半にはそのような疊、杭が見られない。これは杭などによって堰が形成され、その結果疊などが流れの中で止まって堆積したためと考えられる。

杭の機能

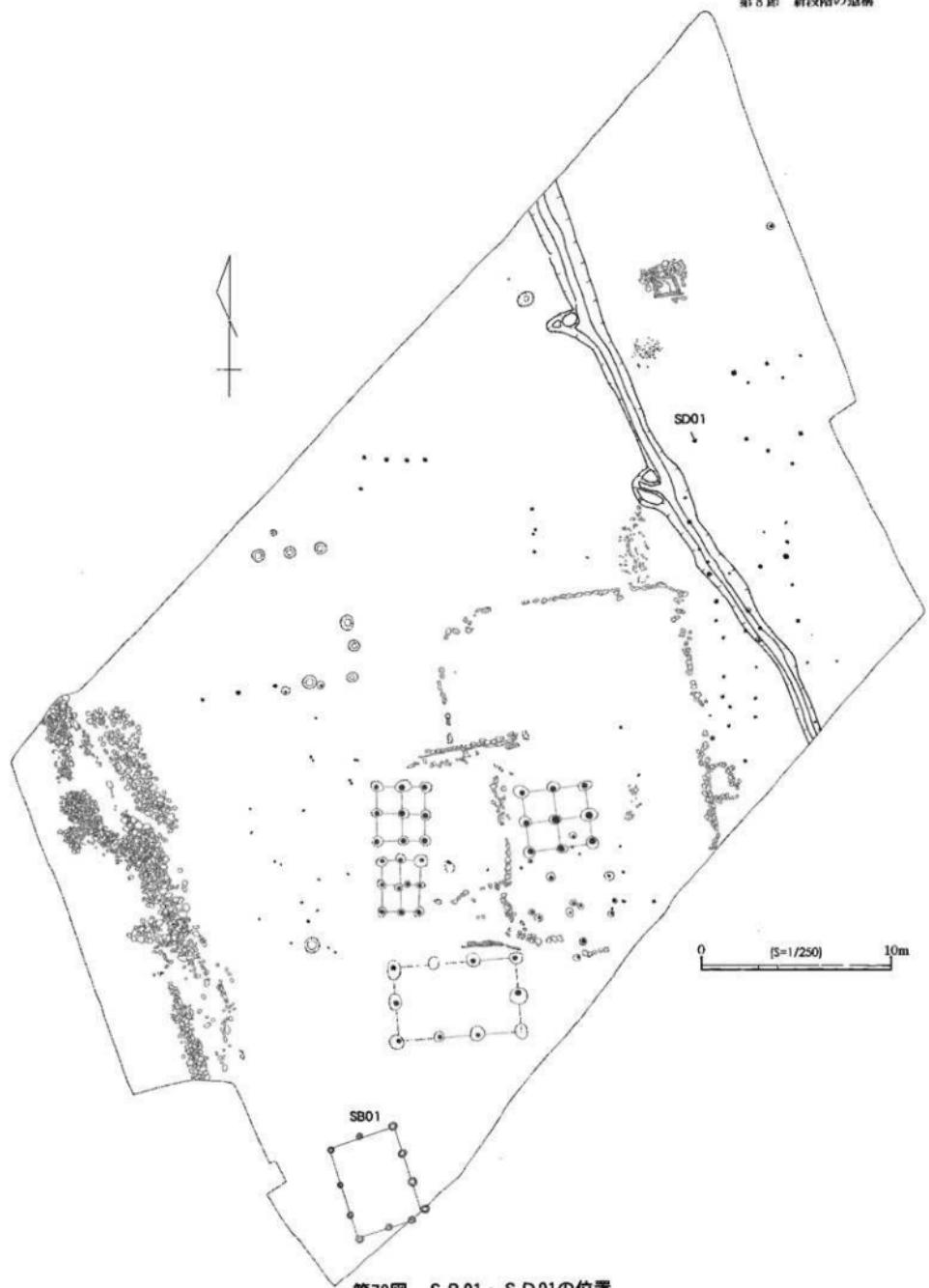
杭は第72図に●で示しているが、溝の北半に明確に集中している。杭は溝の縁に打ち並べた矢板留めのようなものではなく、不規則に溝の中心付近に打たれている。杭の形状や打ち方もばらばらであり、必ずしも全てが一時に打たれたものとは考えられない。杭の最下端が溝底面に達していないものもあることから、ある程度溝内の堆積が進んだ段階で打たれたものも含まれている。溝の縁より中心部近くに打たれたものが多いことからみて、溝側壁の土留めや矢板などで流路を確保するものでなく、むしろ逆に水を堰き止める意図で設けられたもの可能性が高い。

遺物の内容

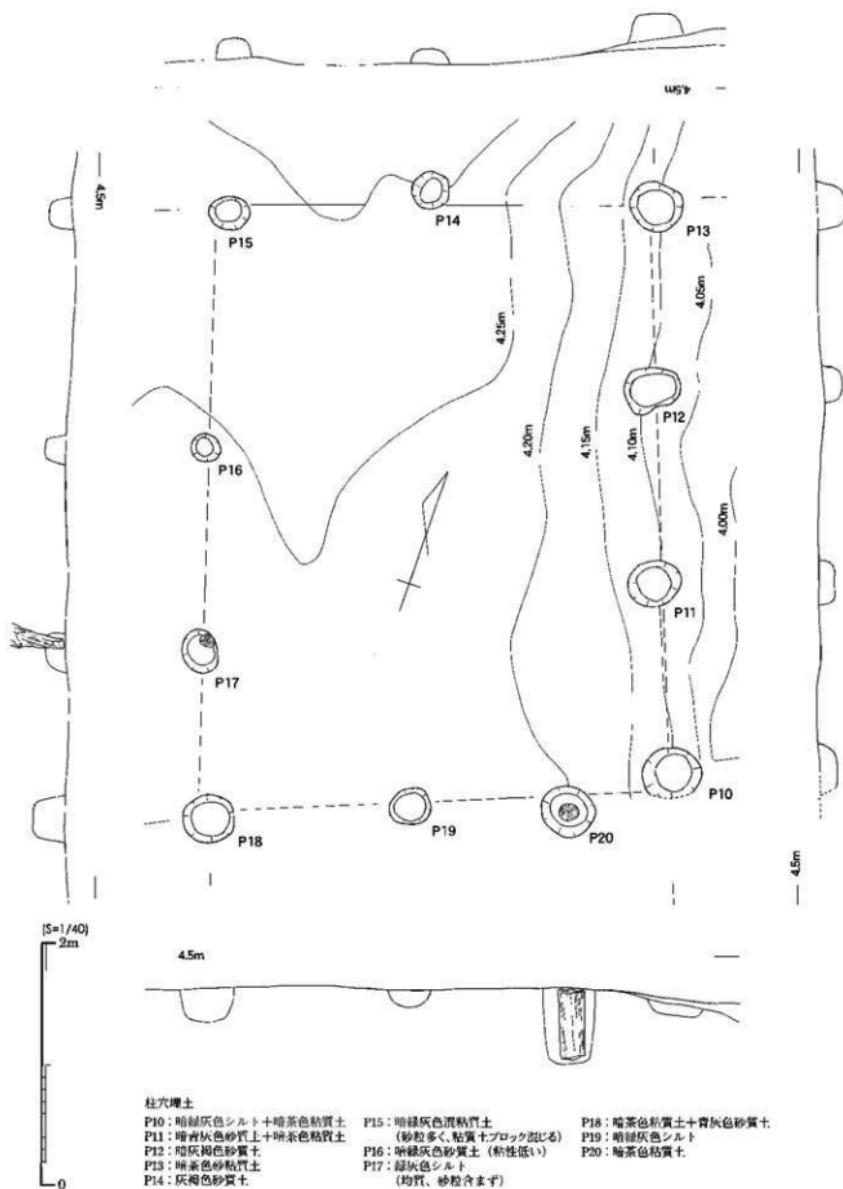
埋土中から出土した遺物の総量は少なく、いずれも残存状態は良くない。遺物は9世紀以前の須恵器、土師器が中心であり、10～13世紀という遺構の年代と合致するような陶磁器類などは一切みられなかった。それは、これらの遺物が溝への廃棄などによって埋没した直接的関係にあるわけではなく、周辺包含層に大量に埋蔵されている前代の遺物が二次的に混入したためと考えられる。遺物は破片化しており、溝と同時期で一次的な共伴関係にあるとは考えにくい。

溝の性格と機能

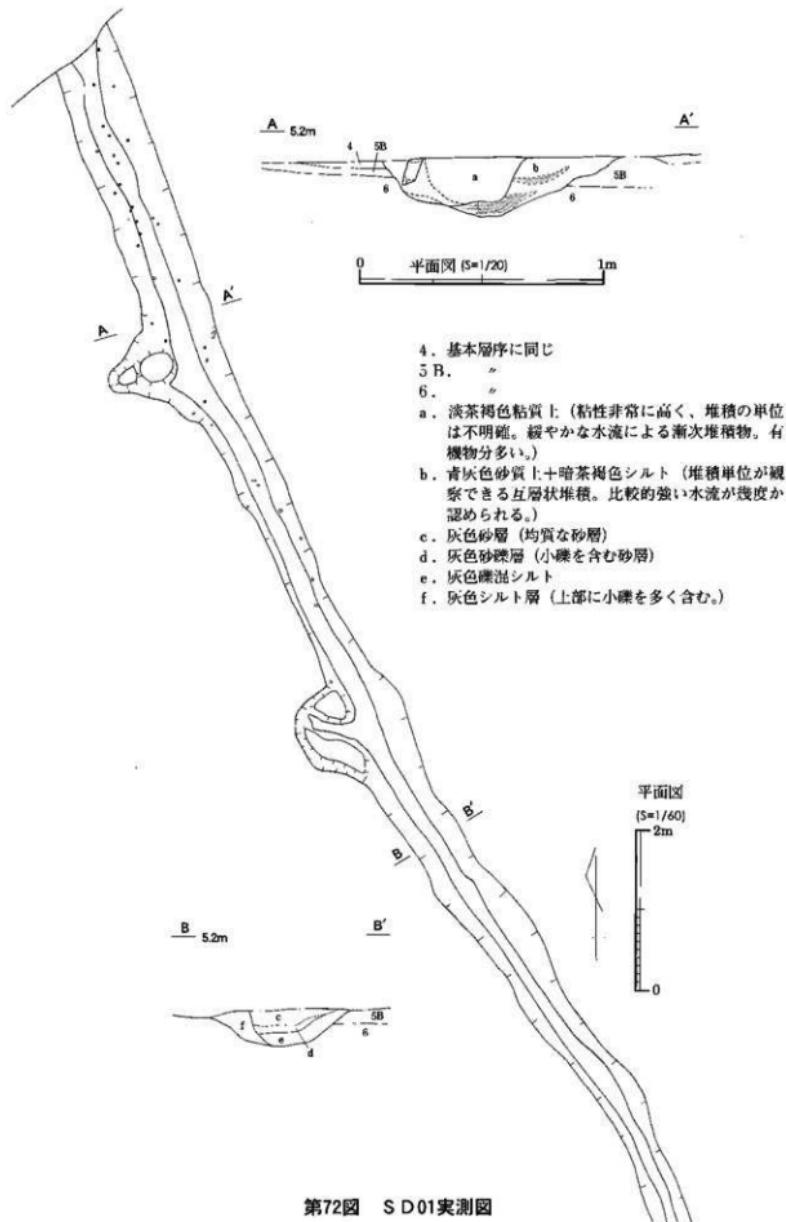
SD01は幅・深さこそ小規模なものであるが、直線的にかなりの長距離を流れるしっかりとした溝である。壁面の立ち上がりが明顯で、自然発生した流路とは考えられないこと、溝埋土に掘り返しの痕跡が認められること、杭などの造作が加えられていることなどの点からみて、人工的に計画され掘り込まれた水路としての機能が考えられる。水量はそれほどあったと考えられないが、常に人為的管理が加えられていたことがうかがえよう。山際から集落を貢献し水田にいたる水の流れのなかで、集落からの排水や水田への用水として機能した人工的な水路と評価できる。



第70図 SB01・SD01の位置



第71図 SB01実測図



第72図 SD 01実測図

写真図版八〇 平安時代の遺構／IV区／SB01



S B 01 完掘時（北から）

写真図版八一

平安時代の遺構／IV区／SB01



SB01 検出時（北から）



SB01 調査風景
(南東から)

写真図版八一 平安時代の遺構／IV区／SD01



SD01 調査風景（南から）

写真図版八三 平安時代の遺構／IV区／SD01



SD01 全景(南から)

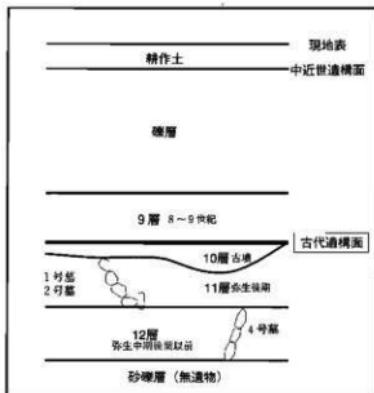
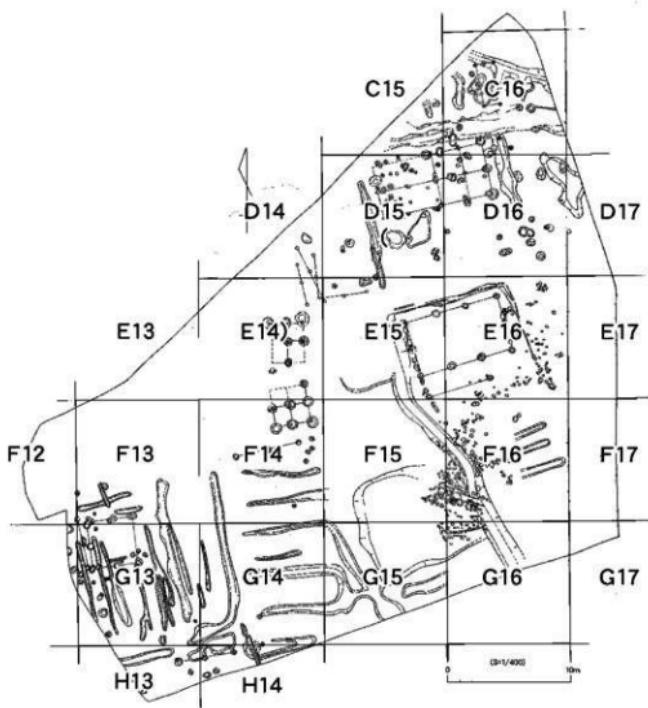


SD01 全景
(北から)

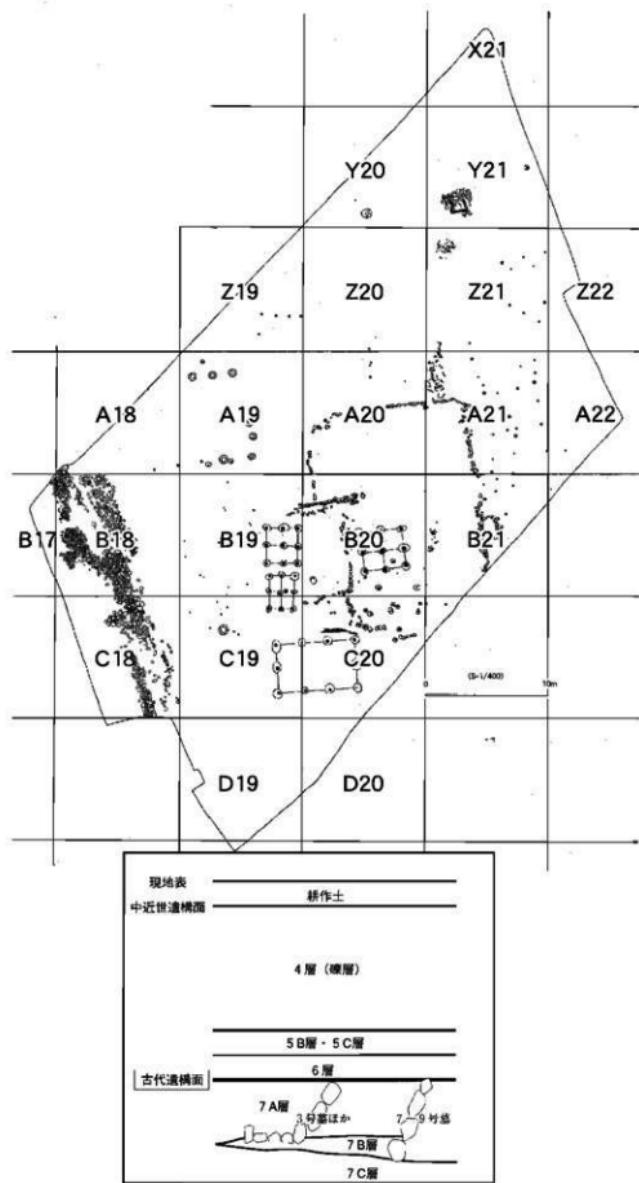
写真図版八四
平安時代の遺構／IV区／S001
1001



上左：北半壁出土状況 上右：杭列検出状況
下左：埋土Aライン堆積状況 下右：埋土Bライン堆積状況
(いずれも南から)



第73図 I 区のグリッドと層序



第74図 IV区のグリッドと層序

第15章 遺物の詳細

第1節 須恵器 (S001～S372)

器種組成

青木遺跡では大量の須恵器が出土した。整理作業においては、この全体の傾向を反映するべく努めて掲載遺物を選別し、372点を掲載することとした。出土した全体を集計することはかなわなかったため、IV区5C層の4グリッド(20m四方)で集計したところ、須恵器は計79.1kg出土している。このうち壺が30.1kgと全体重量の38.1%を占める。次いで蓋、环身、皿が計27.3kg、須恵器全体の34.5%であった。壺と供膳具がほぼ同量であり、1個体あたりの重量を勘案すると、供膳具の比率がかなり高いことが見て取れる。瓶類2.9kg、甌0.5kgと他の器種はそれほど多くない。鉄鉢形を含む鉢が3.8kgとそれなりに含まれていることは注目される。

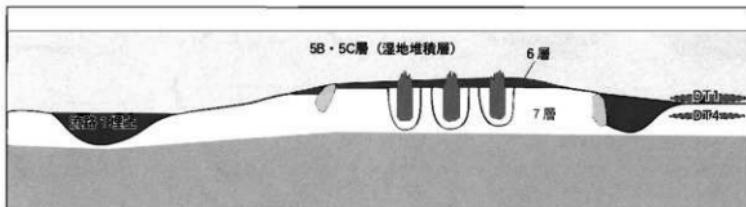
一括土器群の型式差

個々の観察結果については、第17表以下の観察表に記載した。ここでは全体に関する記述を行う。

第79～95図には、器種ごとに実測図を掲載している。包含層からの出土品全体を対象としたために、蓋壺や高壺などで一部古墳時代のものも含まれている。当遺跡は弥生時代中期以降には確実に遺構が営まれており、周辺は継続して生活の場であった。したがって、かなり長期にわたる上器が混在していることが認められる。

このような状態を整理するために、IV区について層位・遺構と対応する一括土器群の抽出を試みた。IV区の上器群は、遺構面を境に層位から大きく3群に分類することができる。①ひとつめは遺構面より下、基盤層にあたるもの。これには7層と、この中で集中した上器層つまりなっているDT4が該当する。②ふたつめは遺構面の直上に堆積したもの。6層および、DT1が該当する。流路1埋土もほぼ同じ。③最後に、遺構面砕後後の堆積上。5B層と5C層が該当する。この2つの層は堆積していた水平位置が異なるだけで、層位の関係としては同一のものである。

第76～78図には、こうした各一括資料として扱える土器群を掲載した。層位的に上、すなわち時期的に新しい群から順になっている。第76図、第77図を見ると、5B・5C層に含まれる須恵器にはかなりの時期幅があることがうかがえる。最も古いもので6世紀代の蓋壺などが含まれているが、これは土壺自体の堆積時期より古いものの混入である。主体となる無高台の壺をみると、体部側面がごくわずかに内湾するものの直線に近く、端部は折り曲げずに丸くおさめている。また、体部が直線的に外へ開き、高台があるものについては底面外縁いっぱいに付くものも含まれている。高台皿は高台が底面の外縁近くにつき、体部が直線的に外に開く。赤彩土器類は底面に赤彩をせず、器形は直線的なものが多い。



第75図 IV区・各土器群の層位的関係

こうした5B・5C層の中心的器種を、これより下位、遺構直上から出土した6層・DT1と比較すると明確な差異が認められる。すなわち、無高台の付は体部側面がはっきり内湾し、口縁端部を強く折るのが主体である。全体に対する蓋の比率も高い。赤彩土器は底面全体を赤彩し、底面はヘラ削りで丸味をもつ。

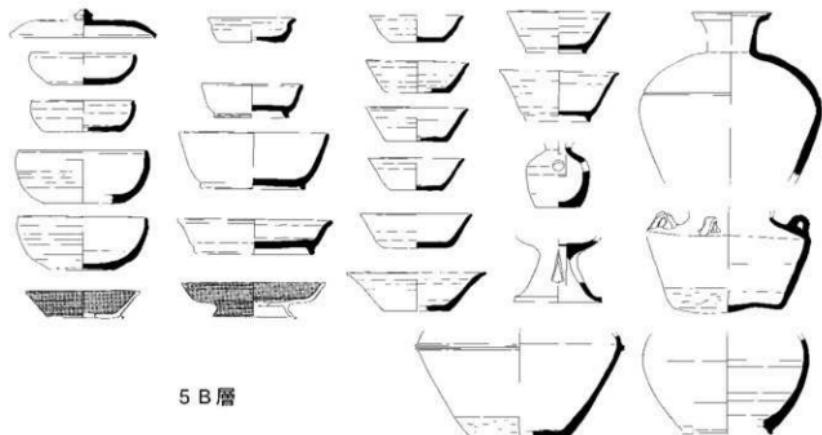
さらに、遺構面の基盤層中に形成されたDT4をみると、かえりのある环身（環H）やかえりのある环蓋（環G）など明らかに占いものが含まれている。輪状つまみの蓋や、宝珠つまみの蓋も含まれる。宝珠つまみの蓋は器高が高く、端部を鋭角に折り曲げるものである。

一括土器群の堆積時期

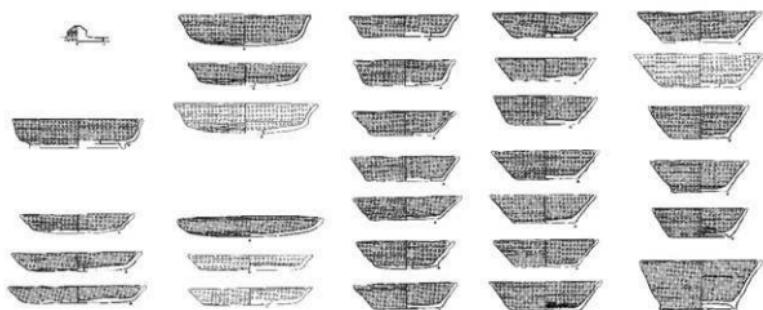
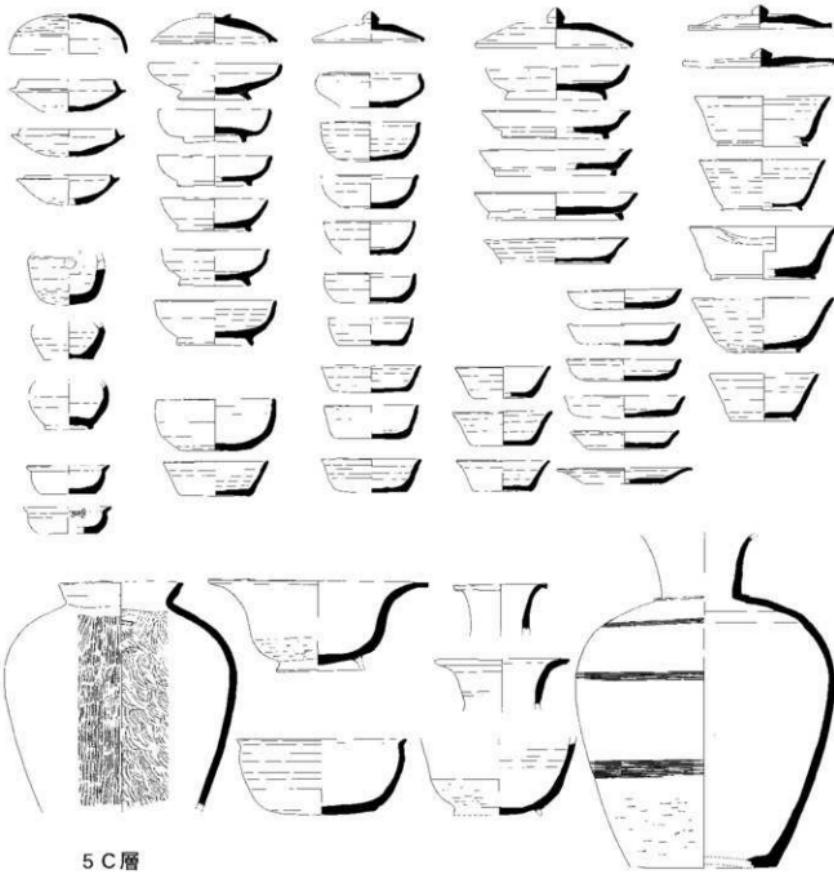
上記のように、層位関係にしたがって、重複する時期もありながら基本的に新旧の関係が明確にみてとることができる。古代の須恵器の絶対年代について、当地域の編年は十分な資料に恵まれず、確固なものとは到底言えないが、従前の編年研究と年代観にしたがって各土器群の時期を以下述べる。

まず、遺構面の基盤層である7層とDT4について、7世紀前半のものを多く含んでいるが、このうちもっとも新しい様相を示す宝珠つまみの蓋を見る限り、堆積時期は8世紀中頃よりさかのばらない。よって、遺構面の年代上限をここに認められる。次に、遺構直上のDT1、6層である。6層には混入した古いものがあるが、一括性の高いDT1をみると8世紀中頃の年代が与えられる。これらを被覆している5B・5C層については、中心をなす坪類はDT1より型式的に新しく、9世紀前葉にその中心があるものと考えられる。また、最も新しいものは5B層にまとめてみられ、体部がわずかに外反する直線的なもので、高台が底面外縁につく。これは松江市半廻田3号窯と同段階のもので、出雲国府などで綠釉陶器との共伴関係から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定されているものである。よって、5B・5C層は9世紀前葉を中心に、最も新しいもので9世紀末～10世紀初頭までの堆積年代が考えられる。

以上を総合すると、遺構面の存続期間は最も幅をもたせて8世紀中頃～10世紀初頭、より限定すれば8世紀中頃～9世紀前葉となる。

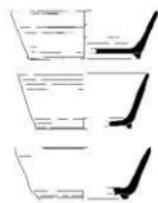
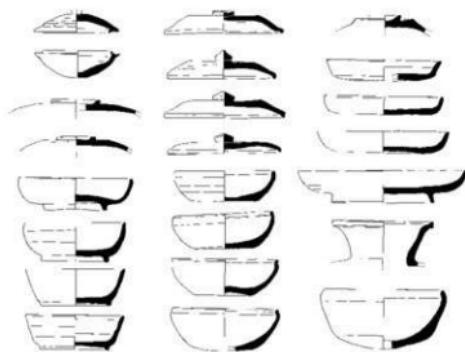


第76図 土器群構成図①

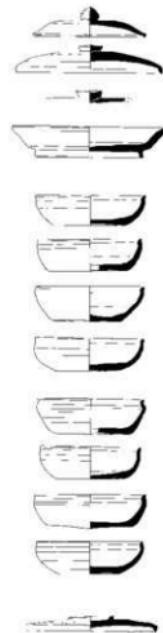
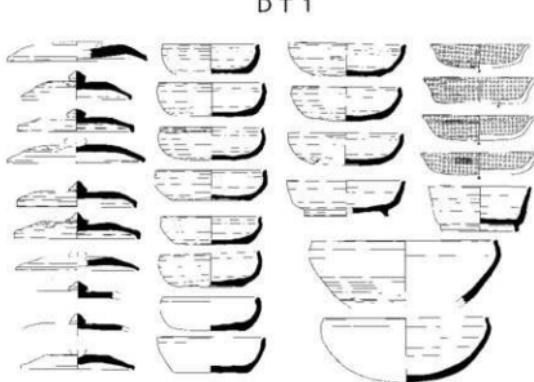


第77図 土器群構成図②

6層

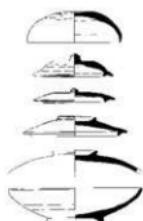


流路 1 埋土中

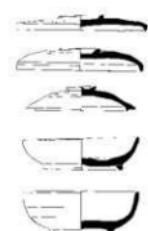
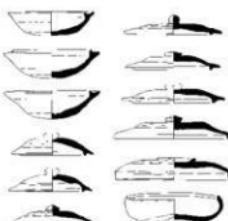


DT 1

7層



DT 4



第78図 土器群構成図③

第17表 須恵器 観察表①

番号	器種	覆	グリッド	層位	口径	底径	基高	残存率	調	整	色	説文・備考
第79回												
S001	蓋	N区	221	5層	(13.0)	(13.2)	4.9	全体の45%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部～肩部 内外面：青灰色1 外面：白色自然釉 ラケズリ			
S002	蓋	IV区	A19	5C層	(14.0)		4.9	全体の40%	内面：体部回転ナデ、人井ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部～肩部 内外面：灰色1 ラケズリ			
S003	蓋	I区	E17	11層	13.4		4.8	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部回転へ 内外面：灰色1 ラケズリ			
S004	蓋	I区	G14	11層	(13.2)		5.0	全体の20%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部両脇へ ラケズリ	内外面：灰色1		
S005	蓋	I区	F17	11層	(14.0)		5.0	全体の40%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部回転へ ラケズリ	内外面：灰色1		
S006	蓋	I区		II層	13.8		3.8	全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部回転へ ラケズリ	内外面：灰色1		
S007	蓋	II区	F15	11層	12.8		3.8	全体の70%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部ナデの 端切り離し底不規	内外面：青灰色1 白色自然釉		
S008	蓋	I区	G14	11層	122		3.9	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部回転へ ラケズリ	内外面：灰色1		
S009	蓋	I区	F15	12層	13.3		4.5	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部静止系 切り後ナデ	内外面：灰色1		
S010	蓋	I区	F15	9層	(14.5)		5.2	全体の70%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部ヘラ切り後肩部 層ラケズリ後ナデ	内外面：灰色1		
S011	蓋	N区	A21	7層	11.1		3.8	全体の90%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部回転へ ラケズリ	内外面：青灰色1		
S012	蓋	I区	F15	10層	10.9	11.5	4.1	全体の98%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部ヘラ切り後ナデ	内外面：青灰色1	II縫隙部に斜日状 斑	
S013	蓋	I区	F15	8層	10.7	11.0	4.1	全体の70%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部ヘラ切り後肩部 回転ヘラケズリ	内外面：青灰色1		
S014	蓋	I区		下層	8.8	9.2	3.5	全体の75%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部へラ 切り後肩部回転ヘラケズリ	内外面：灰色1		
S015	蓋	II区	F12	II層				頂部全周の 10%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：肩部回転ナデ、頂部回転へ ラケズリ	内外面：青灰色1	外面部頂部に漆書記 号「×」	
S016	坏	I区	G13	11層	1.8	4.5	3.7	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部ヘラケ ズリ	内外面：灰色2		
S017	坏	I区	F13	11層	11.1	5.5	4.1	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部静止系 切り後ナデ、底部周ヘラケズリ	内外面：灰色1		
S018	坏	N区	C29	50層	11.3		3.9	全体の90%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ヘラ 切り後ヘラケズリ	内外面：青灰色3 外面：白色自然釉		
S019	坏	I区	F15	II層	11.4	5.5	4.5	全体の95%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転へ ラケズリ	内外面：灰色2		
S020	坏	N区	Y21	6層	10.0		4.1	全体の98%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転へ ラケズリ	内外面：灰色1		
S021	坏	I区	F13	9層	10.5	13.8	4.1	全体の95%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ、底部ヘラ切り後 回転ヘラケズリ	内外面：青灰色1 外面一部に白色自 然釉		
S022	坏	I区	613	10層	(10.1)	5.4	4.1	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転へ ラケズリ	内外面：灰色1 外面一部白色自 然釉		
S023	坏	I区	F15	11層	10.8	5.0	3.8	全体の90%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、体部下端一 統回転ヘラケズリ	内外面：灰色3		
S024	坏	IV区	B18	5C層	11.4		3.3	全体の25%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ヘラケ ズリ	内外面：青灰色1		
S025	坏	I区	F15	10層	(10.8)		4.0	全体の50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ヘラ切 り後ナデ	内外面：茶褐色1		

第18表 須恵器 觀察表②

番号	器種	器 種	グリ ッド	層位	口径	底径	器高	残存率	調 査	色 調	施文・備考
S026	环	IV区	C20	50層	10.2	12.4	3.7	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部へラクゼリ ア切り後、周囲ラケズリ	内外面：灰色1	白色自然釉
S027	环	I区	F15	II層	9.7		3.7	全体の90%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部へラ切 ア後ナデ、底部外周ヘラケズリ	内外面：青灰色1	
S028	环	I区	F15	II層	9.4		3.7	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部へラ切 ア後ナデ	内外面：灰色1	白色自然釉
S029	环	I区	F15	II層	9.6		3.6	全体の90%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部へラ切 ア後ナデ	内外面：灰色1	白色自然釉
S030	环	I区	F15	10層	8.3		3.4	全体の98%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部へラ切 ア後ナデ	内外面：灰色2	白色自然釉
S031	环	IV区	Z21	6層	8.2		3.4	全体の95%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部へラ切 ア後ナデ	内外面：灰色1	外面：白色自然釉

第80回

S032	蓋	IV区	Z21	7層	7.2	9.7	2.8	全体の80%	内面：花部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、肩部回転へ ラケズリ	内外面：青灰色1	
S033	蓋	IV区	Z21	6層	8.0	10.4		全体の90%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部へ ラケズリ	内面：灰色1 外面：灰色2	
S034	蓋	IV区	A21	7層	(7.6)	(9.9)	1.8	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ	内外面：灰色1	外面：白色自然釉
S035	蓋	IV区	A21	7層	10.4	12.6	2.5	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ	内外面：灰色1	外面：白色自然釉
S036	蓋	I区	G13	11層	12.1	14.2	2.7	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転へラケズリ	内外面：灰色1	
S037	蓋	I区	G15	11層	(17.7)	(18.2)		口縁金剛の 20%	内面：回転ナデ	内外面：灰色1	
S038	蓋	II区	C15		(15.6)	(17.0)	3.6	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部ナデの 為切り離し、底不明	内外面：青灰色1	外面：白色自然釉
S039	蓋	II区	B15	11層	16.0	16.3	3.7	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部ナデの 為切り離し、底不明	内外面：青灰色1	
S040	蓋	IV区	C20	50層	13.6	15.5	3.5	全体の50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ	内外面：灰色1	
S041	蓋	II区	F15	10層	(15.2)	(16.0)	4.0	全体の40%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部へ ラケズリ	内外面：灰色2	
S042	蓋	II区	B16	9層	16.7	17.0	3.3	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ、頂部へラケズリ	内外面：茶褐色2	
S043	蓋	I区	G15	11層	(15.3)	(15.8)	3.2	全体の50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部ナデの 為切り離し、底不明	内外面：灰色1	
S044	蓋	I区	E17	10層	(14.8)	(15.8)	3.6	全体の40%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部へ ラケズリ	内外面：青灰色2	
S045	蓋	I区	F17	11層	(15.6)	(15.9)	3.4	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、肩部へラカ ズリ	内面：暗褐色1 外面：茶褐色1	
S046	蓋	I区	F17	11層	(15.0)	(15.3)	2.4	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部ナデの 為切り離し、底不明	内外面：灰色2	口縁端部 白色自然釉
S047	蓋	IV区	Z20	6層				全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ	内外面：灰色1	
S048	蓋	IV区	Z21	7層				全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ	内外面：灰色2	外面：白色自然釉
S049	蓋	IV区	Z21	6層				全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部回転へ ラケズリ	内外面：青灰色1	
S050	蓋	I区	G14	10層	18.6	19.0		全体の60%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ	内外面：灰色1	
S051	蓋	I区	C16	30層	(16.6)	154		全体の25%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、肩部へ ラケズリ、後回転ナデ、周へ	内外面：青灰色2	
S052	蓋	I区	G15	10層	(15.8)	(16.0)	2.1	全体の25%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部ナデの 為切り離し、底不明	内外面：灰色1	
S053	蓋	I区	G13	11層	(14.3)	(14.4)	1.5	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頂部ナデの 為切り離し、底不明	内外面：灰色1	

第19表 須恵器 観察表③

番号	部 位	露 出 度	グリ ッド	層 位	口 径	底 径	高 さ	残存率	調 整	色 調	施文・備考
S054	蓋	IV区	X21	5層				全体の50%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部カキド	内外面：灰色1	
S055	蓋	IV区	X21	6層	14.4	14.6	2.8	全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部回転系 切り後肩部一層へラケズリ	内外面：青灰色1	口縁部：かなり歪み有り
S056	蓋	I区			13.8	14.1	3.2	全体の50%	内面：体部回転ナデ、人井ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部回転系 切り後肩部一層へラケズリ	内外面：灰色1	
S057	蓋	I区	F15	10層	(15.8)	(16.0)	2.8	全体の25%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部ナデの 内外面：灰褐色1 切り離し前不明	内外面：灰褐色1	

第81回

S058	蓋	IV区	Z21	5C層	13.0	13.6	3.8	全体の55%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ	内外面：青灰色1	
S059	蓋	IV区	Z21	6層	13.2	13.6	3.5	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、肩部回転へ ラケズリ	内外面：茶褐色2	
S060	蓋	IV区	A20	7層	14.8	14.9	3.2	全体の85%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部回転系 切り後	内外面：灰褐色4	
S061	蓋	I区	C16		13.0	13.35	2.9	全体の90%	内面：体部回転ナデ、人井ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部回転系 切り	内外面：灰色2	
S062	蓋	I区	G15	10層	14.8	15.0		全体の50%	内面：体部回転ナデ、頭部回転系 切り	内外面：灰色1	
S063	蓋	I区	F15	12層	13.4	13.6	2.7	全体の80%	内面：体部回転ナデ、人井ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部回転へ ラケズリ	内外面：灰色1	
S064	蓋	IV区	Z21	7層	13.8	14.0	2.4	全体の45%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ	内外面：灰色2	外側：白色自然輪
S065	蓋	I区			(14.0)	(14.2)	2.7	全体の30%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部回転系 後肩部にかけて回転へラケズリ	内外面：青灰色2	
S066	蓋	I区	E16		17.4	17.7	3.9	全体の75%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部ナデ後 肩部にかけて回転へラケズリ	内外面：青灰色1	
S067	蓋	I区		12層	17.2	17.4	4.3	全体の90%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部回転系 切りナデ	内外面：灰色2	
S068	蓋	I区	G15	10層	17.6		4.2	全体の50%	内面：体部回転ナデ、人井ナデ 外面：体部回転ナデ、肩部回転へ ラケズリ	内外面：青灰色2	
S069	蓋	I区	G15	10層	(18.0)	(18.0)	5.2	全体の50%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部一肩部 回転へラケズリ	内外面：灰色1	
S070	蓋	IV区	B18	5C層	19.0	19.4	5.0	全体の50%	内面：体部回転ナデ、頭部回転へ ラケズリ	内外面：灰色1	
S071	蓋	I区			18.4	19.0		全体の90%	内面：体部回転ナデ、人井ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部回転系 切り後肩部にかけて回転へラケズリ	内外面：灰白色 内外面：縁部：青灰色1	
S072	蓋	I区	E14	35層	(18.4)	18.7	3.6	全体の30%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部回転系 後肩部にかけて回転へラケズリ	内外面：灰色1	
S073	蓋	I区	D15	9層	18.4	18.6	3.8	全体の50%	内面：体部回転ナデ、人井ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部回転系 切り	内外面：灰白色	
S074	蓋	I区	G13	10層	(17.6)	(17.6)	3.6	全体の25%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部一周回 転へラケズリ	内外面：青灰色2	
S075	蓋	IV区	Z21	5B層	(17.3)	(17.6)	3.4	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部回転へ ラケズリ	内外面：青灰色1	
S076	蓋	I区	G16	8層	(16.8)	(17.0)		全体の20%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部一周回 転へラケズリ	内外面：灰色1	
S077	蓋	I区	F17	10層	17.2	17.6	3.1	全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部一周回 転へラケズリ	内外面：青灰色2	
S078	蓋	IV区	E21	35層	17.5	17.6	2.9	全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、頭部一周回 転へラケズリ	内外面：青灰色2	
S079	蓋	IV区	C20	5C層	18.6	18.9	2.3	全体の35%	内面：体部回転ナデ、天井ナデ 外面：体部回転ナデ	内外面：灰色2	
S080	蓋	IV区	Y21	7層	21.0	21.2	2.2	全体の35%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ	内外面：灰色1	外側：白色自然輪

第20表 須恵器 観察表④

番号	器種	グリッド	層位	口径	底径	器高	残存率	調査	色調	論文・備考	
第82回											
S081	坏	IV区	C19	30層 (16.2)	8.3	4.5	全体の50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ヘラ切 り後ナデ	内外面：灰色1		
S082	坏	IV区	Z21	7層 (16.2)	7.0	4.5	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 内外面：灰色1 為切り離し痕不明			
S083	坏	I区	F15	11層 (14.8)	7.5	4.7	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 内外面：青灰色1 為切り離し痕不明			
S084	坏	I区	F13	11層 15.8	8.2	5.5	全体の55%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 内外面：灰白色2 為切り離し痕不明	外面純部 ヘラ記 号 X印		
S085	坏	I区	B15		13.8	8.8	4.9	全体の75%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 内外面：青灰色1 為切り離し痕不明	外面の一部に白色 自然積 ヘラ書き	
S086	坏	I区	F13	10層 (12.9)	7.2	4.7	全体の25%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	外面：灰色2		
S087	坏	I区	C16	10層 (12.6)	7.4	4.8	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部静止糸 切り	外面：青灰色1		
S088	坏	IV区	Z21		14.2	8.1	5.1	全体の80%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	外面：灰褐色5	
S089	坏	I区	F17	11層 13.6	8.2	4.7	全体の70%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	内面：灰色2 外面：茶褐色3		
S090	坏	I区	F15	10層 (14.4)	8.4	4.8	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部静止糸 切り	外面：灰色2		
S091	坏	IV区	Y20	30層 (14.8)	(9.0)	5.5	全体の70%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	外面：茶褐色2		
S092	坏	I区	D15	10層 (13.8)	(8.3)	5.0	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部静止糸 切り	外面：茶褐色2		
S093	坏	I区	E14		(14.0)	8.0	5.4	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	外面：青灰色1	
S094	坏	IV区	Y20	6層 (13.6)	7.4	4.0	全体の70%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	外面：青灰色2		
S095	坏	I区	F13	9層 13.2	7.9	4.9	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	外面：灰色1		
S096	坏	IV区	Z21	7層 12.2	8.2	4.9	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	外面：灰色1		
S097	坏	IV区	B21	50層 13.6	9.0	4.6	全体の80%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	外面：灰色1		
S098	坏	IV区	A21	50層 (13.1)	8.2	4.6	全体の25%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り後ナデ	外面：灰色1		
S099	坏	I区	F15	10層 13.6	8.6	4.4	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	外面：茶褐色4		
S100	坏	IV区	B21	30層 (13.7)	(8.6)	5.3	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	外面：灰褐色4		
S101	坏	I区	B15	10層 (13.9)	9.4	4.7	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	外面：灰褐色4		
S102	坏	I区	G15	10層 (13.0)	9.2	4.7	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	外面：灰褐色4		
S103	坏	I区	E15		14.3	9.4	4.7	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部白色自 然積の為より離し痕不明	外面：白色自然積	
S104	坏	I区	G15	10層 13.2	8.3	4.7	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	外面：灰色1		
S105	坏	I区	E14		(15.2)	10.6	4.0	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	内面：灰色1 外面：灰色2	

第21表 須恵器 觀察表⑤

番号	西場	横場	グリッド	層位	口径	底径	器高	残存率	調	鑑	色調	施文・備考
S106	坪	IV区	C19	50層	(14.0)	9.2	3.8	全体の35%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 灰褐色4		
S107	坪	I区			14.1	9.2	4.6	全体の60%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 灰色1	外表面一部白色自然 物	
S108	坪	I区	F13	10層	14.6	9.8	4.4	全体の60%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面: 青灰色1	外表面に白色自然物	
S109	坪	IV区	B20		12.4	9.0	4.5	全体の60%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不規則	内外面: 青灰色2		
S110	坪	IV区	C19	50層	(13.1)	8.8	4.0	全体の50%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不規則	内外面: 灰色1		
S111	坪	I区	E15	10層	(13.8)	(8.4)	5.4	全体の60%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 青灰色2		
第33回												
S112	坪	I区			(11.8)	9.2	4.4	全体の40%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面: 灰褐色2 外表面: 灰褐色2 外表面: 体部灰褐色 外表面: 青灰色1		
S113	坪	I区	G15	10層	11.7	8.4	4.0	全体の70%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	内外面: 灰褐色2		
S114	坪	I区	F15	9層	11.8	8.3	3.9	全体の50%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 青灰色2		
S115	坪	I区	E15	39層	12.2	8.6	3.8	全体の30%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 青灰色1		
S116	坪	IV区	Z21	6層	11.8	8.4	4.2	全体の35%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り後ナデ	内外面: 灰色1		
S117	坪	IV区	Z21	58層	(12.3)	8.8	5.2	全体の60%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 灰色2		
S118	坪	IV区	Y20	6層	11.8	7.8	4.5	全体の40%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り後ナデ	内外面: 灰色1		
S119	坪	I区	G15	10層	(11.8)	(8.4)	4.8	全体の25%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	内外面: 灰褐色4		
S120	坪	I区	F13	9層	(13.8)	(9.9)	4.6	全体の20%	内面: 回転ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	内面: 灰色1 外表面: 青灰色2		
S121	坪	I区	G13	9層	(14.4)	(8.8)	4.5	全体の40%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	内外面: 灰色1		
S122	坪	I区	E16	10層	(15.4)	8.6	5.2	全体の30%	内面: 回転ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 灰色1		
S123	坪	I区	E13	9層	16.0	10.6	5.5	全体の40%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 青灰色1		
S124	坪	I区	G13	10層	16.8	12.0	5.2	全体の30%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部静止糸 切りか	内面: 灰色2 外表面: 体部灰褐色2, 底部灰褐色2		
S125	坪	I区	F15	8層	(15.9)	10.4	—	全体の35%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面: 灰色2		
S126	坪	I区	D15	34層	(16.8)	(11.9)	6.7	全体の50%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面: 青灰色1 外表面: 体部黑色、 底部青灰色1		
S127	坪	II区	D16	9層	(16.4)	10.8	6.4	全体の40%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面: 青灰色1 外表面: 黑色		
S128	坪	IV区	B17	5A層	16.8	11.8	7.0	全体の35%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面: 灰白色 外表面: 灰色1		
S129	坪	IV区	Z21	5B層	(18.0)	02.0	7.0	全体の30%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 茶褐色2		
S130	坪	IV区	A20	5C層	16.4	11.0	6.1	全体の30%	内面: 回転ナデ	内外面: 灰色1		
S131	坪	I区	D15	34層	(15.8)	(10.0)	6.0	全体の25%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外面: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 灰色1		
S132	坪	I区	D15		(17.4)	(12.0)	6.8	全体の25%	内面: 回転ナデ 外面: 回転ナデ、底部ナデの為切 り離し痕不明	内外面: 灰色1		

第22表 須恵器 観察表⑥

番号	器種	面	グリッド	層位	口径	底径	器高	残存率	調 整	色 国	総文・備考
S133	坏	I区	G15	10層	(17.4)	(12.2)	6.5	全体の30%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色2	
S134	坏	IV区	B20	50層	(17.7)	(22.6)	6.6	全体の40%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色1	
S135	坏	IV区	Y21	58層	(12.4)	7.4	5.0	全体の50%	内面：底部回転ナデ、中央ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：青灰色1 外面：青灰色2	
S136	坏	IV区	Z20	50層	(15.3)	(9.8)	6.2	全体の40%	内面：底部回転ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色1	
S137	坏	IV区	Y20	50層	(13.3)	8.0	5.9	全体の50%	内面：底部回転ナデ、中央ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1	
S138	坏	IV区	Z19	58層	(14.4)	7.7	6.2	全体の30%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰褐色5	
S139	坏	IV区	Z20	50層	(17.2)	(8.9)	6.7	全体の40%	内面：底部回転ナデ、中央ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：灰色1 外面：灰色2	
第84図											
S140	坏	IV区	B18	50層	(12.2)	7.0	4.2	全体の50%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部静止糸 切り	内外面：灰色2	
S141	坏	I区	E14		13.4	8.7	4.1	全体の90%	内面：底部回転ナデ、中央ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色1	
S142	坏	I区	E13		(13.2)	7.1	4.6	全体の80%	内面：底部回転ナデ、中央ナデ 外面：底部回転ナデ、底部ハケメ の為切り離し抜き不規	内外面：灰色1 外面：縁部：灰褐色 色4	
S143	坏	IV区	A19		11.8	7.8	3.9	全体の90%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切りナデ	内外面：灰褐色4	
S144	坏	I区	D15	10層	(14.0)	(8.0)	4.1	全体の25%	内面：底部回転ナデ、中央ナデ 外面：底部回転ナデ、底部静止糸 切り	内外面：灰色2	
S145	坏	IV区	Y20	6層	13.0	6.9	4.5	全体の70%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色1	
S146	坏	IV区	Z21	7層	(12.7)	(7.0)	5.1	全体の60%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り後ナデ	内外面：青灰色1	
S147	坏	I区	D16		(13.0)	8.0	3.9	全体の30%	内面：底部回転ナデ、中央ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：灰褐色 外面上半：青灰色3 下半：灰褐色4	
S148	坏	I区	G13	10層	13.3	8.0	4.5	全体の90%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1	
S149	坏	IV区	Y21	58層	12.6	7.9	3.9	全体の80%	内面：底部回転ナデ、中央ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色2	
S150	坏	IV区	B20		(13.0)	7.2	3.8	全体の70%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色2	
S151	坏	I区	E15	9層	(13.8)	(8.8)	4.2	全体の30%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色2	
S152	坏	I区	G14	9層	(12.6)	8.4	4.4	全体の50%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰褐色3	
S153	坏	IV区	Z21	58層	(12.3)	(9.4)	3.9	全体の50%	内面：底部回転ナデ、中央ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：茶褐色2 外：茶褐色1	
S154	坏	I区	F13	9層	(12.7)	(9.0)	3.5	全体の70%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1	
S155	坏	IV区	B17		14.0	10.5	4.5	全体の90%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	内外面：灰褐色3	
S156	坏	IV区	Z21	6層	12.0	7.0	4.7	全体の95%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色1	
S157	坏	IV区	Y21	6層	12.2	8.8	3.9	全体の95%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色1	
S158	坏	IV区	Z21	6層	12.6	8.0	3.8	全体の85%	内面：底部回転ナデ、見込ナデ 外面：底部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1	

第23表 須恵器 観察表⑦

番号	器種	部位	グリッド	層位	口径	底径	標高	残存率	鏡	整	色調	施文・備考	
S159	坏	I区	F15	12層	12.9	9.3	4.9	全体の80%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色2			
S160	坏	I区	G13	11層	(12.6)	8.8	4.8	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色1			
S161	坏	I区		II層	(11.8)	8.8		4.3	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰褐色3		
S162	坏	I区	B13	10層	(12.6)	(8.0)	4.6	全体の25%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色1			
S163	坏	I区	E13	9層	13.7	9.0	4.1	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：青灰色3			
S164	坏	I区	G16	8層	(13.4)	(10.0)	4.4	全体の35%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色1			
S165	坏	I区	F13	10層	(12.1)	8.0	4.1	全体の60%	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色1			
S166	坏	I区	F15	11層	11.7	6.9	4.5	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色2			
S167	坏	I区	E15	10層		12.0	8.8	4.6	II層全周の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色1		
S168	坏	IV区		5C層		11.9	7.7	4.8	全体の95%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色1		
S169	坏	I区	D15	9層	(12.2)	(8.6)	4.8	全体の25%	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ及びナデ、底部回転糸 切り	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ及びナデ、底部回転糸 内外面：灰色1 外面上半灰色2			
S170	坏	I区	F16	8層	11.8	7.7	4.4	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色1			
S171	坏	I区	E16	10層	(11.8)	(8.0)	4.5	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：灰色1 外面：上半灰色1、下下灰白色1			
第85回													
S172	坏	I区	B15	34層	(11.8)	(8.0)	4.4	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：茶褐色2			
S173	坏	I区	F16	9層	(12.0)	(7.0)	4.0	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：青灰色2			
S174	坏	I区	F16	9層	(11.4)	(6.8)	4.2	全体の23%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：青灰色1			
S175	坏	I区	F13	10層	(11.2)	7.0	4.4	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰褐色2			
S176	坏	I区	D15	34層	11.8	9.0	4.0	全体の80%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：侧面上半灰 色2			
S177	坏	IV区	C19	3C層		11.6	6.2	4.2	全体の70%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰褐色3		
S178	坏	IV区	Z20	5C層	(10.9)	6.7	4.2	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰褐色4			
S179	坏	I区	F15	10層	(11.7)	(6.4)	4.9	全体の25%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰褐色4			
S180	坏	I区	E14	9層	(11.7)	(7.0)	3.7	全体の45%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：青灰色1			
S181	坏	I区	G15	10層		11.4	6.4	4.0	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色2		
S182	坏	I区	G15	10層		12.2	9.2	4.5	全体の70%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色1		
S183	坏	I区	F17	11層	(11.6)	(8.2)	4.2	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 内外面：灰色1			
S184	坏	I区	G15	11層	(12.0)	(8.0)	4.5	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：橙褐色3 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 外面上半灰褐色4			

第24表 須恵器 観察表⑧

番号	器種	器 型	グリ ッド	層位	口径	底径	器高	残存率	調 査	色 調	説文・備考
S185	坏	I区	F13	8.9層	11.6	9.1	4.3	全体の90%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰褐色1	
S186	坏	I区	D15	(12.0)	7.7	4.1		全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰褐色2	
S187	坏	I区	E14	9層 (11.7)	8.4		3.9	全体の50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰褐色2	
S188	坏	I区	G13	10層 (11.7)	(8.6)	4.2		全体の25%	内面：体部回転ナデ、体部回転糸 外面：体部回転ナデ、中央ナデ 糸切り	内外面：灰褐色1	
S189	坏	I区	F15	12層	11.8	8.0	4.3	全体の70%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色1	
S190	坏	I区	B16	22層 (10.6)	7.6	4.0		全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色4	
S191	坏	I区	G13	9層 (11.2)	7.0		4.1	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：青灰色2	
S192	坏	I区	F15	12層	12.0	6.1	3.6	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部へラ切 り後ナデ	内外面：灰褐色1	胎土に空気が入り 焼成不良 体部外 面ヘラ記号
S193	坏	I区	F15	10層	10.6	7.3	4.7	全体の80%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色2	
S194	坏	I区	D15	22層 (10.0)	8.2	4.3		全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色1	
S195	坏	I区	F13	9層 (11.3)	7.8	4.9		全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：茶褐色2	
S196	坏	IV区	A19	50層	10.8	7.8	3.7	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色5	
S197	坏	I区	G13	9層 (11.9)	(9.0)	4.5		全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：茶褐色1	
S198	坏	I区	G16	10層 (10.0)	8.0	3.9		全体の35%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色1	白色自然釉
S199	坏	I区	D15	34層 (11.9)	7.8	5.1		全体の80%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：茶褐色1、 外面部上半灰褐色2	
S200	坏	I区	F13	10層	11.2	8.0	4.9	全体の25%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色1	
S201	坏	I区	D15	34層 (10.6)	(7.0)	4.55		全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色2	
S202	坏	I区	G13	9層 (11.2)	7.7	4.1		全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色1	
S203	坏	I区	F15	10層 (11.3)	7.7	4.5		全体の80%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色1	
S204	坏	I区		34層	11.2	8.3	3.8	全体の75%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色1、 外面口縁黒色	
S205	坏	I区	G15	10層 (10.2)	6.6	4.6		全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色4	
S206	坏	I区	G15	10層 (11.2)	8.0		4.2	全体の98%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色4	かなりの重み有り
S207	坏	I区	F17	10層 (11.2)	(7.8)	3.8		全体の35%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色1	
S208	坏	I区	E14	34層 (10.2)	(4.7)	3.9		全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：青灰色2	外面口縁黒色：灰褐色2
S209	坏	IV区	Z19	50層 (10.2)	(7.8)	3.4		全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：青灰色3	
S210	坏	IV区	Z19	50層 (9.8)	(6.4)	3.8		全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 糸切り	内外面：灰褐色4	

第25表 須恵器 観察表⑨

番号	器種	蓋 グリ ッド	部位	口径	底径	器高	残存率	内 容	色 調	施文・備考	
S211	坏	I区	F17	10層	(9.9)	6.3	4.3	全体の50% 外側	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部回転糸	内外面: 青灰色1 切り	
S212	坏									内面ヘラ記号	
S213	坏	I区 N溝		11.4	8.5	3.9	全体の90%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 回転ナデ、底部回転糸	内外面: 灰褐色4	底部外面にヘラ記号「は」。外面一部に黒斑	
第26図											
S214	坏	I区	D16		13.4	(8.0)	3.5	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部ヘラおこし	内外面: 灰色1	外面: 自然物	
S215	坏	IV区	B21	50層	(12.0)	(8.6)	3.3	全体の40%	内面: 体部回転ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部ヘラキ り後ナデ	内外面: 灰褐色4	
S216	坏	I区	G13	10層	13.6	10.4	3.9	全体の90%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部回転糸	内外面: 灰色1	
S217	坏	I区	F16	10層	(13.2)	8.0	4.4	口縁全周の 50%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 灰色1 外側: 口緑灰色2	
S218	坏	IV区	Z20	50層	(12.4)	(7.4)	3.9	全体の10%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 灰色1	
S219	坏	I区	F17	10層	12.8	8.0	4.5	全体の80%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部螺旋状 の條有り(5条)	内外面: 灰褐色4	外面に火漆
S220	坏	IV区	A21	7層	(13.2)	(9.4)	3.8	全体の35%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部回転糸	内外面: 青灰色2	
S221	坏	IV区			(13.5)	(7.6)	3.8	全体の50%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部静止糸 切り	内外面: 灰褐色4	
S222	坏	IV区	R17	50層	(11.2)	8.5	4.2	全体の30%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り後ナデ	内外面: 茶褐色1	
S223	坏	I区	G13	9層	(11.8)	(8.2)	4.2	全体の40%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 灰色1	
S224	坏	I区	D15	9層	(10.8)	7.4	3.7	全体の50%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 灰褐色4	
S225	坏	IV区	Z20	50層	9.8	7.2	4.1	全体の40%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部ヘラ切 り後ナデ	内外面: 灰色2 口縁内面に煤付着 灯明跡か	
S226	坏	IV区	A19	50層	11.9	9.4	3.8	全体の95%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部ヘラ切 り後ナデ	内外面: 灰褐色4	
S227	坏	I区	E14	34層	(13.0)	8.6	3.6		内面: 回転ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部ヘラ切 り後ナデ	内面: 灰褐色 外側: 茶褐色3	内外面に火漆あり
S228	坏	I区	D16		12.9	9.0	3.9	全体の70%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 回転ナデ、底部ヘラおこし 後ナデ一層、ラケズリ	内面: 茶褐色1 外側: 灰褐色4、 青灰色1	内外面に火漆
S229	坏	I区	E16	8層	(14.2)	4.6	3.7	全体の30%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面: 茶褐色3 外側: 灰褐色3	焼成が非常に甘い
S230	坏	I区	B15		(14.6)	(8.6)	6.4	全体の30%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部回転糸 ラケズリ	内面: 灰色2 外側: 茶褐色2	
S231	坏	I区	F16	8層	(15.2)	7.0	5.6	全体の50%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部ヘラ切 り	内面: 灰褐色1	
S232	坏	IV区	B19	50層	(14.4)	(8.7)	6.4	全体の25%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部静止糸	内外面: 灰褐色3 切り後ナデ	
S233	坏	IV区	Z21	6層	(14.4)	(8.7)	7.3	全体の40%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 灰色2	
S234	坏	IV区	A21	58層	(15.5)	(9.6)	6.5	全体の30%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面: 灰色1	
S235	坏	IV区	Z21	58層	(15.4)	(7.5)	6.6	全体の35%	内面: 体部回転ナデ、中央ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部静止糸 ラケズリ	内外面: 灰色1	
S236	坏	I区	F13	9層	(14.6)	(6.0)	6.1	全体の40%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部静止糸 切り	内外面: 灰色1	
S237	坏	I区	E14	9層	(13.8)	(7.6)	6.1	全体の30%	内面: 体部回転ナデ、見込ナデ 外側: 体部回転ナデ、底部静止糸 切り後ナデ	内外面: 灰色1	

第26表 須恵器 観察表⑩

番号	基盤	グリッド	層位	口径	底径	器高	残存率	調査	色調	施文・備考		
第87回												
S238	坏	IV区		12.0	7.4	4.2	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 外面部：灰色2			
S239	坏	IV区	D19	5層	(11.8)	(6.2)	4.0	全体の30%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色1 外面部：灰色2		
S240	坏	I区	G15	8層	12.0	7.8	4.1	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1		
S241	坏	IV区	A19	50層	(11.6)	7.0	3.9	全体の10%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色1		
S242	坏	IV区	A18	50層	(12.2)	7.5	4.2	全体の70%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1		
S243	坏	IV区		50層	(11.3)	7.2	3.8	全体の70%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り後ナデ	内外面：灰褐色1 外面部：黑色部黒褐色有り		
S244	坏	IV区	Z19	58層	(12.4)	(7.0)	4.2	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1		
S245	坏	IV区	A19	58層	(11.2)	(6.0)	3.3	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1		
S246	坏	IV区	Z20	50層	12.6		8.4	4.4	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：灰色2 外面：灰白色1～青灰色2	
S247	坏	IV区	Z19	58層	12.4	7.5	3.9	全体の75%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰褐色2 外面部：底部厚付有り		
S248	坏	IV区	Z19	58層	(11.5)	(6.3)	4.0	全体の20%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色1		
S249	坏	IV区	Z21	58層	(13.4)	(8.0)	4.3	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色1 外面部：灰色2		
S250	坏	IV区	Z21	58層	(16.8)	(7.9)	4.8	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色1		
第88回												
S251	III	IV区	A18	50層	17.6	12.4	4.3	全体の90%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：灰色2 外面：茶褐色2 見込：茶褐色2 外面部：茶褐色2	焼成にムラ有り	
S252	III	I区	D16		(11.0)	(12.8)	4.4	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：灰褐色3		
S253	III	IV区	Y20	6層	(20.6)	(12.1)	4.1	全体の25%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1		
S254	III	IV区	Y21			13.8	9.0	3.0	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色2	
S255	III	I区	C16		(17.2)	11.8	4.2	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰褐色2		
S256	III	I区	F17	10層	18.1	12.6	3.9	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1		
S257	III	I区	E14	45層	(17.0)	10.8	3.1	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1		
S258	III	I区	F13	10層	(18.8)	(12.8)	4.0	口縁全周の25%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 跡不明	内外面：灰色1		
S259	III	IV区	A19	50層	18.4	13.2	3.4	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：茶褐色2		
S260	III	IV区	A19	6層	(18.3)	(12.2)	3.0	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰褐色5		
S261	III	I区	F13	9層	(18.6)	(14.8)	2.8	全体の25%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 跡不明	内外面：青灰色1		
S262	III	I区	C16	9層	19.0		12.6	3.5	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰褐色1 外間に埋付有り	
S263	III	I区	F13	8層	(16.8)	(12.2)	3.3	全体の25%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色2		

第27表 須恵器 觀察表⑪

番号	器種	グリッド	層位	口径	底径	器高	残存率	調査	色調	施文・備考
S264	皿 IV区	C19	5C層	18.8	14.8	3.3	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1	
S265	皿 I区	D15	34層	(25.2)	(19.8)	3.75	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内面：灰色1、口 縁部黒色 外面：黒色	
S266	皿 I区	F13	10層	(18.8)	(12.8)	(3.5)	全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1	
S267	皿 I区	E14	5B層	(19.8)	(15.0)	(3.7)	II線全周の 10%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰褐色3	
S268	皿 I区	D15	24層	(18.3)	12.8	3.0	全体の40%	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、底部回転糸切り	内外面：白色1 外面黒斑有り 底部外面に擦剥	
S269	皿 IV区	B19	5C層	(19.8)	(16.0)	3.5	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、中央ナデ	内外面：茶褐色1 焼成不良	
S270	皿 IV区	Z21	5B層	(18.6)	(14.0)	4.3	全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1	
S271	皿 IV区	A20	5C層	17.5	13.4	3.3	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部へラ切 り後無ナデ	内外面：灰色1	
S272	皿 I区	D15	9層	(19.4)	(14.0)	2.9	全体の20%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ、底部ナデの為切 り難し放不明	内外面：灰色2	
S273	皿 I区	E14	9層	20.4	15.0	2.6		内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部へラ切 り後無いナデ	内外面に火厚あり	
第28表										
S274	皿 IV区	A22	5C層	10.4	7.0	3.3	全体の30%	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 白色自然釉	
S275	皿 IV区	B21	5B層	(10.5)	(7.7)	3.0	全体の30%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色2 白色自然釉	
S276	皿 IV区	A18	5C層	(9.7)	6.5	3.5	II線全周の 10%	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、中央ナデ	内外面：灰色2 白色自然釉	
S277	皿 I区	F13	9層	(11.8)	(7.4)	2.5	底部全周の 50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 白色自然釉	
S278	皿 I区	G15	11層	(13.2)	(7.0)	2.8	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 白色自然釉	
S279	皿 I区	B15		14.8	11.9	2.4	全体の70%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰褐色4 外面の一帯に白斑	
S280	皿 IV区	B19	5C層	13.2	9.0	2.2	全体の50%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 白色自然釉	
S281	皿 I区	D15	9層	(14.6)	(11.0)	2.6	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 白色自然釉	
S282	皿 I区	F17	10層	14.1	11.5	2.5	全体の80%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰褐色2 白色自然釉	
S283	皿 I区	E15	3B層	(13.1)	(9.0)	2.0	全体の30%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 白色自然釉	
S284	皿 I区	F13	10層	(14.0)	10.0	2.5	全体の10%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 白色自然釉	
S285	皿 I区	D16	9層	15.2	11.0	2.4	全体の50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 白色5	
S286	皿 IV区	Y21	5C層	13.8	8.5	2.5	全体の50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 白色5	
S287	皿 IV区	A18	5C層	13.8	10.4	2.6	全体の90%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：青灰色2 白色5	
S288	皿 IV区	B19	5C層	15.0	9.0	2.5	全体の95%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 白色5	
S289	皿 I区	B15	24層	(13.8)	9.0	2.5	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 白色5	
S290	皿 I区	B15	9層	(14.8)	(10.0)	2.9	全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転糸 切り	内外面：灰色1 白色5	

第28表 須恵器 観察表②

番号	器種	埋没	グリッド	層位	口径	底径	高さ	残存率	調査	色調	繪文・備考
S291	壺	Ⅳ区	Z21	7層	(14.4)	11.6	2.3	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：青灰色2	
S292	壺	I区	E14	48層	13.5	10.4	2.3	全体の90%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：灰色1	
S293	壺	IV区	A21	7層	(13.8)	(8.0)	2.5	全体の40%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：灰色1	
S294	壺	IV区	Z20	7層	16.0	11.5	12.6	全体の60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内面：茶褐色1 外面：体部灰褐色1 底部：茶褐色1	
S295	壺	I区	G15	11層	13.2	9.8	2.7	底部全周の40%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：灰色1	
S296	壺	I区	G13	10層	15.0	11.9	2.2	全体の50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：青灰色1	
S297	壺	IV区	A19	50層	14.6	13.0	2.7	全体の95%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り後ナデ	内外面：灰色1	
S298	壺	IV区	A19	50層	13.3	10.0	2.7	全体の90%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：灰色1	
S299	壺	IV区	Z20	50層	14.2	9.3	2.4	全体の50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り後ナデ	内面：茶褐色1 外面上半：茶褐色1 下半灰色1 燒成不良	
S300	壺	I区	G14	10層	(15.0)	(10.5)	2.3	全体の30%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：灰色1	
S301	壺	I区	F17	11層	14.4	12.0	2.0	全体の70%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り後ナデ	内外面：灰色1	
S302	壺	IV区	B17	3A層	(13.8)	(7.4)	1.5	全体の50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：青灰色1	
S303	壺	IV区	A19	50層	(15.8)	(9.4)	2.0	全体の25%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：灰色1	
第90回											
S304	高壺	I区	F15	12層	(11.6)	(9.8)	10.6	全体の60%	环部内面：体部回転ナデ、中央ナデ 环部外面：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ	内外面：灰色1	
S305	高壺	I区	F13	11層		11.2		全体の70%	环部内面：体部回転ナデ、中央ナデ 环部外面：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ	内外面：灰色2	
S306	高壺	I区	E15		10.7			全体の50%	环部内面：体部回転ナデ、中央ナデ 环部外面：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ	内外面：灰色1 歪み有り	
S307	高壺	I区	F13	11層	(14.3)	8.8	8.8	全体の70%	环部内面：体部回転ナデ、見込ナデ 环部外面：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ	内外面：青灰色1 三角二方透かし	
S308	高壺	IV区	Y21	50層		10.6		全体の80%	内外面：回転ナデ	内外面：灰色1 白色自然釉	
S309	高壺	IV区	R21	7層		9.4		全体の60%	环部内面：体部回転ナデ、見込ナデ 环部外面：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ 脚部外面：回転ナデ	内外面：灰色1 三角一方透かし 切れ口一方	
S310	高壺	I区	F13	9層		(10.2)		全体の30%	内面：环部見込ナデ、脚部回転ナデ 外面：脚部ナデ	内外面：青灰色3 一角形二方透かし	
S311	高壺	I区	F13	11層		9.6		底部全周の70%	环部内面：体部回転ナデ、中央ナデ 环部外面：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ	内外面：青灰色2 三角二方透かし	
S312	高壺	I区	F15	11層		8.6		底部全周の80%	环部内面：体部回転ナデ、中央ナデ 环部外面：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ	内外面：灰色1 円形二方透かし	
S313	高壺	I区	C16	10層		9.5		全体の60%	环部内面：体部回転ナデ、見込ナデ 环部外面：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ	内外面：青灰色1 切り込み二方	
S314	高壺	I区	F15	10層		9.3		全体の40%	环部内面：体部回転ナデ、中央ナデ 环部外面：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ	内外面：灰色1 切れ口二方 肩と輪台	
S315	高壺	I区	F15	11層		13.4	(8.1)	全体の70%	环部内面：体部回転ナデ、見込ナデ 环部外面：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ	内外面：灰色1	
S316	高壺	I区	F13	11層		11.2		底部全周の60%	环部内面：体部回転ナデ、中央ナデ 环部外面：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ	内外面：灰色2 一角二方透かし 白色自然釉	

第29表 須恵器 觀察表⑬

番号	機種	種類	グリッド	部位	口径	底座	幅高	残存率	調 整	色 調	施文・備考
S317	高坏	I区	FI3	10層	(15.2)	9.1	11.8	全体の70%	環部内面：体部回転ナデ、見込ナデ 环部外側：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ	内外面：青灰色2	切り込み二方
S318	高坏	I区	FI3	10層	(12.9)	13.8		全体の80%	環部内面：体部回転ナデ、見込ナデ 环部外側：体部回転ナデ 脚部外側：回転ナデ	内外面：灰色1	二角二方透かし
S319	高坏	I区	FI3	10層	(11.4)	12.8		全体の50%	環部内面：体部回転ナデ、見込ナデ 环部外側：体部回転ナデ 脚部外側：回転ナデ	内外面：灰色1	二角透かしを直下第三角、片上段切込下斜二角

第30表

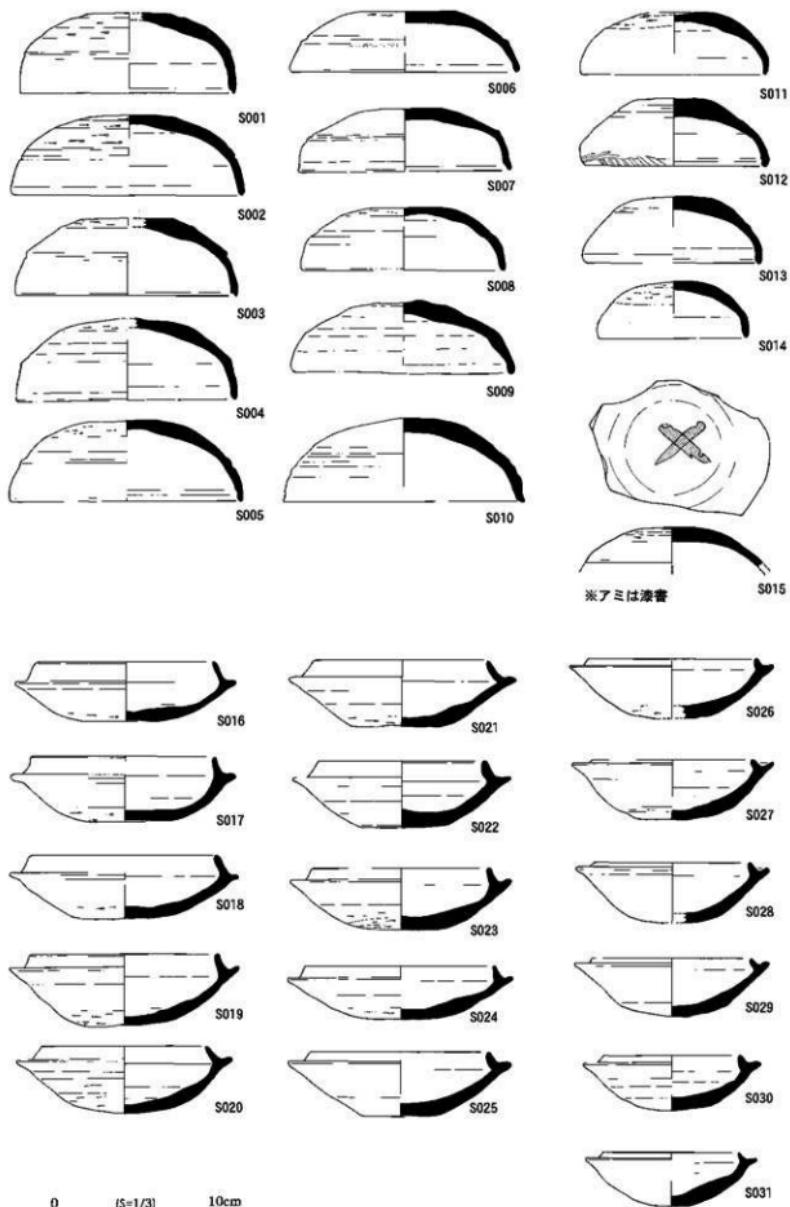
S320	高坏	IV区	Y11	7層	(23.8)		11様全周の35%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転ヘラケズミ	内外面：灰色1		
S321	高坏	I区	E14	9層			环部で30%	内面：見込ナデ 外面：回転ナデ	内面：灰色1 外面：茶褐色2		
S322	高坏	I区	BI5	9層	(24.8)		全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：回転ナデ、裏面一層削除ヘラケズミ 回転ナデ	内外面：灰色1		
S323	高坏	I区	GI4	10層	(1.5.8)		全体の40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 环部外側：体部回転ナデ 脚部内面：回転ナデ	内外面：青灰色2		
S324	高坏	I区	GI5	11層		13.2	全体の50%	内面：中央ナデ 环部外側：体部回転ナデ 脚部外側：回転ナデ	内外面：灰色1		
S325	鉢	I区	E15		(21.8)	(8.6)	全体の23%	内面：回転ナデ、体部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ナデ、底部回転ヘラケズミ、底面ナデ	内外面：灰色1		
S326	鉢	IV区	B19	3C層	26.8		11.2	全体の70%	内面：体部回転ナデ、底面ナデ 外面：体部回転ナデ、体部手すり回転ヘラケズミ	内外面：灰色1	白色自然釉
S327	鉢	I区	E14	9層	(17.3)	(9.8)	8.13	口縁全周の15%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：青灰色1 外面上半：灰色2	
S328	鉢	IV区	C19	5C層	(20.4)	13.0	9.4	全体の60%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り後ナデ	内外面：青灰色1	
S329	鉢	I区	GI5	10層	(20.8)	(9.9)	10.6	全体の20%	内外面：回転ナデ	内外面：上下灰色1 2、下半灰色1	
S330	鉢	I区	E14	34層	(21.8)		5.6	底部全周の15%	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内外面：灰色1 外界面縁部：墨色	
S331	鉢	I区	F15	11層	(20.4)	14.0	10.0	全体の40%	内面：回転ナデ、E15ナデ 外面：回転ナデ、底面ナデの取り替し後納得	内外面：灰色2	
S332	鉢	I区	FI3	10層				全体の5%	内外面：回転ナデ	内外面：灰色2	外面に火葬

第31表

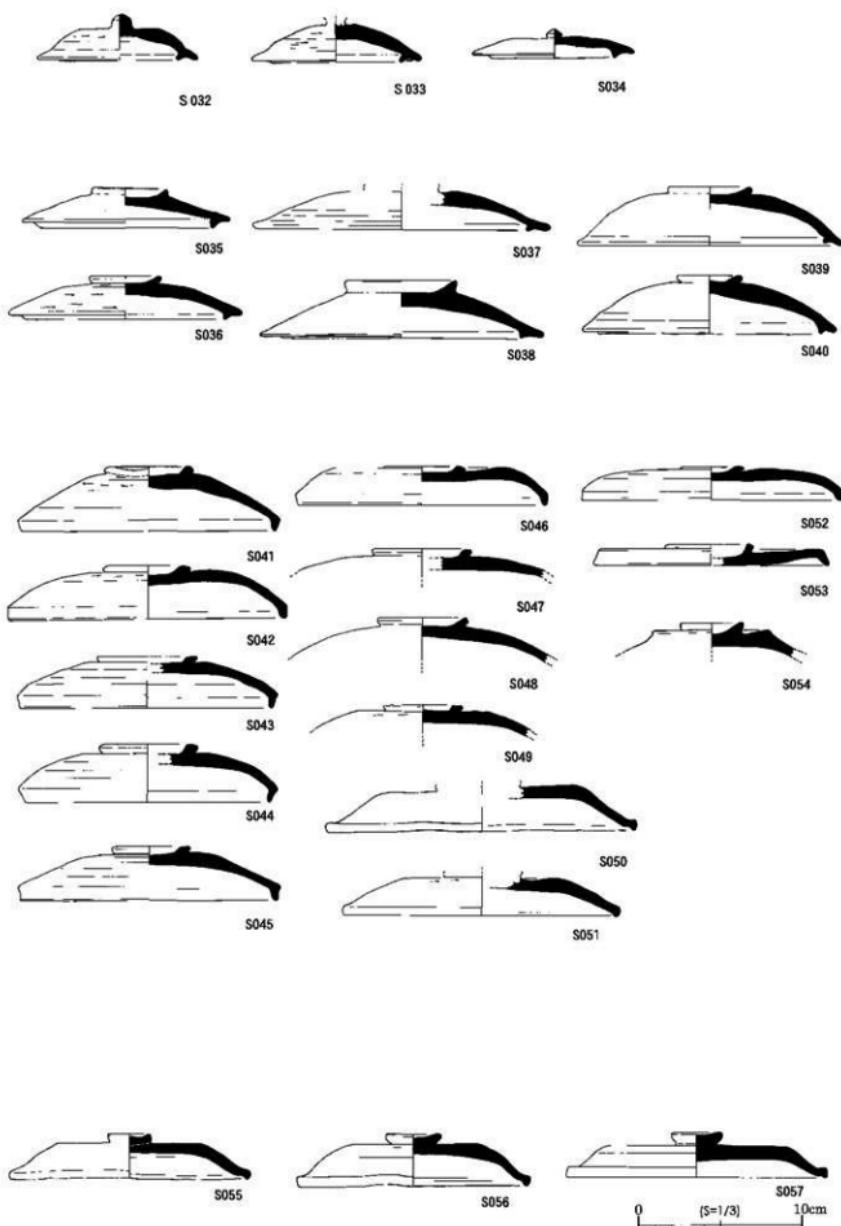
S333	施	I区	C16	10層			全体の80%	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、下端回転ヘラケズミ	内外面：灰色1	
S334	施	IV区	C20	3C層		4.5	全体の30%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、体部下から1/3 回転ヘラケズミ	内外面：青灰色1	
S335	施	I区	E14			9.2	全体の75%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、施部へ切り後ナデ	内外面：青灰色1	
S336	施	I区	E14			(5.0)	全体の20%	内面：回転ナデ 外面：体部手すり回転ナデ、体部ドヘラケズミ、足跡削除余切り	内外面：灰褐色4	武部外面にヘラ記号
S337	施	IV区	Y21	5B層		5.6	全体の75%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：灰色1	
S338	施	IV区	Z20	3C層		5.8	全体の30%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：灰褐色5	
S339	施	IV区	R18	3C層		5.8	底部全周の80%	内面：体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り	内外面：灰色1	外面部部：白色自然釉
S340	観か	I区	E16	8層			上下横大、全周の25%	内面：ナデ	内外面：灰色1	白色自然釉、外沿灰斑者
S341	坏	I区	9973		(11.8)		11様全周の12%	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ、ナデ(底手厚2.5)？	内外面：灰色1	把手付き
S342	平版	I区	D16			7.5	全体の80%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデ	内外面：灰色1	
S343	煮	I区	E15		(4.3)	(5.9)	5.2 全体の20%	内面：回転ナデ	内外面：茶褐色2	白色自然釉
S344	煮	I区	F15	10層		5.6	底部全周の90%	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデのため 切り離し根付無	内外面：灰色1	内外面に白色、根付有
S345	煮	I区	D15	9層	(7.6)		全体の15%	内面：回転ナデ	内外面：青灰色2	
S346	煮	I区	E15		(6.5)	(5.9)	8.3 全体の50%	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ、底部回転余切り、トヨナ 部ヘラケズミ	内外面：灰色2	

第30表 須恵器 観察表④

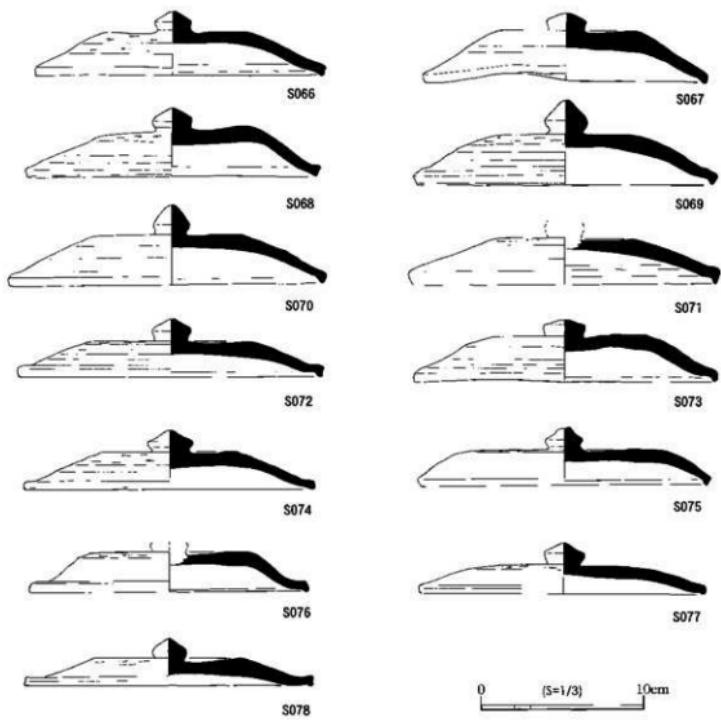
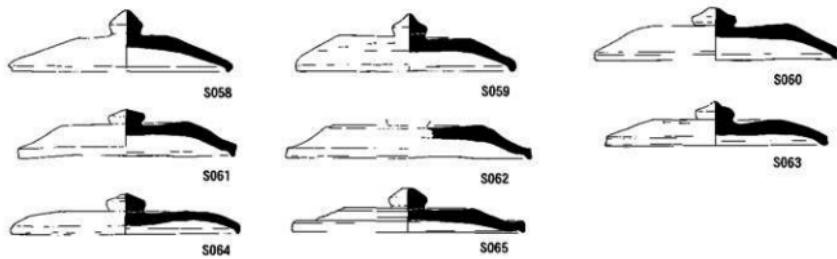
番号	器種	覆面	グリッド	層位	口径	底径	高さ	残存率	調 整	色 調	説文・備考
S347	壺	I区	F14	21層				全体の10%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：回転ヘラケズリ	内外面：灰色2	底部外面にヘラ書き
S348	壺	I区	F15	11層	(9.0)			全体の30%	内外面：回転ナデ	内外面：灰色1	緑色自然釉 屋部2 肩部に2条の沈線
S349	壺	IV区	Z20	58層		12.5		全体の70%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、下端回転ヘラケズリ、底部ナデの為切り離し痕不明	内外面：青灰色1	白色、緑色自然釉
第93回											
S350	壺	I区	E14	9層	11.8			頭部から口 縁部で60%	内外面：回転ナデ	内面：灰色2 外面：黑色	内外面に白色自然釉
S351	壺	IV区	Z21	6層	12.2			頭部～口縁 部の90%	内外面：回転ナデ	内外面：灰色2	白色自然釉
S352	壺	I区	D15	34層	(12.8)			口縁から肩 部で30%	内外面：回転ナデ	内外面：青灰色2	
S353	壺	IV区	A21	50層	11.4			頭部～口縁 部の85%	内外面：回転ナデ	内外面：灰色1	焼成不良
S354	壺	IV区	Z21	58層	9.6			全体の50%	内外面：回転ナデ	内外面：青灰色2	
S355	壺	IV区	Z20	50層		11.0		底部全周の 50%	内面：体部回転ナデ、中央ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	内面：青灰色1 外面：青灰色2	
S356	壺	IV区	Z21	58層		11.0		高台全周の 80%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、体部下から 1/3回転ヘラケズリ	内外面：青灰色2	白色自然釉
S357	壺	I区		(8.8)	8.9	17.5		全体の90%	内外面：回転ナデ	内外面：青灰色3	
S358	壺	I区	F17	10層				体部～颈部 の20%	内外面：回転ナデ	内外面：灰褐色2	颈部・肩部に自然 釉
S359	壺	IV区	B20	50層	(15.8)			口縁全周の 30%	内外面：回転ナデ	内面：茶褐色2 外面：黒	白色自然釉
S360	壺	I区	E14	34層				口縫部から肩 部にかけて全 周の10%	内外面：回転ナデ	内外面：茶褐色2	
S361	壺	IV区	B19	50層		10.8		底部全周の 70%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、底部ナデの 為切り離し痕不明	内外面：灰色1	
第94回											
S362	長颈瓶	I区	F12	(13.0)	(8.2)	29.5		全体の30%	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	内外面：灰褐色3	頸部に2条の沈線、 白色自然釉
S363	壺	I区	G14	10層		9.8		底部全周の 70%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、下端回転ヘラケズリ、 底部ナデの為切り離し痕	内外面：灰色1	
S364	壺	I区	E14			6.8		全体の30%	内面：回転ナデ 外面：体部回転ナデ、下端から底 部回転ヘラケズリ	内外面：灰色1	内面中央に白色自 然釉
S365	壺	I区	F16	8層		11.2		底部全周の 100%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、下端回転ヘラケズリ、 底部ナデの為切り離し痕	内外面：灰色1	内面見込と外面一部 に白色自然釉、内面 の一部に朱付器。
S366	壺	I区	D16	10層		9.2		高台～体部 の30%	内面：体部回転ナデ 外面：高台上半回転ヘラケズリ、 底部ナデの為切り離し痕	内外面：灰色1	
S367	壺	IV区	C19	50層				底部全周の 60%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、体部下から 1/3回転ヘラケズリ	内面：青灰色1 外面：青灰色2	白色自然釉
S368	壺	IV区	Z19	58層		32.0		底部全周の 40%	内面：体部回転ナデ、見込ナデ 外面：体部回転ナデ、下端部～側面回転 ヘラケズリ、底部ヘラカタナデ	内外面：青灰色1	煤付器
S369	壺	IV区	A20	50層		17.6		全体の70%	内面：回転ナデ 外面：体部下半1/3回転ヘラケズリ	内外面：青灰色1	
第95回											
S370	壺	I区	G15	10層	29.4			頭部～口縁 部の75%	内外面：口縫部回転ナデ、体部タ キ	内外面：灰白色1	空気が入って焼成 不良 内外面に白 黒釉
S371	壺	IV区	D19	50層	14.4		28.2	全体の40%	内外面：口縫部回転ナデ、体部タ キ		
S372	壺	I区	F13	11層	(20.9)			全体の40%	内面：口縫部回転ナデ、両部以下 開口部付近で月見 外面：口縫部回転ナデ、肩部以下 底部ヘラカタナデ	内外面：灰褐色5	外面口縫部～肩部 自然釉



第79図 須恵器実測図①



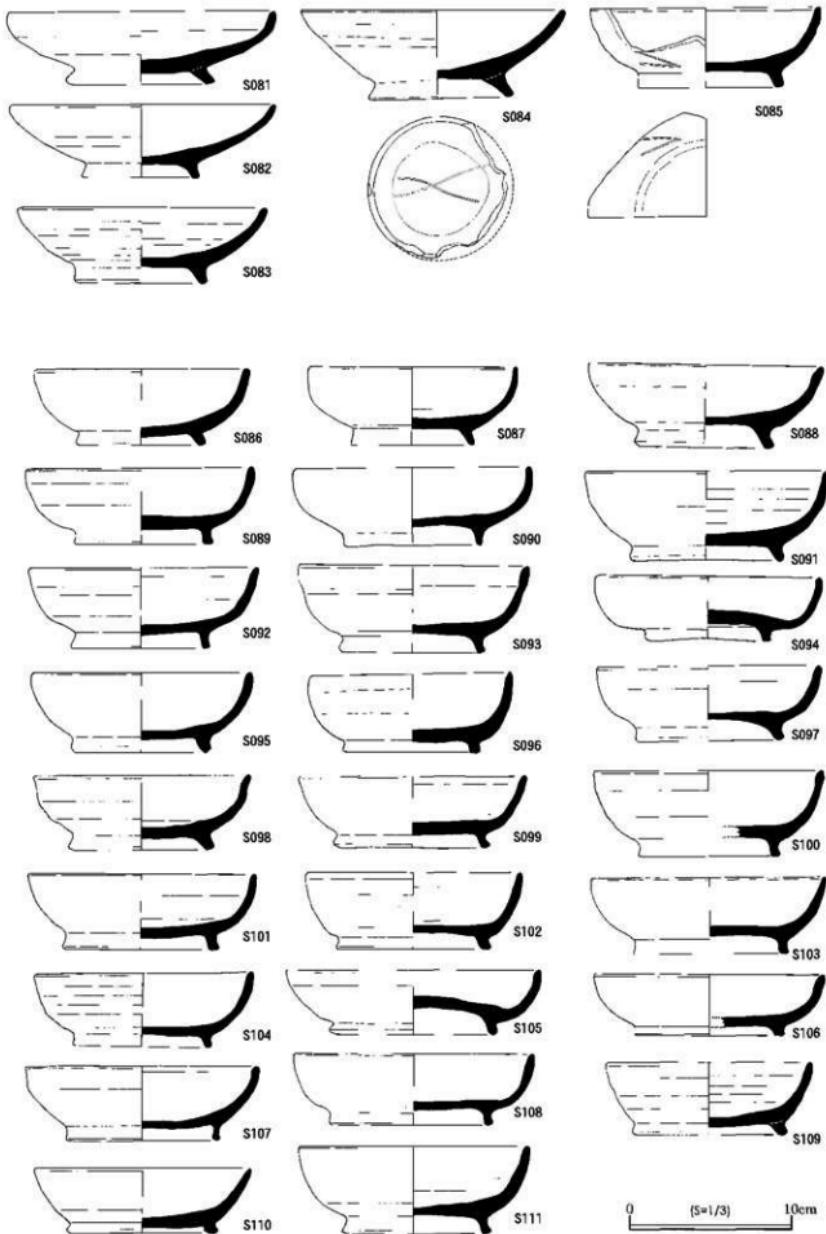
第80図 須恵器実測図②



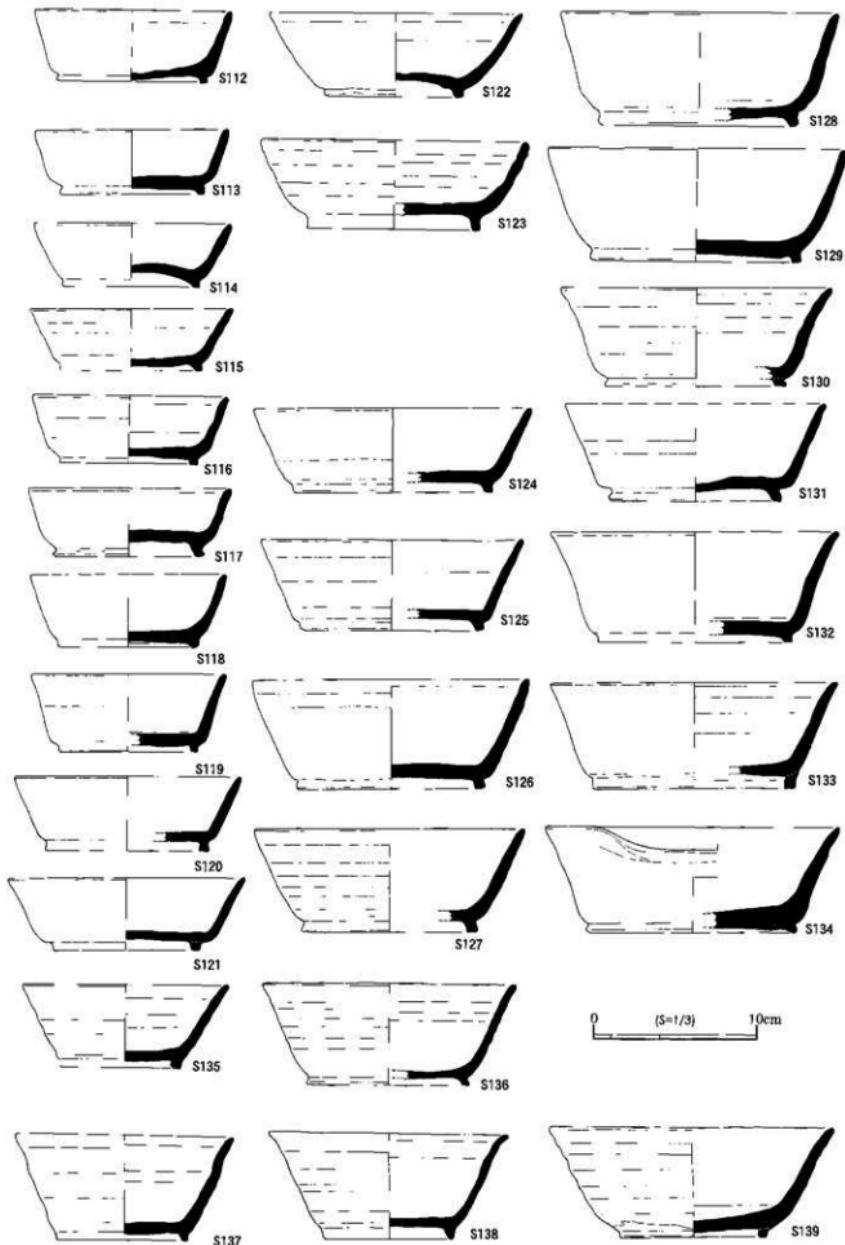
0 [S=1/3] 10cm



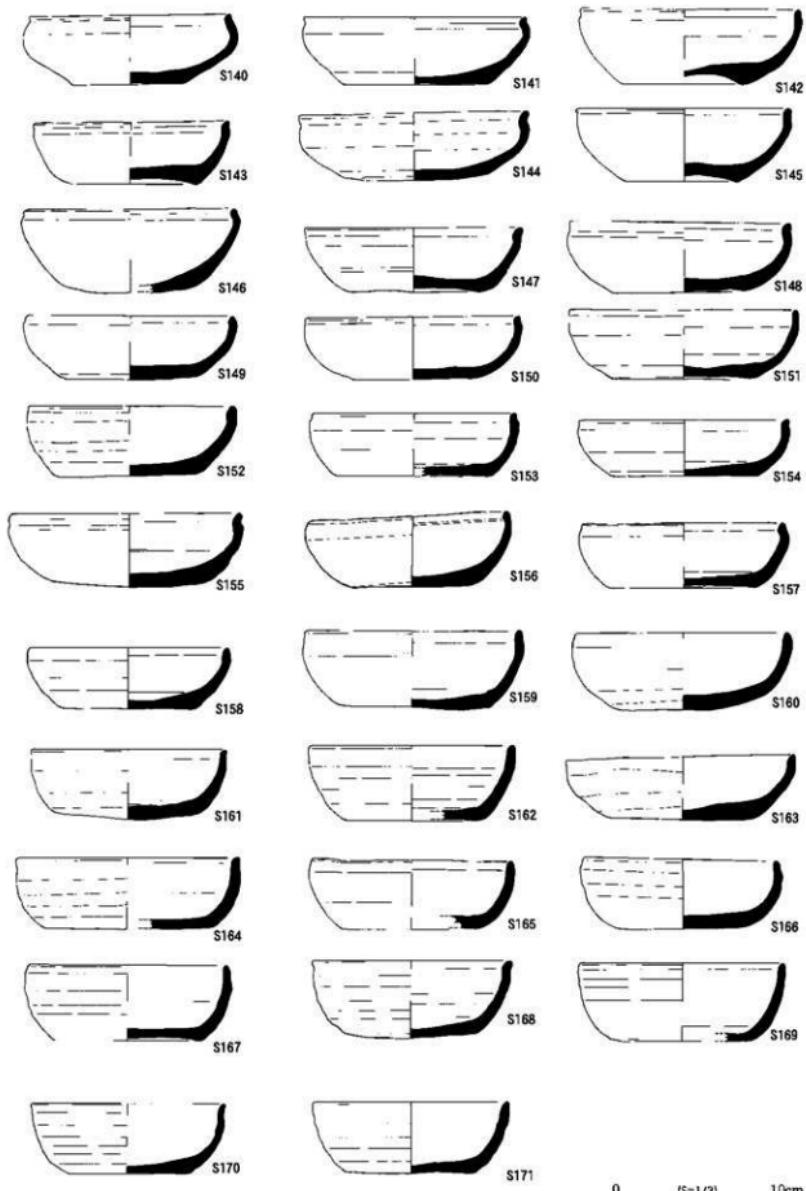
第81図 須恵器実測図③



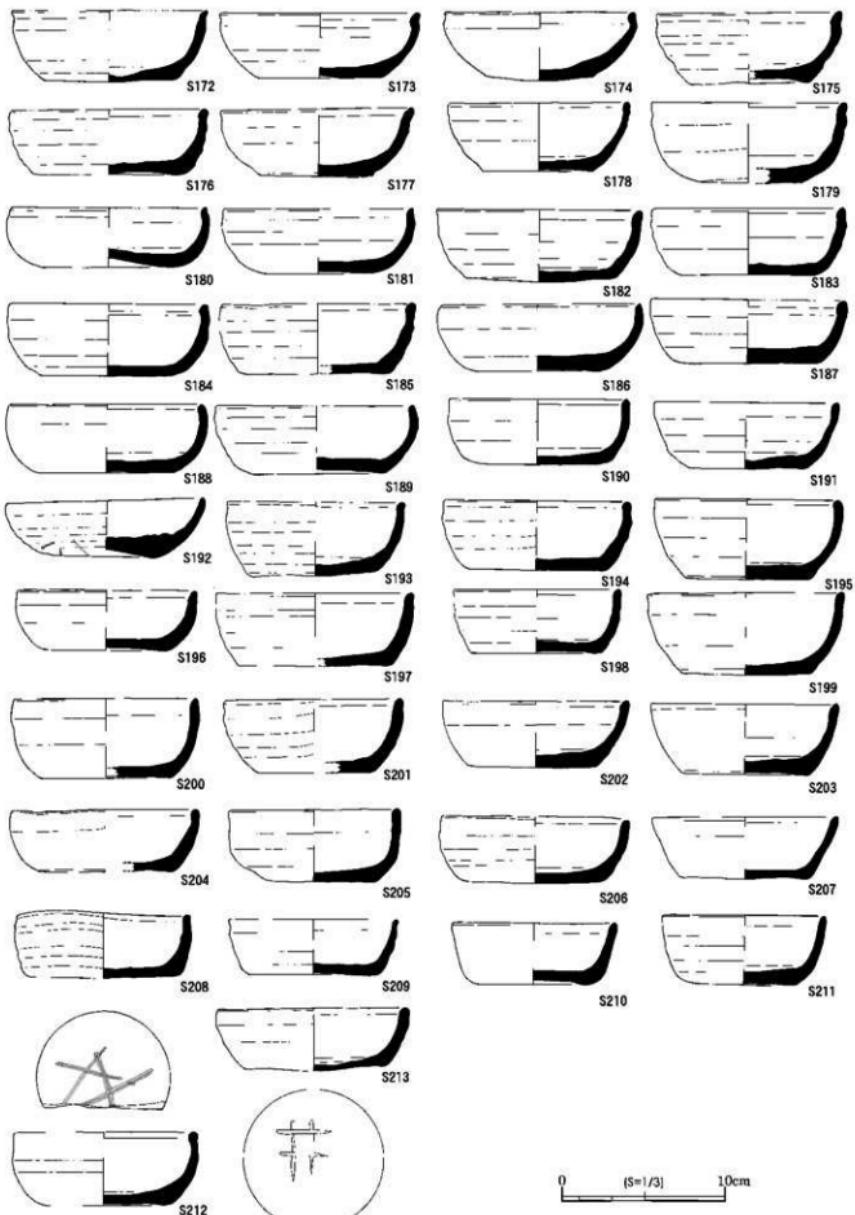
第82図 須恵器実測図④



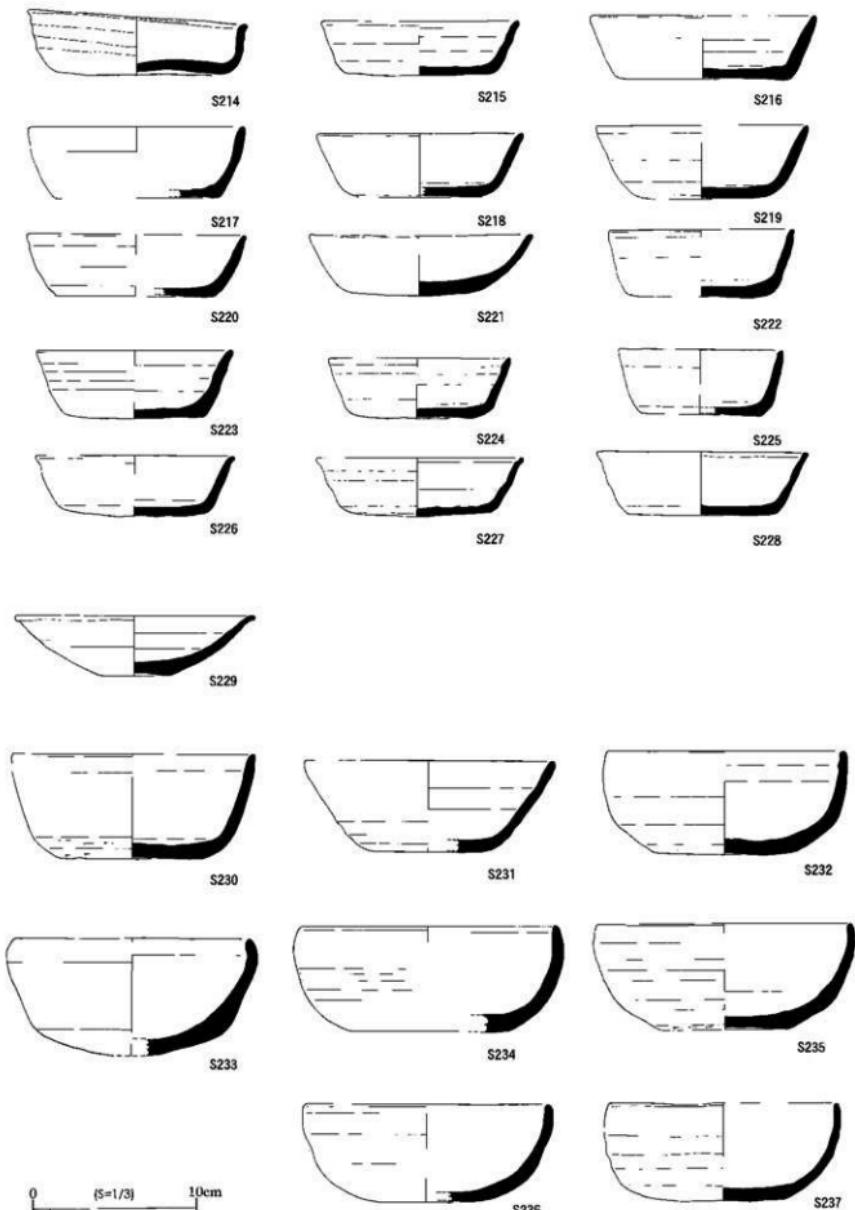
第83図 須恵器実測図⑤



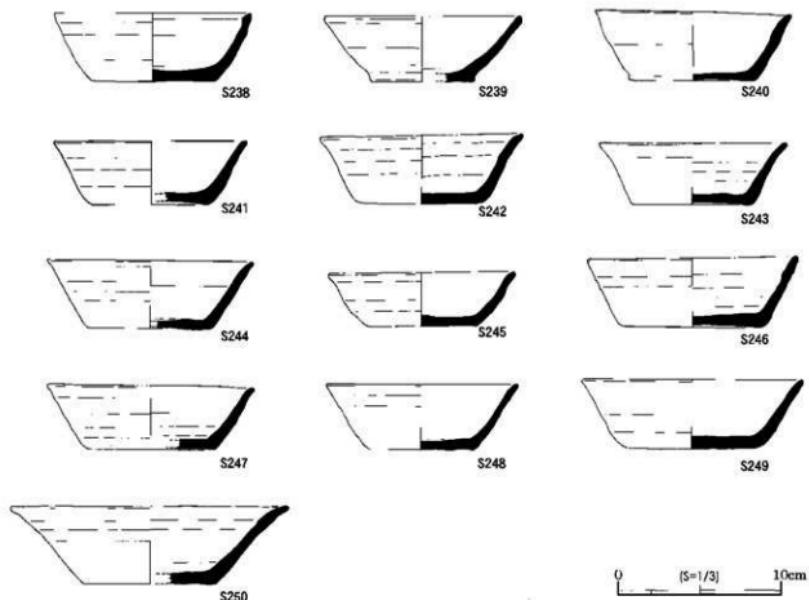
第84図 須恵器実測図⑥



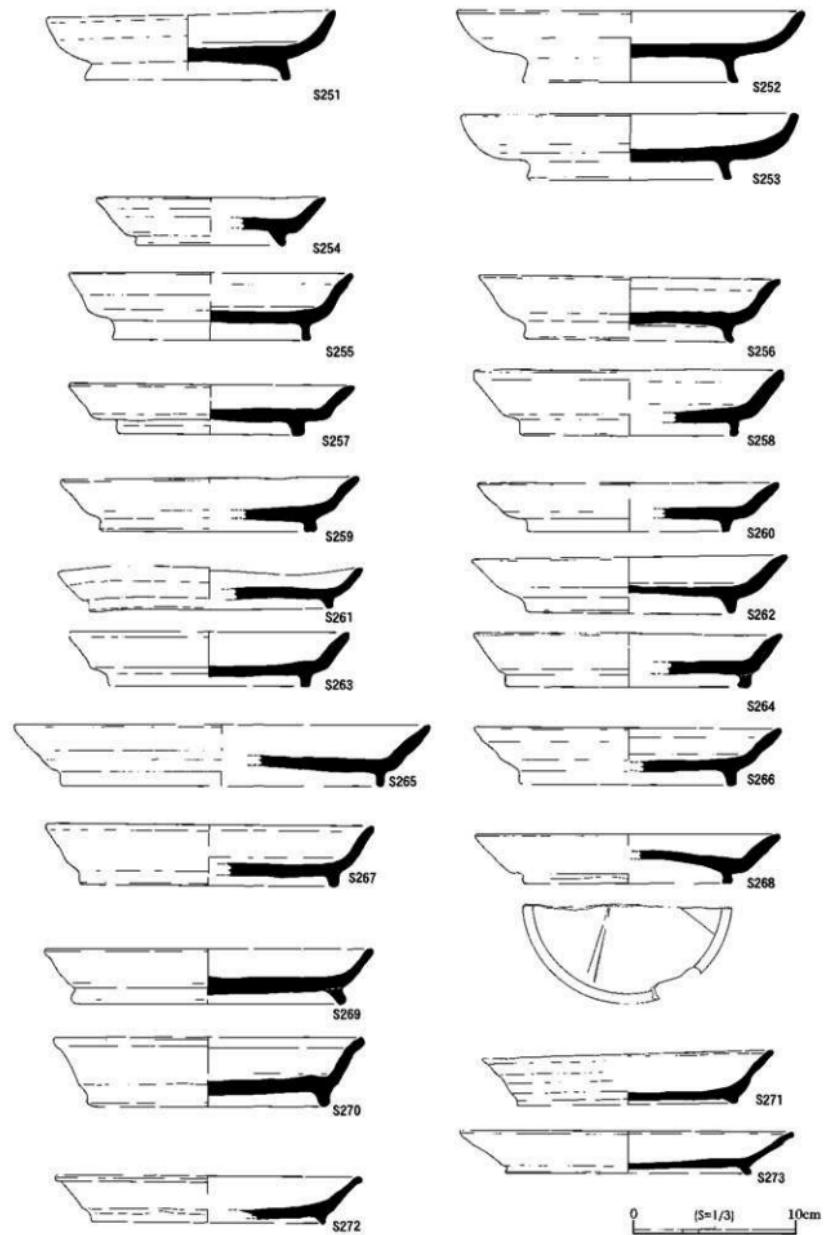
第85図 須恵器実測図⑦



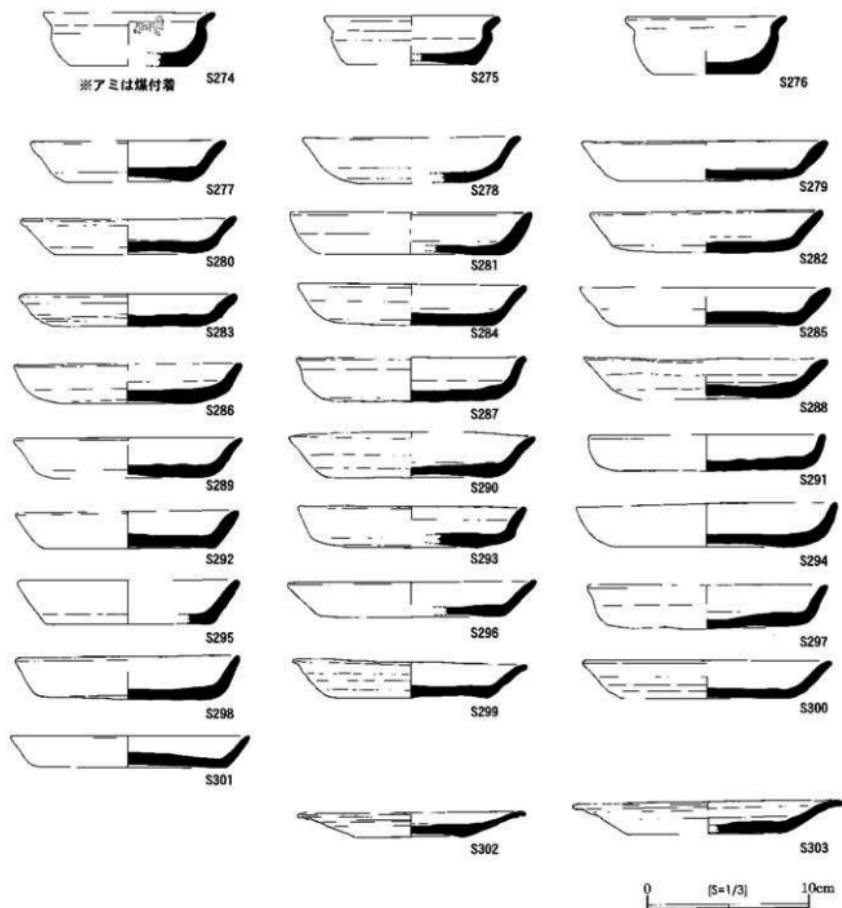
第86図 須恵器実測図⑧



第87図　須恵器実測図⑨



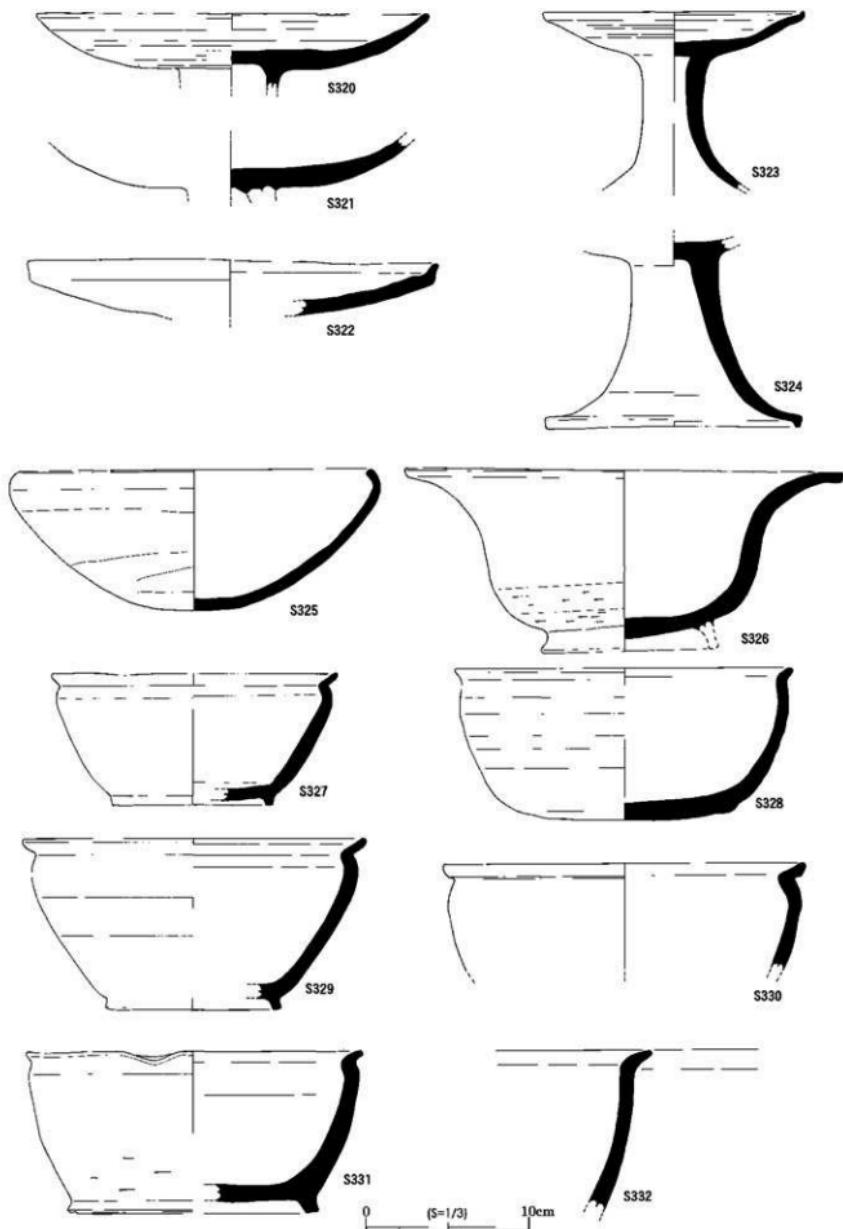
第88図 須恵器実測図⑩



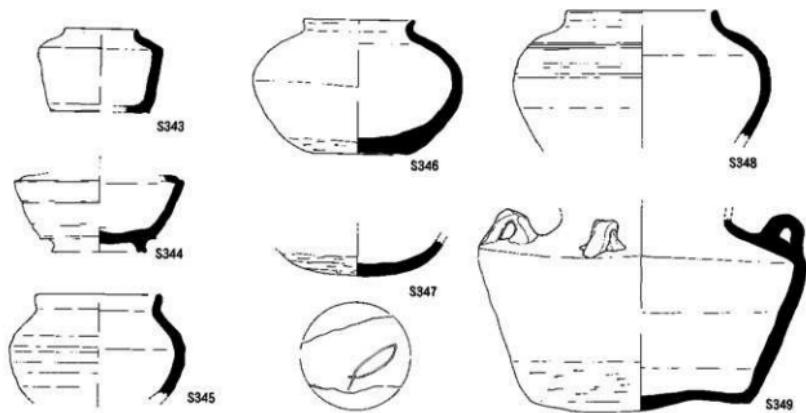
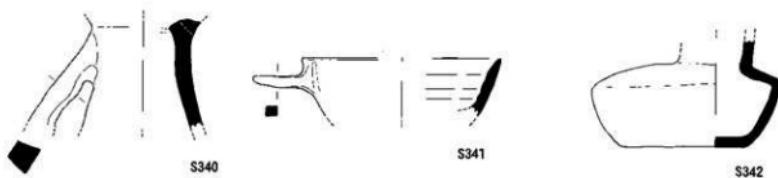
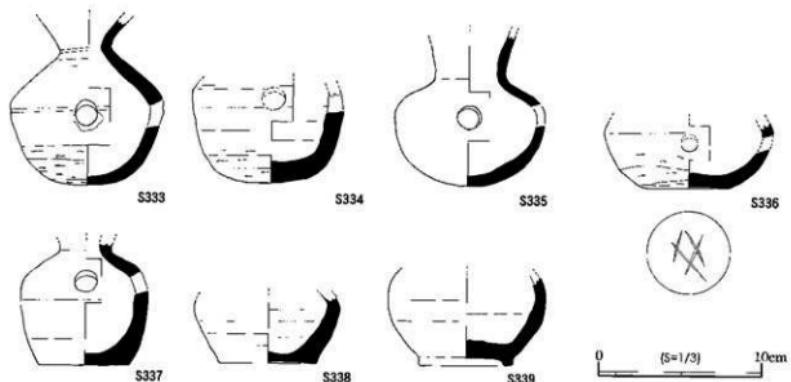
第89図　須恵器実測図⑪



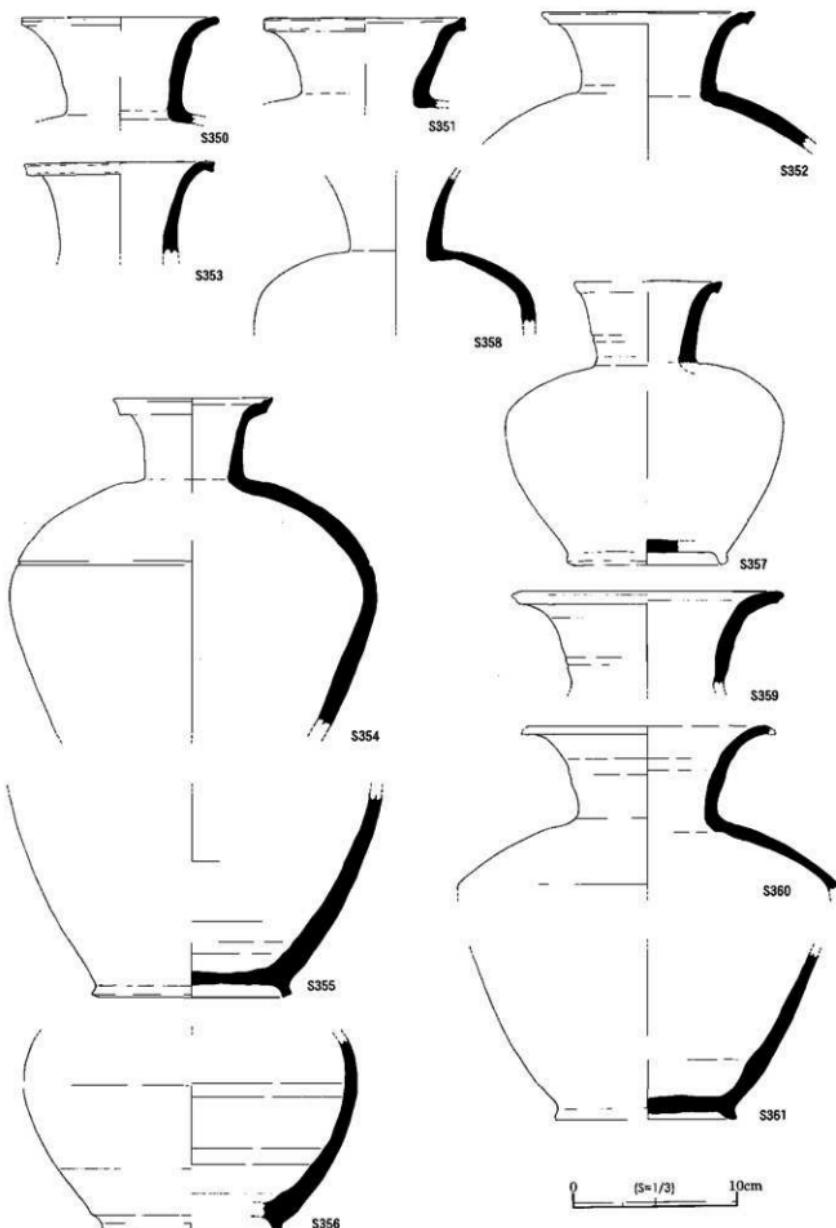
第90図 須恵器実測図⑫



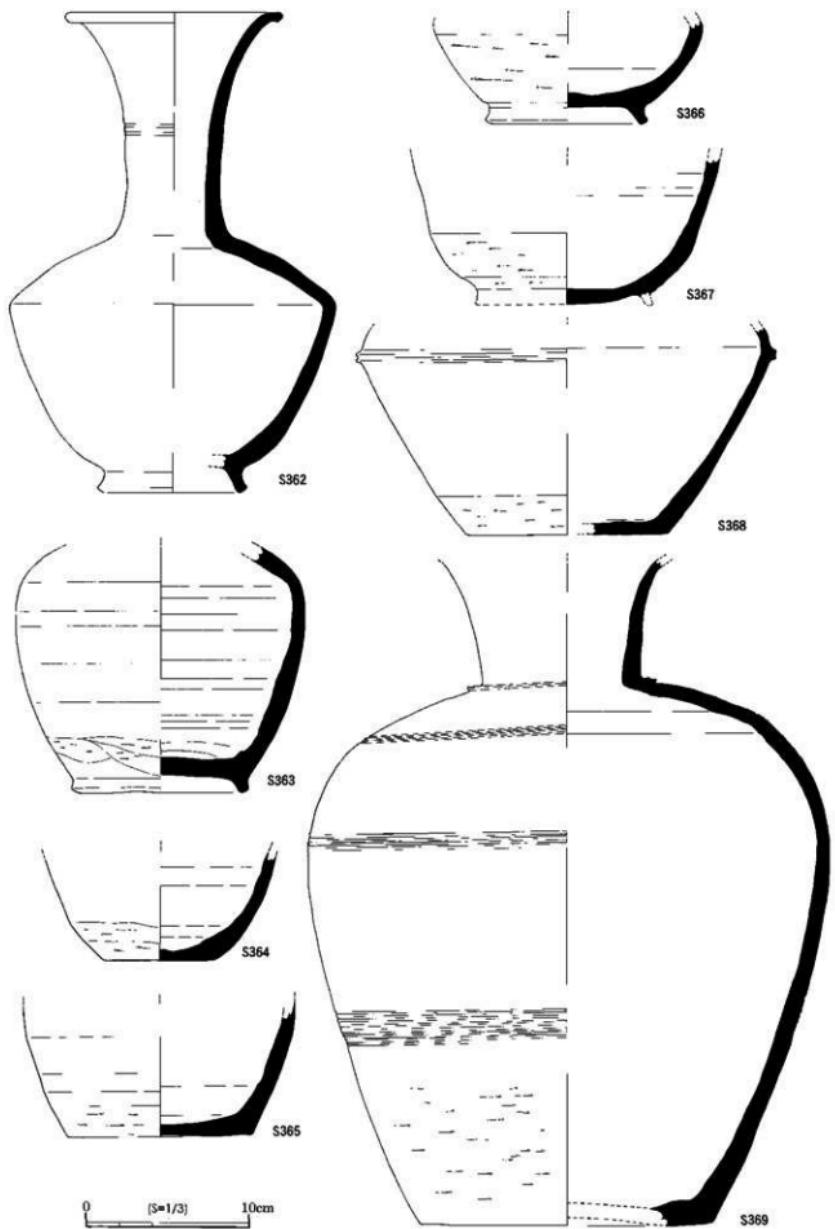
第91図 須恵器実測図⑬



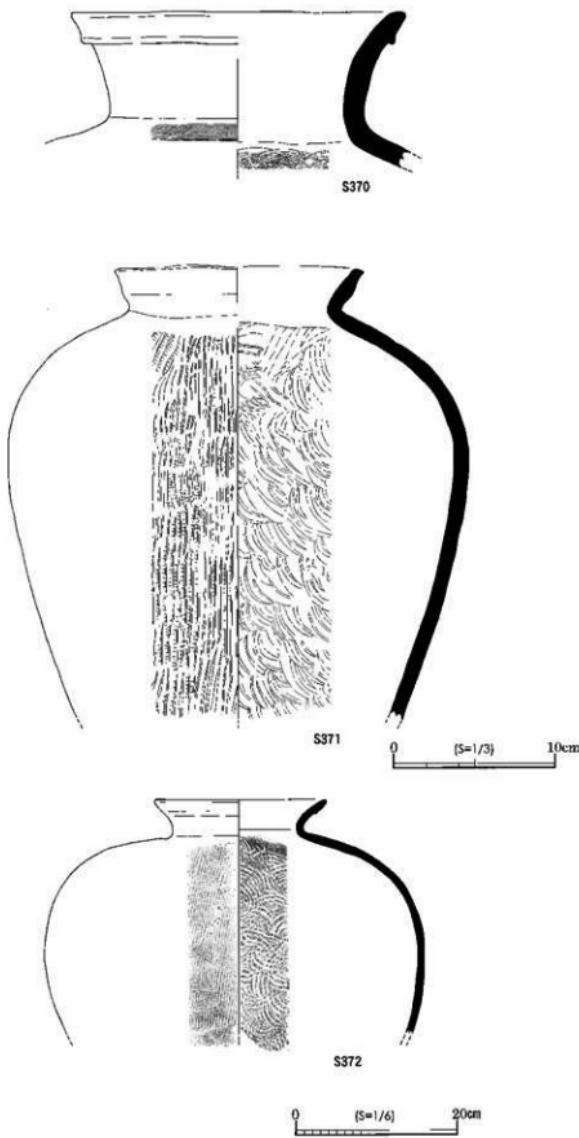
第92図 須恵器実測図⑭



第93図 須恵器実測図⑯



第94図 須恵器実測図⑯



第95図 須恵器実測図⑰

写真図版八五

須恵器／坏蓋



S001



S007



S002



S008



S003



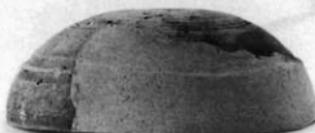
S009



S004



S010



S005



S011



S006



S012

写真図版八六
須恵器／坏蓋・坏身

S013



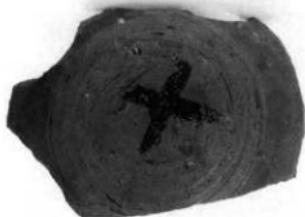
S016



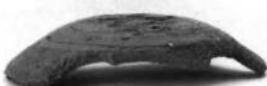
S014



S017



S018



S015



S019



S020



S021

写真図版八七
須恵器／杯身



S022



S028



S023



S029



S024



S030



S025



S031



S026



S027

写真図版八八
須恵器／蓋

S032



S039



S033



S040



S034



S035



S041



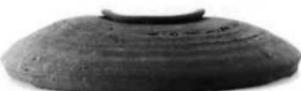
S036



S042



S037



S043



S038



S044

写真図版八九
須恵器／蓋



S045



S052



S046



S053



S047



S054



S048



S055



S049



S050



S056



S051



S057

写真図版九〇
須恵器／蓋



S064



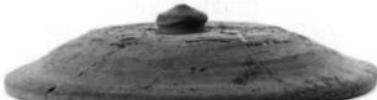
S058



S065



S059



S066



S060



S067



S061



S068



S062



S069